COASTER

取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

はじめに

このたびはトヨタ コースターをお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書はトヨタ コースターを安全・快適にお使いいただくため、ドライバーの動作にそって各部の取り扱いを説明しています。
また、お車の手入れ、万一のときの応急処置、快適ドライブ情報などについても記載していますので、ご使用前に必ずお読みください。

●安全・快適ドライブのため「まず読みましょう」は重要ですのでしっかりお読みください。

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」とその回避方法を下記の表示で記載しています。これらは安全のために重要ですので、必ず読んで遵守してください。

⚠警告	記載事項をお守りいただかないと生命にかかわるような重大な傷害、事故につながるおそれがあること
⚠注意	記載事項をお守りいただかないと、傷害、事故につながるおそれがあること

お車のために必ず守っていただきたいことや、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

アドバイス	お車の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと お車が故障したときにしていただきたいこと
知 識	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

●グレード等により装備が異なる項目は★マークで表示しています。
●本書では、新計量法の施行に伴い国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を ｛ ｝ 内に記載してあります。
●保証および点検・整備については「メンテナンスノート」に記載していますのであわせてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●**ナビゲーションシステム、ＤＶＤ／ＣＤプレーヤー**を装着されたかたは別冊の取扱書もあわせてご覧ください。
●トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店装着オプション）の取り扱いについては添付されている取扱書をご覧ください。

●お車をゆずられるときは次のオーナーのために本書をお車につけておいてください。
●ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

CONTENTS

目　次

目　次

3 操作装置 63

4 快適装備 125

5 車との上手な付き合いかた 173

6 手入れ、メンテナンスデータ 183

7 万一のとき 221

■さくいん 253

■イラスト目次

車両外観

※装備のちがい、注文装備等も含んでいます。

インストルメントパネル

①②③④⑤
⑥⑦⑧⑨⑩⑪

運転席周辺

※装備のちがい、注文装備等も含んでいます。

室内（運転席／助手席）

※装備のちがい、注文装備等も含んでいます。

室内全体

バス（幼児車を除く）

※装備のちがい、注文装備等も含んでいます。

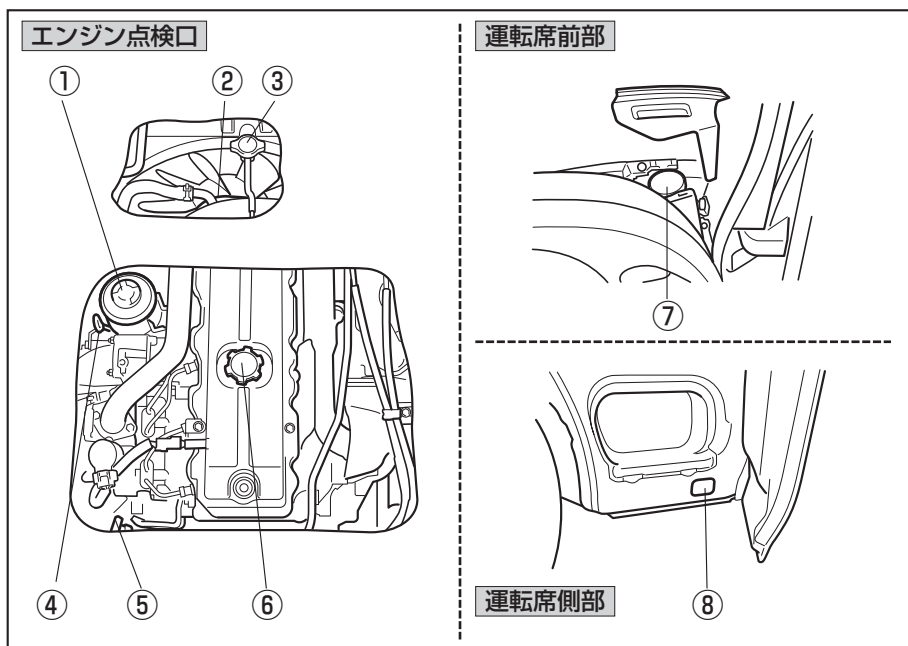
バス（幼児車）

※装備のちがい、注文装備等も含んでいます。

バン

※装備のちがい、注文装備等も含んでいます。

エンジンルーム

N04C－UPエンジン搭載車（4.0L・ディーゼルターボ車）
N04C－VFエンジン搭載車（4.0L・ディーゼルターボ車）

①パワーステアリングフルードタンク

②Vベルト ……………………………… 「Vベルトたわみ量」　211 ページ

③ラジエーターキャップ ………… 「オーバーヒートしたときは」　244 ページ

④エンジンオイルレベルゲージ ……………※「エンジンオイル量」　215 ページ

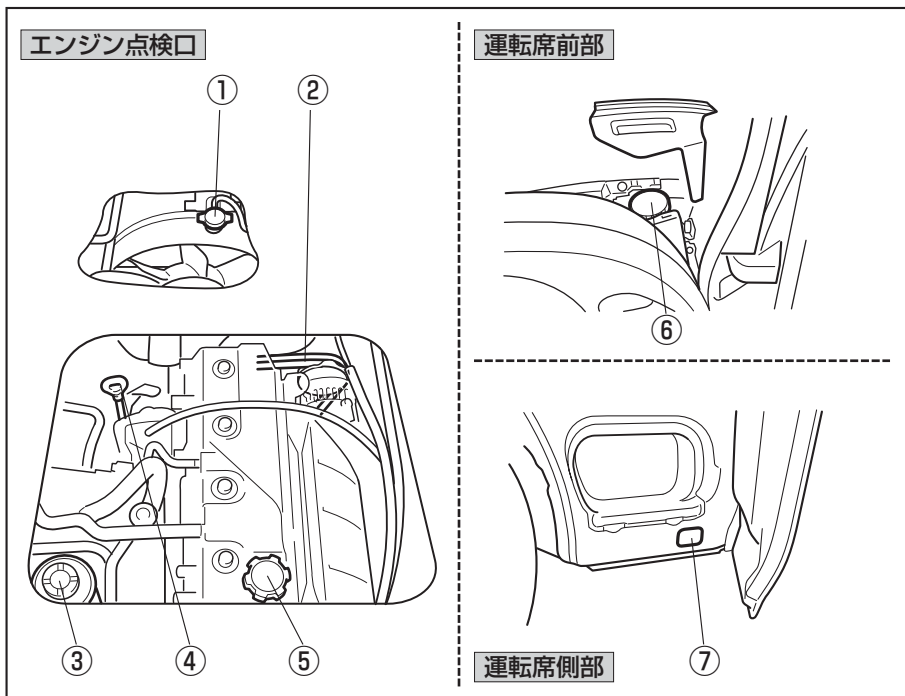
⑤オートマチックトランスミッションフルードレベルゲージ
…………… 「オートマチックトランスミッションフルード量」　214 ページ

⑥エンジンオイル注入口 ……………………※「エンジンオイル量」　215 ページ

⑦ブレーキフルードリザーバータンク 兼 クラッチフルードリザーバータンク…※

⑧冷却水リザーバータンク（ラジエーター補助タンク）
……………………………………※「オーバーヒートしたときは」　244 ページ

※印は日常点検整備に関連する部品です。
　エンジンオイルの点検要領は**188ページ**を参照してください。

１ＢＺ－ＦＰＥエンジン搭載車（4.1Ｌ・ＬＰＧ車）

①ラジエーターキャップ …………　**「オーバーヒートしたときは」**　244 ページ
②Ｖベルト ……………………………………　**「Ｖベルトたわみ量」**　211 ページ
③パワーステアリングフルードタンク
④エンジンオイルレベルゲージ ……………※ **「エンジンオイル量」**　215 ページ
⑤エンジンオイル注入口 ……………………※ **「エンジンオイル量」**　215 ページ
⑥ブレーキフルードリザーバータンク 兼 クラッチフルードリザーバータンク…※
⑦冷却水リザーバータンク（ラジエーター補助タンク）
……………………………………※ **「オーバーヒートしたときは」**　244 ページ

※印は日常点検整備に関連する部品です。
　点検要領は **「メンテナンスノート」** を参照してください。

1 まず読みましょう

安全・快適ドライブのために

●お出かけ前のチェック

シートベルトを正しく着用してください。

運転席にすわってエンジンを始動してください。

点検整備を必ず実施してください。

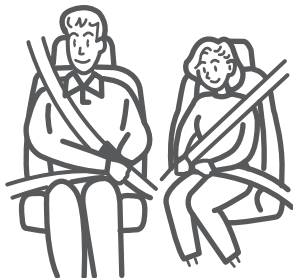
●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
点検整備については「メンテナンスノート」をお読みください。

走行中は必ず全員がシートにすわり、シートベルトを正しく着用してください。

●走行中のシート以外の場所への乗車・車内の移動・シートベルトの不適切な着用は、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●妊娠中の女性や疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

燃料がはいった容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火するおそれがあり危険です。

運転席足元に物を置かないでください。

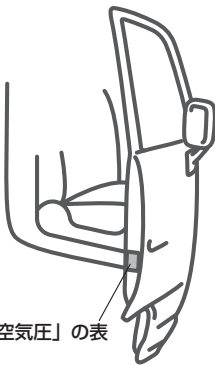
●空缶などの物を置くとブレーキペダルの下に挟まりブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなどのおそれがあり危険です。

日常点検として必ずタイヤの点検を行い、異常があるタイヤは装着しないでください。

●タイヤは、
- ●タイヤ空気圧の点検
- ●タイヤのき裂・損傷の有無の確認
- ●タイヤの溝の深さの点検
- ●タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど）

を点検します。
タイヤの点検方法は192ページを参照してください。

タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

●タイヤの点検は法的にも義務づけられています。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたドア側に貼られている「タイヤ空気圧」の表で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。
例えば、下記のシステムは、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●ＡＢＳ
- ●4輪エアサスペンション
- ●バックモニター
- ●ＧＰＳボイスナビゲーション

走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

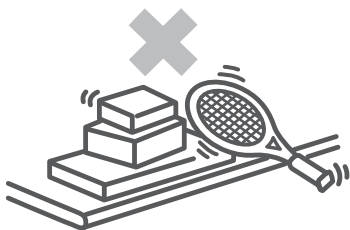
指定以外の燃料を補給しないでください。

●ディーゼル車は下記の表にしたがって、燃料を補給してください。指定以外の燃料を補給すると、エンジンや排出ガス浄化装置などに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。また、白煙が発生し続けることがあります。

エンジン	指定燃料
N04C－UP	軽油 [超低硫黄軽油（S10ppm以下）]
N04C－VF	

●ＬＰＧ車にはＬＰオートガスを補給してください。ＬＰオートガス以外を補給すると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。ＬＰオートガスの充てんについては84ページを参照してください。

荷物棚に重い荷物やはみ出るような荷物を置いたり、荷物を積み重ねたりしないでください。

●発進時やコーナリング時、ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、けがをするおそれがあります。

助手席やリヤシート・補助シートに荷物を積み重ねたりしないでください。

●ブレーキをかけたときなどに荷物が移動し、荷物を損傷したり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

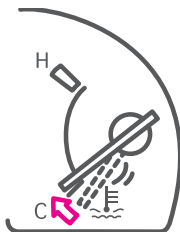
過積載をしないでください。（バン）

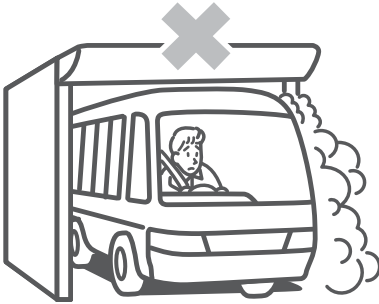
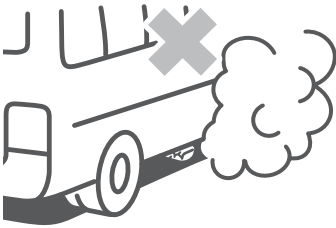
●過積載は違反になるだけでなく、事故や故障の原因にもなります。

水温計の指針が動き出すまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では、触媒装置が焼損するおそれがあります。

●暖機不足の状態では、エンストし再始動が困難になるおそれがあります。（ＬＰＧ車）

●暖機は水温計の指針が動き出す程度で十分です。

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（ＣＯ）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害におよぶおそれがあります。

●換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。とくに車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（ＣＯ）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドア（トランク）が閉まっていることを確認してください。開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、すべての窓を全開にしたり、空調の内外気切り替えを外気導入にしてファンを強にし、新鮮な外気を車内にいれてください。また、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

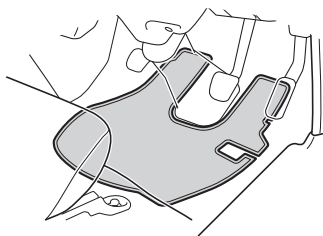
●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたＬＯＷＥＲ ＬＥＶＥＬ（下限）以下のまま使用・充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。
点検方法は「**メンテナンスノート**」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

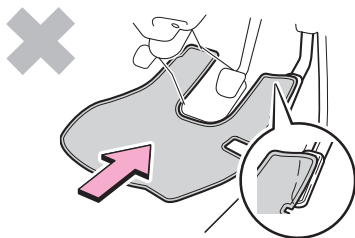
次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●いつもと違う音や臭いや振動がするとき
●ハンドル操作に異常を感じたとき
●ブレーキ液が不足しているとき
●地面に油の漏れたあとが残っているとき

フロアマットはお車（年式）専用のものを使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。

- フロアマットが正しい位置に敷かれていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅ（オートマチック車）またはⓃ（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

●お子さまを乗せるときの気くばり

お子さまは必ずリヤシートにすわらせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて思いがけない事故につながるおそれがあります。
●やむを得ず助手席にお子さまを乗せるときでも、必ずシートベルトを着用させ、シートに深く腰かけて、背もたれに背中がついた正しい姿勢ですわらせてください。
●車内を走りまわったり、シートの上に立ったりすると急ブレーキや万一の場合、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまをだいていても、衝突したとき十分に支えることができずお子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。

ドア、ウインドゥなどはお子さまに操作させないでください。

●閉めるとき手や頭などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

窓などから手や顔を出さないでください。

●車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

●炎天下の車内は大変高温となるため、熱射病や脱水症状などの重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●いたずらなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

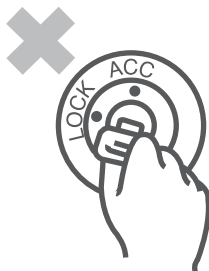
●走行するときは

車間距離は十分とってください。

急発進、急ブレーキは避けてください。

走行中はエンジンを切らないでください。

●エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

●マニュアル車はエンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”の位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●オイル潤滑不良を起こし、パワーステアリングポンプを損傷するおそれがあります。

段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ホイールが損傷する場合があります。

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

●ディーゼル車では必要に応じて排気ブレーキを使用してください。（114ページ参照）

ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面ではとくに慎重に走行してください。

●スピードをひかえめに運転し、急ブレーキや急激なエンジンブレーキは避けてください。

●寒冷時の取り扱いの項目もご覧ください。（174ページ参照）

とくに雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいためご注意ください。

歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください

●タイヤ・ホイールが損傷する場合があります。

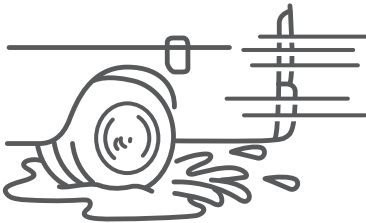
運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください

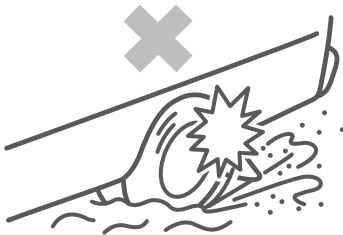
●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

ブレーキペダルに足をのせたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

洗車後や水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、また、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられるおそれがあります。
効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したときは次のことに注意してください。

●スタックから脱出するときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、物を損傷させたり、人に重大な傷害をおよぼすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

●スタック脱出には、次の方法が有効です。
- タイヤ前後の土や雪を取り除く。
- タイヤの下に木や石などをあてがう。

●スタックからの脱出などのために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションなどの損傷のおそれがあるため、次のことに注意してください。
- オートマチック車は、シフトレバーをⒹまたは、Ⓡの位置に確実にいれてから、アクセルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルを踏まないでください。
- 過度の空ふかしやタイヤの空転をさせないでください。
- 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。

冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン、トランスミッション、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良。
- 排出ガス浄化装置の点検。

車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●オートマチック車の取り扱いチェックポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
121ページの**「オートマチック車の運転のしかた」**もあわせてお読みください。

オートマチック車には以下のような特性があります。

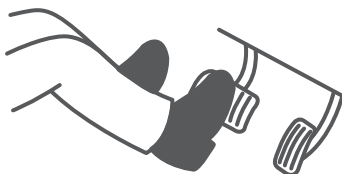
●クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーが🅟🅝以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

●キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。
これをキックダウンといいます。

ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

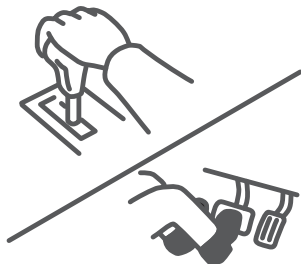
●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンをかけるまえに、ペダルの位置を確認してください。

●ペダルの踏み間違いを防ぐためアクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認してください。

エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーは車輪が固定される🅟の位置にいれ、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などはクリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中にはシフトレバーをⓅⓃの位置にいれないでください。

●Ⓟにいれるとトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●Ⓝにいれると、エンジンブレーキがまったく効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。またⓃにしたまま長時間走行すると、トランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障の原因となるおそれがあります。

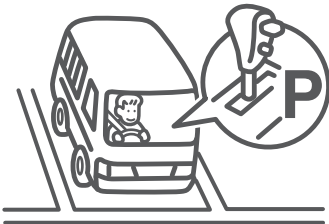
前進で走行中はシフトレバーをⓇの位置にいれないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションに無理な力が加わり、故障の原因となるおそれがあります。

停車中の空ふかしはしないでください。

●シフトレバーがⓅⓃ以外の位置にあると車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車するときはシフトレバーをⓅの位置にいれてください。

●Ⓟ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進するおそれがあります。

その他にも以下の点に注意してください。

●後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるよう注意してください。

●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしましょう。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇの位置にあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣づけましょう。

●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹの位置と何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

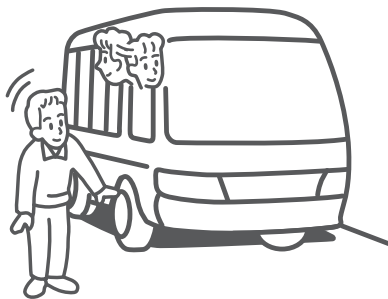
●坂道などでは、シフトレバーをⒹ、❹または 2/L にいれたまま惰性で後退したり、Ⓡにいれたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

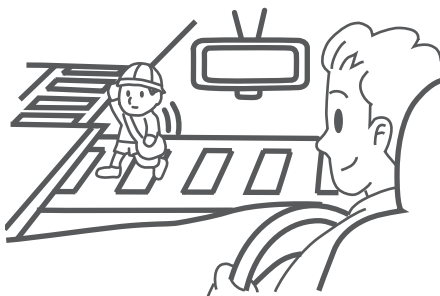
●車両の安全確保のためスピード制限装置が設けられており、Ⓓの位置での高速走行中にスピード制限されることがあります。

●走行前のチェックポイント

この車は構造上、通常の乗用車に比べ車両の直前、ななめ前方および後方が確認しにくいので、発進時は、車両のまわりの状況をより十分に注意してください。

発進前に車のまわりの安全を十分確認してください。

●駐車後発進するときは、車のまわりの安全を十分確認してから発進してください。

●車両床下などにネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。エンジン始動時、車両に小動物が巻きこまれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

●信号待ちなどで停車したときは、いつもまわりの状況に目を配り、安全を十分確認してから発進してください。

●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車からおりて後方を確認してください。

●走行中、異常に気づいたら

警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。(92ページ参照)

エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキの倍力装置やパワーステアリングの油圧装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったりハンドルが重くなったりします。
この場合、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力をいれて操作してください。

走行中にパンクやバースト(破裂)しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち徐々にブレーキをかけてスピードを落とし停車してください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。パンクしたタイヤは、停車後ただちにスペアタイヤに交換してください。
●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
- ハンドルがとられるとき
- 異常な振動があるとき
- 車両が異常に傾いたとき

車体床下に強い衝撃を受けたら、すぐに安全な場所に車を止めて下まわりを点検してください。

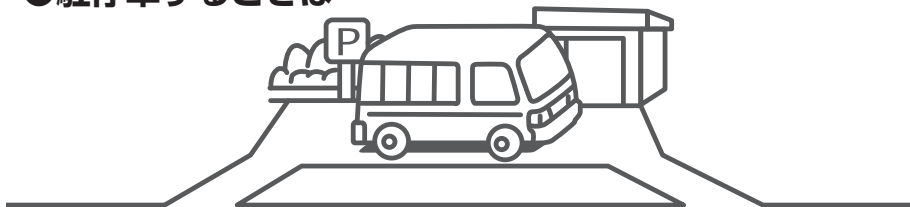
●ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。漏れや損傷などが見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店などにご連絡ください。

ブレーキパッドウェアインジケーターから警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●ブレーキパッドウェアインジケーターは、走行中にブレーキペダルを踏んだとき、警告音(“キーキー”という金属音)を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●駐停車するときは

仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。

●無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあり危険です。
●排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

●坂道を利用しての移動は思わぬ事故につながるおそれがあります。
●エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ必ずエンジンを止め施錠してください。

●無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。また、施錠していても車内に貴重品を置いたままにしないでください。

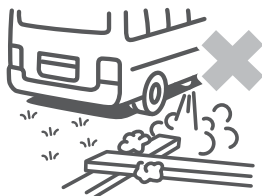
雪の積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。（P.176参照）

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

可燃物付近に車を止めたりしないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災になるおそれがあり危険です。
●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。
●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●こんな点にも注意を

不正改造は絶対にしないでください。

●次の部品を装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となったり、不正改造になることがあります。
- トヨタが国土交通省に届け出をしていない部品
- 車の性能や機能に適さない部品

●ハンドルの取りはずしやほかの車両への取りつけは絶対にしないでください。

●電装品、無線機などの取りつけ、取りはずしはトヨタ販売店にご相談ください。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

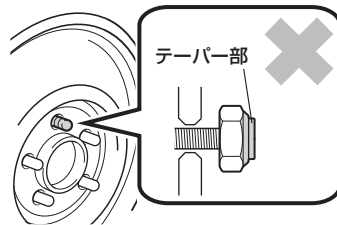
●フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●ディスクホイール・ホイール取りつけナットはトヨタ純正品以外を使用しないでください。車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみ、ホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となったり、不正改造になることがあります。

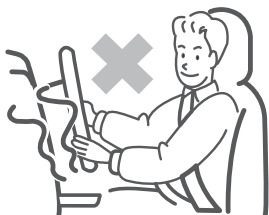
●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。

●タイヤは4輪とも指定サイズで、同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。タイヤを混在使用すると、左右タイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、き裂・損傷があったり、摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど、異常のあるタイヤを混ぜて装着したまま走行しないでください。車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となったり、不正改造になることがあります。（冬用タイヤも同様です。）
例えば、下記のシステムは、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ＡＢＳ
- 4輪エアサスペンション
- バックモニター
- ＧＰＳボイスナビゲーション

●必ずナットのテーパー部を内側にして取りつけてください。テーパー部を外側にして取りつけると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ウインドゥガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないでください。

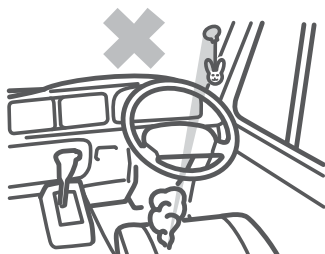
●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて安全運転のさまたげになるおそれがあります。

灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。

●開けたまま放置すると火災になるおそれがあり危険です。

ラジエーターや補助タンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

ウインドゥガラスなどには吸盤をつけないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

アルミボディには、磁石で固定するアクセサリーを取りつけることはできません。

●磁石はアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などは取りつけることができません。

ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は走行中に使用しないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。

●クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないよう注意してください。

●インストルメントパネル、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため火災につながるおそれがあり危険です。

メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。

●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。

シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

ディーゼル車は、給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。

●ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
●ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

●インストルメントパネルがフロントウィンドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

ターボ車の取り扱いチェックポイント

ターボ装置は、エンジンに大量の空気を過給してエンジンからより大きな馬力を引き出すもので、非常に精密に作られています。
ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

高速走行・登坂走行直後はエンジンを止めないでください。

●必ずアイドル運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。
アイドル運転を行わないとターボ装置の故障の原因になります。

〈エンジン停止前のアイドル運転時間〉

運　転　状　況		アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約80km／h定速	約20秒
	約100km／h定速	約1分
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km／h以上の連続走行		約2分

エンジンが冷えているときは空ふかしや急加速は絶対に行わないでください。

マフラーなどには指定以外の部品を使わないでください。

定期的なオイル交換を必ず行ってください。

●エンジンオイルは必ず15,000kmごと、オイルフィルターも同時に交換してください。
ターボ装置は、毎分10数万回転におよぶ高回転、700℃以上の高温下で使われ、その潤滑と冷却はエンジンオイルで行われています。したがって定められた期間でエンジンオイル、オイルフィルターを交換しないと、劣化したエンジンオイルにより、ターボ軸受部の固着、異音の発生など故障の原因となります。

ＴＯＹＯＴＡ－Ｄ－ＣＡＴ*車の取り扱いチェックポイント

ＴＯＹＯＴＡ－Ｄ－ＣＡＴ車はフィルターに捕集したススが一定量堆積するごと（一般走行で約200ｋｍ※）に自動的に排出ガス浄化装置に捕集したススを燃焼（再生）処理するクリーニングモードとなります。排出ガス浄化装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

※走行条件により異なります。

指定以外の燃料を補給しないでください。

●指定以外の燃料を補給すると、エンジンや排出ガス浄化装置などに悪影響をおよぼし、故障するおそれがあります。また、白煙が発生し続けることがあります。

エンジン	指定燃料
N04C－UP	軽油 ［超低硫黄軽油（S10ppm以下）］
N04C－VF	

指定銘柄以外のエンジンオイルを使用しないでください。

●指定銘柄以外のエンジンオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の機能を長時間維持することができなくなるので、純正指定のエンジンオイルの使用を推奨します。

テールパイプの改造はしないでください。

●テールパイプの向きや長さを変更すると、排出ガス浄化装置に悪影響をおよぼすおそれがありますので、テールパイプの改造は行わないでください。

ＴＯＹＯＴＡ－Ｄ－ＣＡＴ車は自動的に排出ガス浄化装置に捕集したススを燃焼（再生）処理します。

●排出ガスの燃焼（再生）処理のため、車両が信号待ちなどで停車したときにアイドリング回転数があがり排気ブレーキが作動することがあります。

●車をアイドリング状態で長時間放置すると、白煙排出防止のため、アイドリング回転数があがり、排気ブレーキが作動することがあります。

●運転状態によっては排出ガス浄化装置内に捕集したススの燃焼（再生）処理が完了しない場合があります。このときは排出ガス浄化装置スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯が点滅します。排出ガス浄化装置スイッチを押してススの燃焼（再生）処理を行ってください。（112ページ参照）

ＴＯＹＯＴＡ－Ｄ－ＣＡＴ車には次のような特徴があります。

●排出ガス浄化装置により、排気ガスを浄化して放出するため、従来のディーゼル車とは排気ガスの臭いが異なります。

●始動時にテールパイプから白い煙りが出ることがありますが、これは水蒸気ですので異常ではありません。

●ススの燃焼（再生）処理中にマフラー周辺から白い煙りが出ることがありますが、これはマフラー周辺に溜まった水分が水蒸気として排出されているもので異常ではありません。

*ＤーＣＡＴ は Diesel － Clean Advanced Technologyの略

2 安全装備

シート

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように次の事項に注意してシートを調整します。

⚠警告

●助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中は運転席シートの調整をしないでください。シートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートの下（シートアンダートレイ内を除く）に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
●背もたれと背中の間にクッション（座布団）などをいれないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

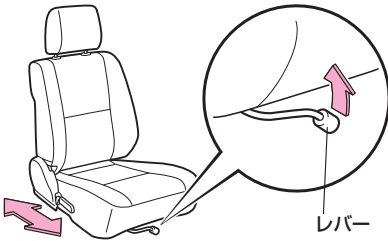
●シートを調整するときは同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟みけがをするおそれがあります。
●室内を清掃するときや、シートの下に落とした物を拾うときなどは、シートの下に手をいれると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意して行ってください。

フロントシート

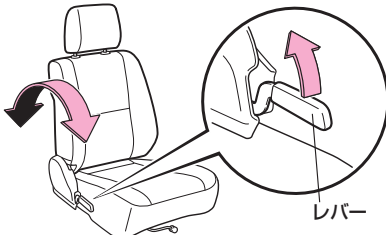
シートの調整

■前後位置調整

運転席

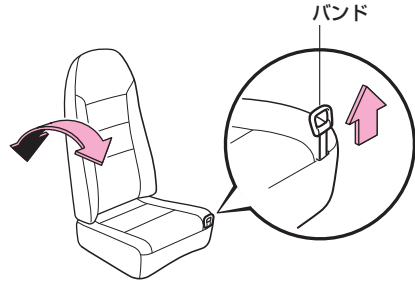
レバーを引いたままシートを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■リクライニング調整

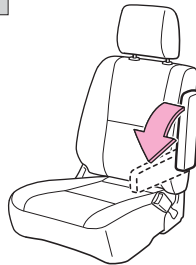
●運転席

レバーを引いたまま背もたれを前後に動かして調整します。調整後、背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

⚠注意

背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。

●助手席★

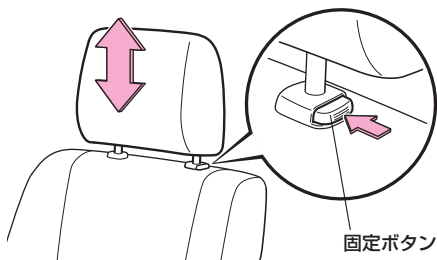
バンドを引いたまま背もたれを前後に動かして調整します。調整後、背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

■アームレスト★

使用するときは、アームレストを一番下まで倒します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ヘッドレストの調整

運転席

■上下位置調整

●上げるときはそのまま引き上げます。
●下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは固定ボタンを押したまま引き抜きます。

⚠警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取りつけ、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠注意

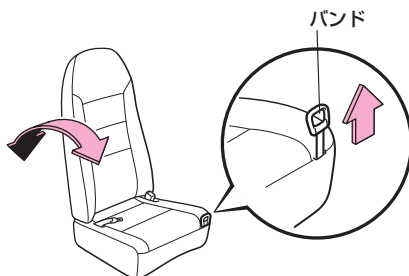
ヘッドレストを取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。固定されていないと、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

リヤシート

幼児車を除く

シートの調整

■リクライニング調整★

バンドを引いたまま背もたれを前後に動かして調整します。調整後、背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

知識

リヤシートのリクライニングできる角度は、シートの位置やグレード等により異なる場合があります。また、前倒しのみ操作できる場合もあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

スペースアップシート★

最後席シート

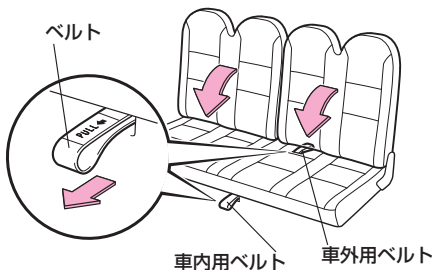
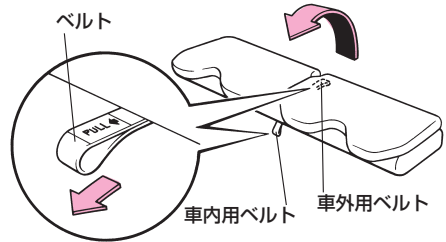
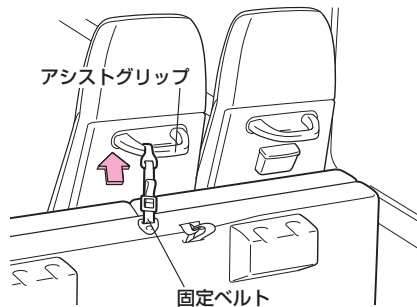
最後席シートを折りたたんで格納することにより、ラゲージスペースを広く使用することができます。

⚠警告

- ●倒したシートの上や荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●走行中はスペースアップおよびもとにもどす操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートを操作したときは、シートを軽くゆさぶりシートが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故の原因となって生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■スペースアップするときは

1 安全な場所に車両を駐車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけます。

2 ベルトを引き、背もたれを前に倒します。

3 再度ベルトを引き、シートを持ち上げます。

4 固定ベルトをアシストグリップにかけます。

5 固定ベルトを引いて、シートを固定します。

6 シートが確実に固定されていることを確認します。

⚠注意

シートベルトがバックルに差し込まれたままスペースアップしないでください。シートやバックルなどが破損するおそれがあります。

■もとにもどすときは

1 固定ベルトをゆるめます。

2 固定ベルトをアシストグリップからはずします。

●固定ベルトはシート裏側のポケットに収納します。

3 シートをうしろに倒します。

4 シートの背もたれを起こします。

5 シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

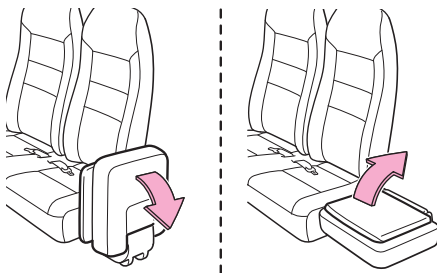
⚠注意

シートをもどすときは、シートに手や足を挟まないように注意してください。

補助シート★

助手席・リヤシート横にあります。

■使用するときは

補助シートを倒し、背もたれを起こします。

⚠注意

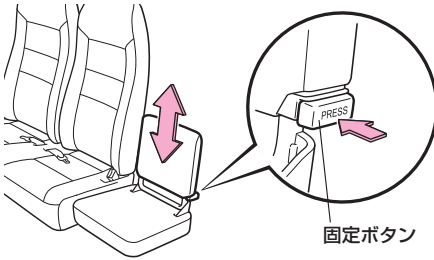
シートを倒すときは、同乗者や荷物に当てないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物がこわれたりするおそれがあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■ハイバック補助シート★

高さを2段階に調整することができます。

●上げるときはそのまま引き上げます。

●下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。

●補助シートをもとにもどすときは、背もたれを一番下の位置にしてから行ってください。

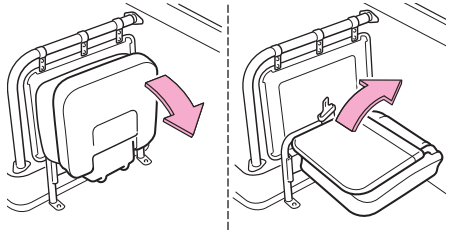
保護者用シート

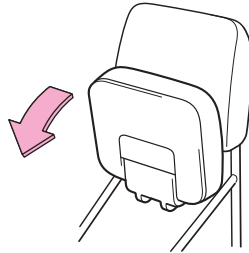
バス（幼児車）

センタードア後部と最後部に保護者用シートがあります。

■使用するときは

●センタードア後部

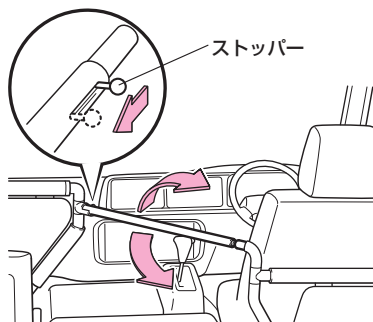
シートを倒し、背もたれを起こします。

●最後部

シートクッションを倒します。

非常ドア（81ページ参照）を使用するときは、シートクッションを持ち上げてください。

運転席ガード

バス（幼児車）

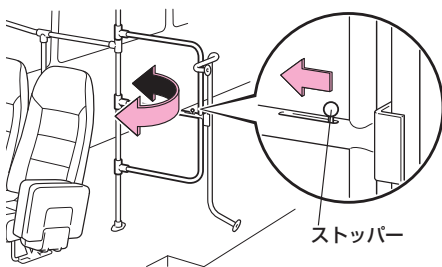
幼児が運転者の操作をさまたげることのないように、運転席とリヤシートの間に取りつけられています。

ガード先端のストッパーを引いたまま操作します。

●走行中は必ず使用してください。

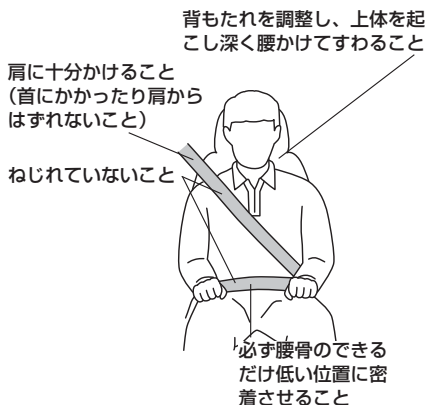
セパレーターパイプ

バン

ストッパーを引いたまま操作します。

●走行中は必ず使用してください。

シートベルト

正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。
次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

〈妊娠中のかたの着用〉

⚠警告

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートベルトを着用するときは必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとシートベルトにより重大な傷害を受けたり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については**「正しい運転姿勢」**(46ページ)を参照してください。
- 3点式シートベルトの肩ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。シートベルトが腰骨からずれていると衝突したときなどに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトを着用する場合は洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けます。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。

⚠警告

●シートベルトのバックルには異物がはいらないようにしてください。異物がはいるとプレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●お子さまでもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまをだいていても、急ブレーキや衝突したときなどに十分に支えることができずお子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトはすぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートベルトの改造や取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
シートベルトの取りつけ・取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
●妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）
- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）
●すべてのシートに、シートベルトで子供専用シートを取りつけることはできません。

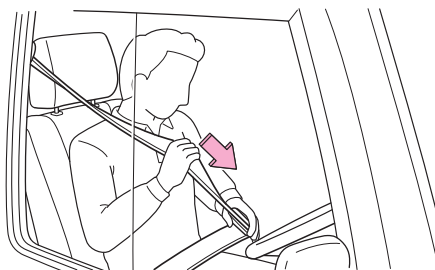
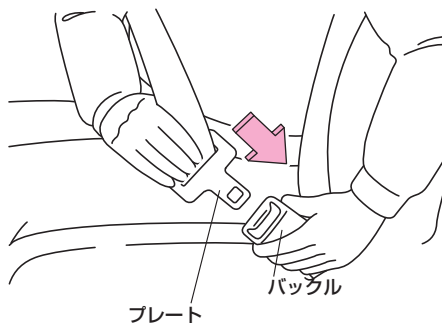
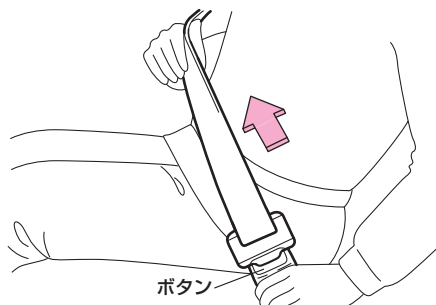
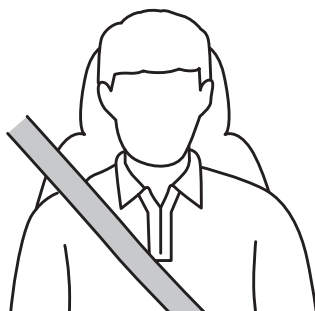
ＥＬＲ（緊急時固定機構）付き3点式シートベルト

運転席・助手席

ＥＬＲ機構

シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前に倒れそうなときには、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

■脱着のしかた

1 プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確かめます。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

3 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩ベルトを引き、腰部に密着させます。

4 肩ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれてしまわないようにします。

5 はずすときはバックルのボタンを押します。

シートベルト非着用警告灯

運転席シートベルト非着用警告灯

エンジン スイッチが“ ON ”のとき運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

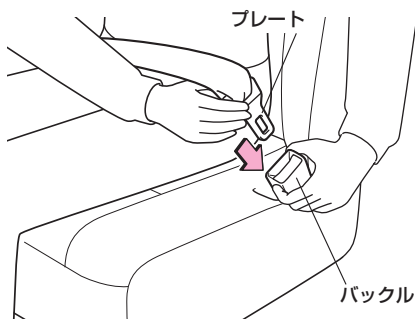
■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20 km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音が変わります。

●シートベルトを装着すると消音します。

ＥＬＲ（緊急時固定機構）付き2点式シートベルト★

1 プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確かめます。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、ベルトを押し込んでから、再度ゆっくりと引き出します。

2 プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

3 はずすときはプレートを持ちながらバックルのボタンを押します。

⚠注意

シートベルトをはずすときはプレートを持ちながらボタンを押してください。プレートを持たないとベルトが巻取られる際に、同乗者などにあたりけがをするおそれがあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＡＢＳ＊★

⚠警告

●ＡＢＳを過信しないでください。
ＡＢＳが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。
ＡＢＳを過信せず速度をおさえ、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。
- ●ＡＢＳはタイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は効果を発揮できません。
  ※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

●ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＡＢＳのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度をひかえめにして車間距離を十分にとってください。
- ●砂利道、新雪路を走行しているとき
- ●タイヤチェーンを装着しているとき
- ●道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
- ●凹凸道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

ＡＢＳ

急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことによりスリップを抑制します。また、ブレーキ油圧増圧機能により、高い制動力が必要と判断された場合、またはブレーキブースターの負圧が低下して十分なブレーキ力が得られなくなった場合に、より大きな制動力を発生させることにより、ドライバーの操作を補助します。

■運転について

●急ブレーキ時は、ＡＢＳが効果を発揮するようにブレーキペダルをできるだけ強く踏み続けることが必要です。

●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。
ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方

■作動について

ＡＢＳが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ＡＢＳの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。

●ＡＢＳの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥にはいったりすることがあります。

＊ＡＢＳは Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

知 識

●ＡＢＳは、車速が約10km/hを超えると作動できるようになります。
また、車速が約5km/hまで下がると作動をやめます。
●雨の日に、マンホールのふた、橋の継ぎ目、工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＡＢＳが作動しやすくなります。
●エンジン始動時や、始動後の発進直後にエンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。
●ＡＢＳが作動すると排気ブレーキ（114ページ参照）は、作動しません。

ＡＢＳ警告灯

●エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。その後、ＡＢＳシステムに異常があると点灯します。
●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。

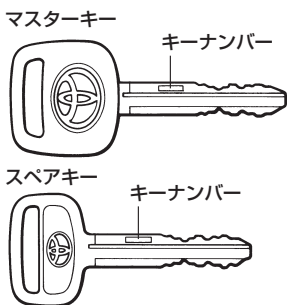
アドバイス

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
●エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置にしても点灯しないとき
●エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき
なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

3 操作装置

各部の開閉

キー

●キーはドアの施錠・解錠のほか、エンジンの始動・停止に使用します。
●キーは2枚あります。

万一、キーを紛失したときのために、キーナンバーを手帳などにひかえておいてください。キーナンバーからトヨタ販売店で純正のキーを作ることができます。

アドバイス

キーを作るときはトヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。

ドアインデックス

警告

●走行する前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●お子さまにドアの操作をさせないでください。
　●閉めるとき、手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
　●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

●乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、ご選択ください。
　●乗車中、施錠している場合
　　・同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
　　・車外からの不意の侵入者を防ぎます。
　　・シートベルトの着用とあわせて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。
　●乗車中、解錠している場合
　　・万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。
●車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠することが法的に義務づけられています。また、施錠していても車内に貴重品などを置かないようにしましょう。

車両によって装着されているドアが異なります。
以下の項目を参照して、該当するページをお読みください。

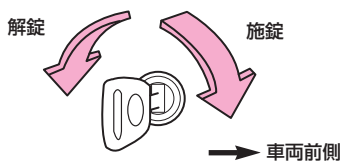
<table>
<tr><th>車両</th><th>ドア</th><th>機能・機構</th><th>記載ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">バス
（幼児車を除く）</td><td>フロントドア</td><td>●運転席ドア</td><td>66</td></tr>
<tr><td>センタードア</td><td>●グライド式ドア
・手動式ドア
・オートドア★
・電動格納式補助ステップ★
●折戸式ドア
・手動式ドア
・オートドア★</td><td>67
67
68
71
73
73
75</td></tr>
<tr><td>バックドア</td><td>●トランク
●観音扉ドア★</td><td>77
79</td></tr>
<tr><td rowspan="3">バス
（幼児車）</td><td>フロントドア</td><td>●運転席ドア</td><td>66</td></tr>
<tr><td>センタードア</td><td>●折戸式ドア
・手動式ドア
・オートドア★</td><td>73
73
75</td></tr>
<tr><td>バックドア</td><td>●非常ドア</td><td>81</td></tr>
<tr><td rowspan="3">バン</td><td>フロントドア</td><td>●運転席ドア
●助手席ドア★</td><td>66</td></tr>
<tr><td>センタードア</td><td>●グライド式ドア
・手動式ドア
・オートドア★
●折戸式ドア★
・手動式ドア</td><td>67
67
68
73
73</td></tr>
<tr><td>バックドア</td><td>●観音扉ドア</td><td>79</td></tr>
</table>

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

フロントドア

施錠と解錠

■キーを使っての施錠と解錠

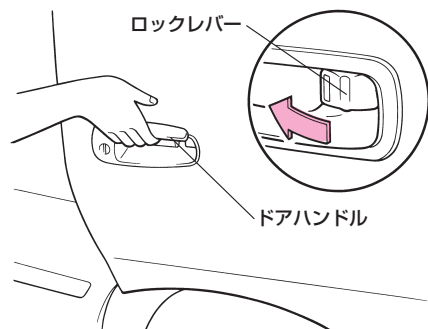
キーを前側にまわすと施錠、うしろ側にまわすと解錠されます。

●運転席ドアに差し込んだキーを上記のように操作すると、下記のドア（非常ドアを除く）が装着されている場合は、運転席ドアと装着されているドアを同時に施錠・解錠することができます。
- 助手席ドア
- グライドドア ※
- 観音扉ドア

※ 緊急解除レバー（70ページ参照）装着車を除く

■ロックレバーでの施錠と解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠し、後方に引き出すと解錠されます。

■キーを使わずに施錠するには

ロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引き上げたままドアを閉めます。

キー抜き忘れ防止ウォーニング

エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”または“ ＡＣＣ ”の位置のとき運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが鳴ります。

知 識

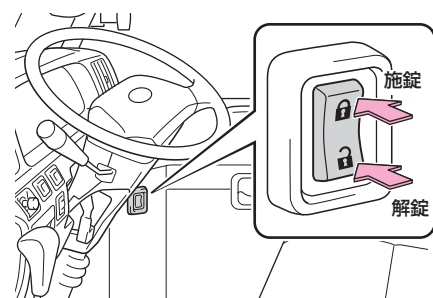
キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

ドアカーテシランプ

フロントドアを開けると、開けた側のドアのカーテシランプが点灯します。
ドアを閉めると消灯します。

電気式ドアロック

■ドアロックスイッチを使っての施錠と解錠

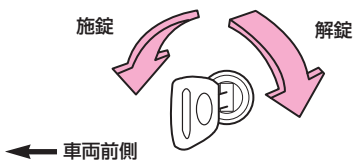
スイッチの上側を押すと施錠、下側を押すと解錠されます。

運転席ドアのスイッチを操作すると、下記のドア（非常ドアを除く）が装着されている場合は、運転席ドアと装着されているドアを同時に施錠・解錠することができます。
- 助手席ドア
- グライドドア ※
- 観音扉ドア

※ 緊急解除レバー（70ページ参照）装着車を除く

グライド式ドア

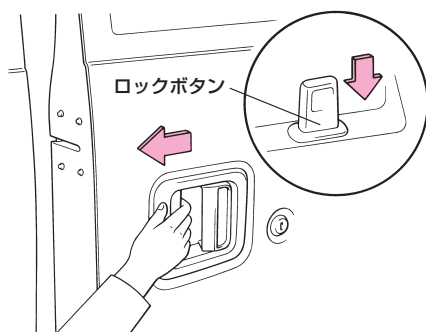
手動式ドア

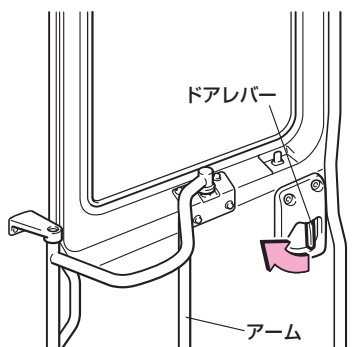
■キーを使っての施錠と解錠

キーを前側にまわすと施錠、うしろ側にまわすと解錠されます。

■ロックボタンでの施錠と解錠

ロックボタンを押すと施錠し、引くと解錠されます。

■キーを使わずに施錠するには

ロックボタンを施錠側にして、ドアを閉めます。

■車内からのドアの開閉

- 開けるときは、ドアレバーを右にまわして車両後方へ押します。
- 閉めるときは、アームを持って車両前方へ引きます。

⚠警告

- 走行前にセンタードアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。
  センタードアが確実に閉まっていないと、走行中にセンタードアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

●センタードアを開閉するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアレバーやアームを確実に保持してドアを開閉してください。
- 傾斜地では平坦な場所よりもセンタードアの開閉がしにくくなる場合があります。また、急にセンタードアが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。
- センタードアが全開で静止していることを確認してください。とくに傾斜地では急にセンタードアが閉じるおそれがあり危険です。
- センタードアの後方の安全を十分確認してください。
- ほかの人の手などを挟まないように注意してください。

センタードアステップランプ

ライトスイッチがＯＮの位置のとき、センタードアを開けると、センタードアステップランプが点灯します。
ドアを閉めると消灯します。

オートドア★

■施錠と解錠、手動でのドアの開閉

67ページの**「手動式ドア」**をご覧ください。

⚠警告

●センタードアを開閉するときはほかの人の手などを挟まないように十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●自動開閉時は、車外および車内のドア付近に人がいないか、器物がないかなど安全を確認し、センタードアで指などを挟まないよう十分注意してください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、お子さまには操作をさせないでください。重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●万一、走行中にセンタードア開放警告灯（99ページ参照）が点灯して、ブザーが鳴った場合、センタードアが確実に閉まっていません。
停車して、センタードアを確実に閉めてください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ドアの開閉は、バッテリーあがりを防ぐためエンジン回転中に行ってください。

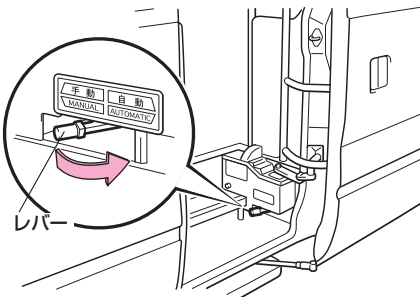
知 識

●走行中にスイッチを押しても、ドアの開閉はできません。
●傾斜した場所では、開閉ができないことがあります。この場合、手動で開閉してください。

■ドアの開閉

エンジン スイッチが“ ON ”の位置のとき開閉できます。

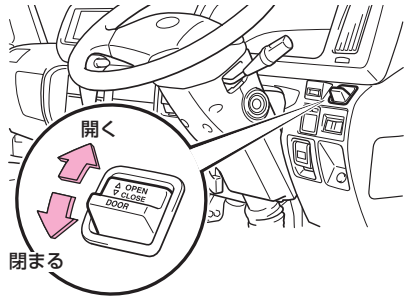
●Bタイプのシフトレバー（118ページ参照）搭載車ではシフトレバーをⓅにいれてないと開閉できません。

1 センタードアの横にある切り替えレバーを「自動」の位置にします。

●「手動」の位置にすると、手動で開閉することができます。
●「手動」の位置にすると、メーター内の「オートドア自動/手動切替表示灯」が点灯します。（95ページ参照）

2 ロックボタンを押して施錠します。

●切り替えレバーを「手動」の位置にしても、手動で開閉することができなくなります。

3 スイッチを操作します。

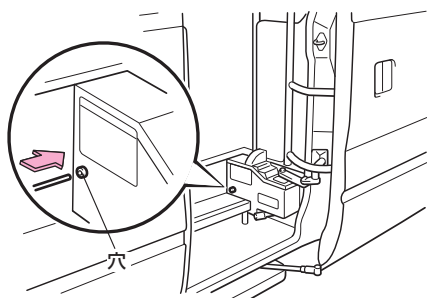
●上に押している間は開き、下に押している間は閉まります。

●スイッチから手を離すと、その位置で停止します。
●ドアが開閉し始めるとき、ブザーで警告します。

知 識

●グライド式オートドアが開閉している最中にスイッチを離してドアが途中で停止した場合、スイッチを再操作してもドアを全閉できないことがあります。
その場合は、グライド式オートドアを一度全開させた後で、閉操作をしてください。
●Bタイプのシフトレバー（118ページ参照）搭載車では、グライド式オートドアが開いているときに、シフトレバーをⓅ以外にしようとするとブザーが鳴ります。

■開閉できないときは（車内からの操作）

1 バッテリーの㊀端子をはずします。

2 サーキットブレーカーの穴に細い棒を“カチッ”という音がする位置まで軽く差し込みます。

アドバイス

マッチ棒などの折れやすい物は使用しないでください。

3 バッテリーを接続し、エンジン スイッチを“ ON ”の位置にします。

アドバイス

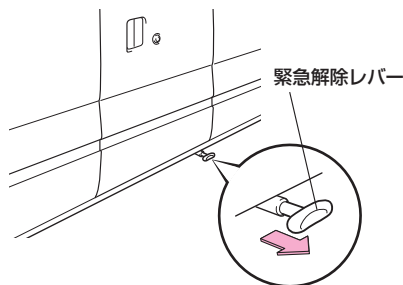
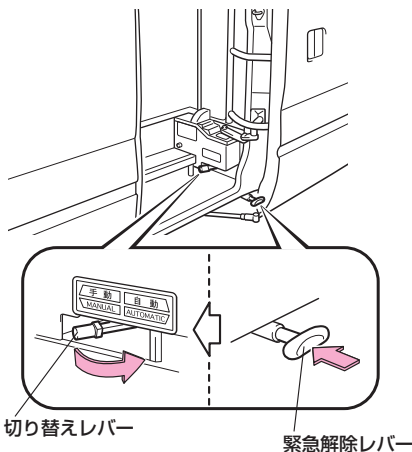
以上の操作を行っても、ドアが開閉しないときや、サーキットブレーカーの回路が再び切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■開閉できないときは（車外からの操作）★

知 識

この操作を行う前に、車内の切り替えレバー操作によりオートドアを「手動」に切り替えられる場合は、緊急解除レバーを使用せずに、その操作で「手動」に切り替え、開閉を行ってください。

緊急解除レバーを引くと、オートドアが手動に切り替わり、車外からドアを開けることができます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

●緊急解除レバーで手動に切り替えた場合、自動に戻すには、緊急解除レバーを元の位置に押し戻してから、車内の切り替えレバーを「自動」の位置に戻します。

知 識

駐車時などで、グライド式ドアが施錠されている状態のときは、緊急解除レバーを引いても車外からドアを開けることはできません。

アクセルインターロック

オートドア★

センタードアが開いているときは、アクセルペダルが固定されます。

アドバイス

ドアが開いているときに、アクセルペダルを踏まないでください。また、アクセルペダルを踏んでいるときに、ドアの開閉をしないでください。アクセルインターロック装置の故障の原因およびリンク系の故障の原因になります。

電動格納式補助ステップ★

⚠警告

●ステップの操作をする前に、運転者はステップが安全に操作できるように車外および車内のステップ付近の状態を必ず確認してください。
●ステップ作動中は、指や手を挟まないよう十分注意してください。また、お子さまには操作をさせないでください。

アドバイス

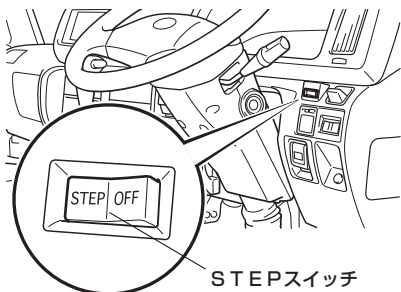
ステップの操作は、バッテリーあがりを防ぐためエンジン回転中に行ってください。

知 識

走行中にスイッチを押しても、ステップの操作はできません。

■ステップを作動させるときは

次の条件をすべて満たしているときに、オートセンタードアスイッチを開（ＯＰＥＮ側）または閉（ＣＬＯＳＥ側）操作すると、ドアの開閉に連動してステップが作動します。（作動中はブザーが鳴り続けます。）

●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置のとき
●車両が停止しているとき
●ＳＴＥＰスイッチの「ＳＴＥＰ」側が押されているとき

- ステップの格納作動は、スイッチの状態にかかわらず、ドアスイッチを閉作動側に押すと連動で格納されます。

■ステップを作動させないときは

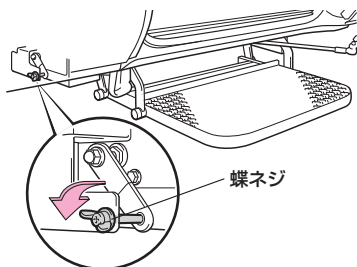
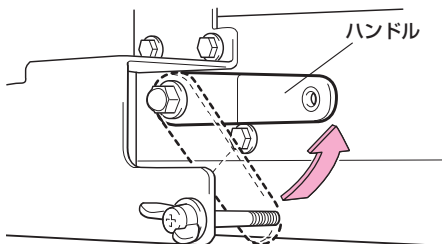
ＳＴＥＰスイッチの「ＯＦＦ」側を押します。

知 識

●ステップが出ているときにセンタードアを手動またはオートセンタードアスイッチ操作により全閉すると、ステップが自動的に格納されます。
●ステップの作動中に、人や異物の挟み込みなどにより異常を感知すると、その位置でステップが停止します。

■格納できないときは

万一、ステップが出た状態のままスイッチで格納することができないときは、手動で格納することができます。

1 ステップ下側の格納装置の蝶ネジをゆるめて、ハンドル固定を解除します。

2 ハンドルをまわして水平にします。

3 格納位置までステップを手で押し上げ、そのまま保持します。

4 ハンドルをもとの位置にもどしてステップを固定します。

5 蝶ネジを締めてハンドルを固定します。

■アクセルインターロック

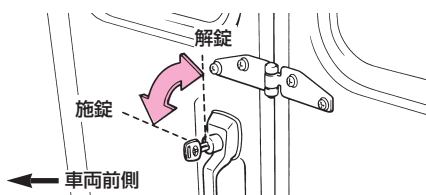
ステップが出ているときは、アクセルペダルが固定されます。

ステップが出ているときに、アクセルペダルを踏まないでください。また、アクセルペダルを踏んでいるときに、ステップの操作をしないでください。アクセルインターロック装置の故障の原因およびリンク系の故障の原因になります。

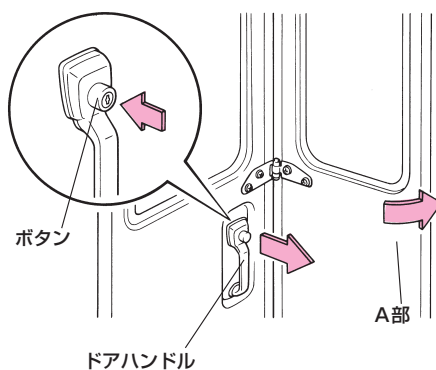
折戸式ドア

手動式ドア

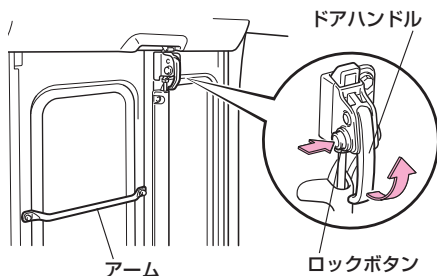
■キーを使っての施錠と解錠

キーを前側にまわすと施錠、うしろ側にまわすと解錠されます。

■車外からのドアの開閉

●開けるときは、ドアハンドルを少し手前に引きながら、ボタンを押してドアを押します。

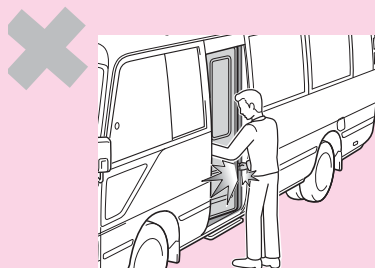
●閉めるときは、ドアの先端（A部）を横に押しながらドアハンドルを手前に引きます。

■車内からのドアの開閉

●開けるときは、ロックボタンを押しながらドアハンドルを引いたままドアを引きます。

●閉めるときは、アームを持ってドアを押します。

⚠警告

●走行前にセンタードアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。
センタードアが確実に閉まっていないと、走行中にセンタードアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

●センタードアを開閉するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 傾斜地、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、注意してドアを開閉してください。
- 傾斜地では平坦な場所よりもセンタードアの開閉がしにくくなる場合があります。また、急にセンタードアが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。
- センタードアが全開で静止していることを確認してください。とくに傾斜地では急にセンタードアが閉じるおそれがあり危険です。
- センタードアの周辺の安全を十分確認してください。
- ほかの人の手などを挟まないように注意してください。

センタードアステップランプ

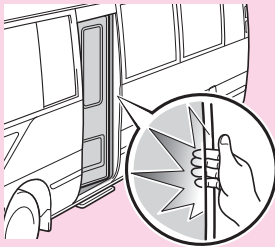
ライトスイッチがＯＮの位置のとき、センタードアを開けると、センタードアステップランプが点灯します。
ドアを閉めると消灯します。

オートドア★

■施錠と解錠、手動でのドアの開閉

73ページの**「手動式ドア」**をご覧ください。

⚠警告

●センタードアを開閉するときはほかの人の手などを挟まないように十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●自動開閉時は、車外および車内のドア付近に人がいないか、器物がないかなど安全を確認し、センタードアで指などを挟まないよう十分注意してください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、お子さまには操作をさせないでください。重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●万一、走行中にセンタードア開放警告灯（99ページ参照）が点灯して、ブザーが鳴った場合、センタードアが確実に閉まっていません。
停車して、センタードアを確実に閉めてください。

アドバイス

ドアの開閉は、バッテリーあがりを防ぐためエンジン回転中に行ってください。

知識

●走行中にスイッチを押しても、ドアの開閉はできません。

●傾斜した場所では、開閉ができないことがあります。この場合、手動で開閉してください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

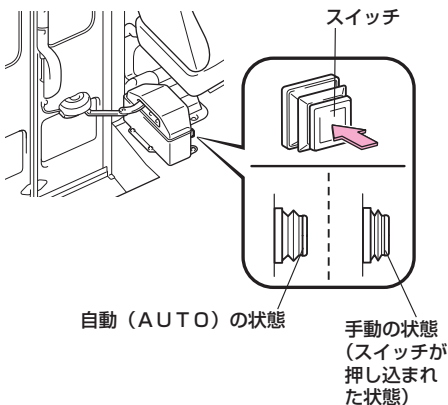
■ドアの開閉

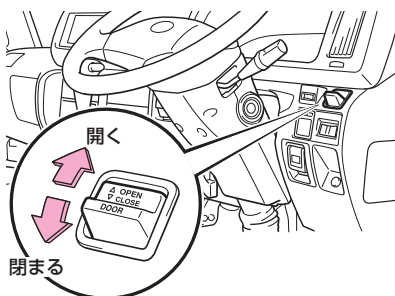
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置のとき開閉できます。

●Ｂタイプのシフトレバー（118ページ参照）搭載車ではシフトレバーをⓅにいれてないと開閉できません。

1 オートドアユニットの裏にあるキャンセルスイッチを押して自動（ＡＵＴＯ）の状態にします。

●手動の状態にすると、手動で開閉することができます。

●手動の状態にすると、メーター内の「オートドア自動/手動切替表示灯」が点灯します。（95ページ参照）

2 スイッチを操作します。

●上（ＯＰＥＮ側）に押している間は開き、下（ＣＬＯＳＥ側）に押している間は閉まります。

●スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

●ドアが開閉し始めるとき、ブザーで警告します。

知 識

●停車中は、キャンセルスイッチの状態に関係なく、ドアハンドルの操作でドアを開閉できます。
ただし、ドアが全開のときにキャンセルスイッチが自動（ＡＵＴＯ）の状態になっていると、ドアハンドルでドアを閉めようとしても、ブレーキ制御がかかるため、ドアは閉めにくくなります。ドアを閉めるときは、キャンセルスイッチを手動の状態にしてから閉めてください。

●駐車時などで、折戸式ドアが施錠されている状態のときは、車外からドアを開けることはできません。

アクセルインターロック

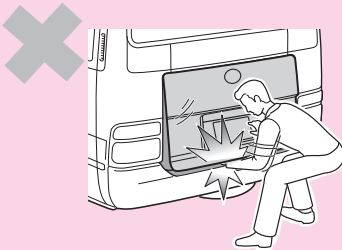
バス（幼児車）・オートドア★

センタードアが開いているときは、アクセルペダルが固定されます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ドアが開いているときに、アクセルペダルを踏まないでください。また、アクセルペダルを踏んでいるときに、ドアの開閉をしないでください。アクセルインターロック装置の故障の原因およびリンク系の故障の原因になります。

トランク

⚠警告

●トランクに人を絶対にのせないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●トランクを開閉するときは、周囲の安全を確かめ、トランクで指などを挟まないよう十分に注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。閉めるときに手、頭、首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●トランクの中でお子さまを遊ばせたりしないでください。トランクは中から開けることができません。閉じ込められると、熱射病などにより、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

●トランクを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、トランクが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●強風時の開閉には十分注意してください。トランクが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。

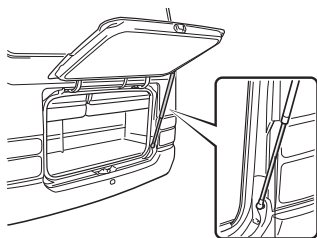
●トランクを開ける前に、トランク表面の重量物（雪など）を取り除いてください。開いたあとに、重みでトランクが突然閉じるおそれがあります。

●トランクが全開状態で静止していることを確認してから使用してください。半開状態で使用すると、トランクが突然閉じてけがをするおそれがあります。とくに傾斜地では開いたあとにトランクが閉じる場合があり危険です。

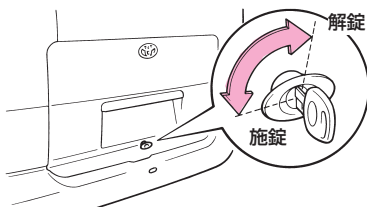
●傾斜地では平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくくなる場合があります。また、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。

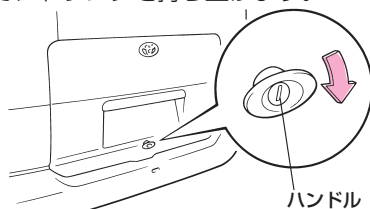
●走行前にトランクを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。
トランクが確実に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

●盗難を防ぐため、トランク内に貴重品を置かないようにしましょう。
●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物がステーのロッド部（伸縮部）に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などで触れないでください。異物が付着すると、ステーが円滑に動かなくなったり、開けたとき保持力が損なわれるおそれがあります。

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、トランクが開閉できなくなるおそれがあります。

■キーを使っての施錠と解錠

キーを左側にまわすと施錠、右側にまわすと解錠されます。

■ドアの開閉

●開けるときは、ハンドルを右にまわして、トランクを持ち上げます。

●閉めるときは、トランクを押して閉めます。

■トランク灯★

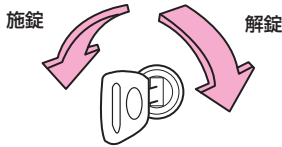
トランクを開けると、トランク灯が点灯します。

アドバイス

エンジンを停止しているときは、トランクを長時間開けたままにしないでください。バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

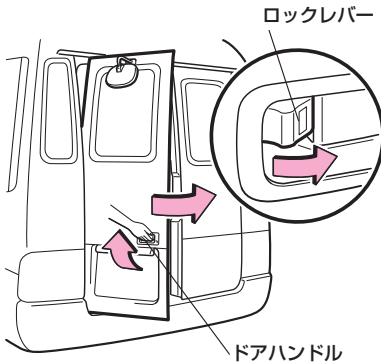
観音扉ドア

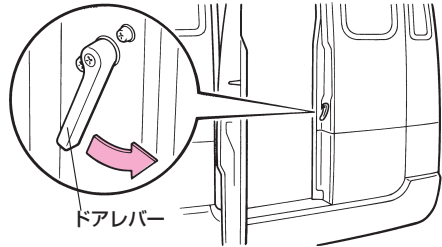
■キーを使っての施錠と解錠

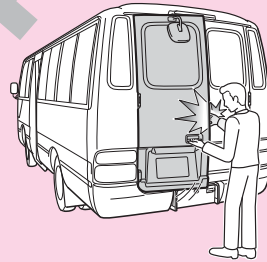
キーを左側にまわすと施錠、右側にまわすと解錠されます。

■ロックレバーでの施錠と解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠し、後方に引き出すと解錠されます。

■キーを使わずに施錠するには

右側ドアを閉めてから、左側ドアのロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引き上げたままドアを閉めます。

■右側ドアの開閉

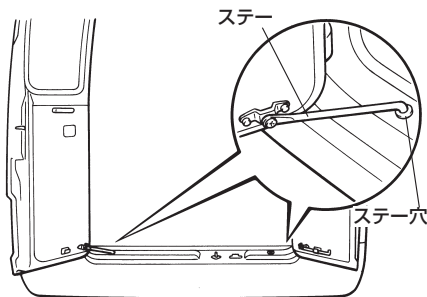
●開けるときは、ドアレバーを引きます。
●閉めるときは、そのまま閉めます。

⚠警告

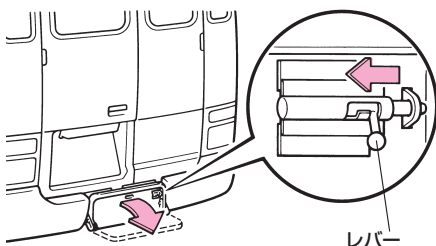
●バックドアを閉めるときは、周囲の安全を確かめ、バックドアで指などを挟まないように十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。閉めるときに手、頭、首などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠警告

●走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。
バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
●傾斜地では、平坦な場所よりもドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。指などを挟まないよう十分注意してください。
●強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。
●バックドアが全開で静止していることを確認してください。とくに傾斜地では急にバックドアが閉じるおそれがあり危険です。
●バックドアを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。バックドアを開いていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■バックドアオープンストッパー

左右のステーをバンパー上部のステー穴に差し込んでバックドアを固定します。

■折りたたみ式バックステップ★

使用するときはレバーを左に動かし、ステップを手前に倒します。

●折りたたむときは、ステップを持ち上げ、レバーを右に動かします。
●走行中はステップを折りたたんでおいてください。

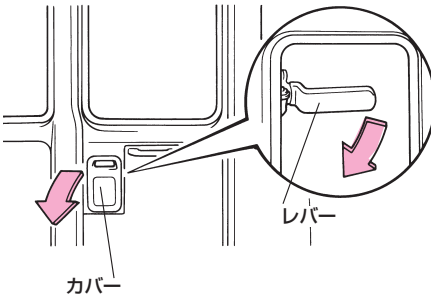
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

非常ドア

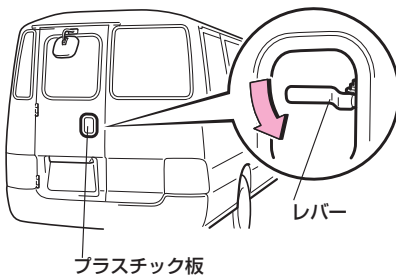
■車内からのドアの開閉

1 カバーを手前に引いてはずします。

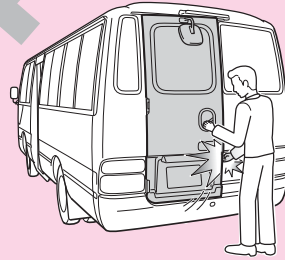
●エンジン スイッチが“ ON ”の位置のとき運転席のブザーが鳴ります。

2 レバーを下に動かすとドアが開きます。

■車外からのドアの開閉

1 透明プラスチック板を破ります。

●エンジン スイッチが“ ON ”の位置のとき運転席のブザーが鳴ります。

2 レバーを下に動かすとドアが開きます。

⚠警告

●バックドアを閉めるときは、周囲の安全を確かめ、バックドアで指などを挟まないように十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。閉めるときに手、頭、首などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

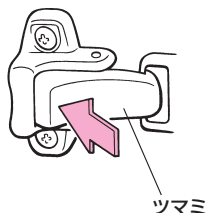
●走行前にバックドアを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認してください。
バックドアが確実に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものなどに当たり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

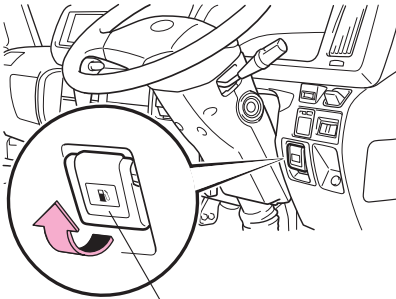
⚠警告

●傾斜地では、平坦な場所よりもドアの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。指などを挟まないよう十分注意してください。
●強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。
●バックドアが全開で静止していることを確認してください。とくに傾斜地では急にバックドアが閉じるおそれがあり危険です。
●お子さまをバックドアから乗りおりさせるときは、必ず保護者の人が付き添ってください。乗りおりする位置が高いため、足を踏みはずし、けがをするおそれがあります。
●バックドアを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。バックドアを開いていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ウインドゥガラス

ツマミを押したまま、スライドさせます。

フューエルリッド（燃料補給口）

⚠警告

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。

ディーゼル車

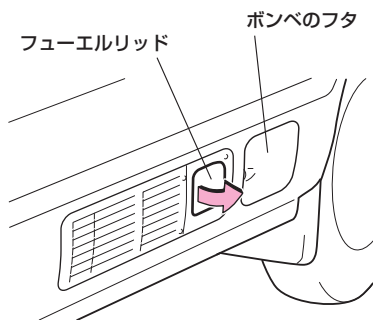
●フューエルリッド（燃料補給口）は助手席側後方にあります。
●フューエルリッドオープナーを引くと開きます。
●燃料タンク容量は約95Ｌです。

⚠警告

●フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

⚠警告

●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
●給油中、再び車内のシートに戻ったり、帯電している人や物に触れないでください。（再帯電することがあります。）
●給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわし、確実に閉まっていることを確認してください。
●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。
●給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

LＰG車

●フューエルリッド（燃料補給口）は運転席側側面にあります。
●フューエルリッドオープナーを引くと開きます。
●燃料タンク容量は約122Ｌです。
●ＬＰオートガスを補給してください。

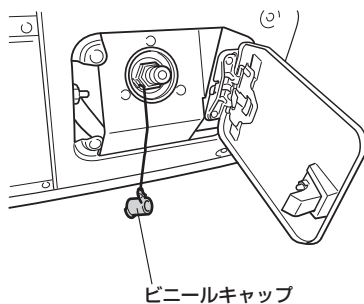
■燃料補給について

警告

ＬＰオートガス補給は、ＬＰGスタンドの係員におまかせください。
また、ＬＰオートガス補給時は、ＬＰGスタンド指定の場所以外で火気を取り扱わないでください。引火するおそれがあり危険です。

知識

●ＬＰオートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、車両の所有者とボンベの所有者が異なる場合は、ボンベに容器の所有者表示が義務づけられています。
●ＬＰオートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、ボンベおよびバルブには定期的な検査が義務づけられています。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

1 エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”の位置にします。
2 フューエルリッドオープナーを引いてフューエルリッドを開けます。
3 補給口のビニールキャップをはずします。

4 運転席側側面にあるボンベのフタを開けて、燃料取り出しバルブ(赤色）を右にいっぱいまでまわして閉め、燃料充てんバルブ（灰色）を左にいっぱいまでまわして開けます。

5 ＬＰオートガス充てんガンを確実にセットし、注入します。

知 識

保安基準により、タンク容量の85％が最大充てん量となります。

6 燃料充てんバルブ(灰色）を右にいっぱいまでまわして閉め、燃料取り出しバルブ（赤色）を左にいっぱいまでまわして開けてボンベのフタを閉めます。

7 ＬＰオートガス充てんガンをはずし、補給口にビニールキャップを取りつけます。

8 フューエルリッドを閉めます。

■燃料計

外周の数字がボンベ内の燃料容量を％表示で表わします。

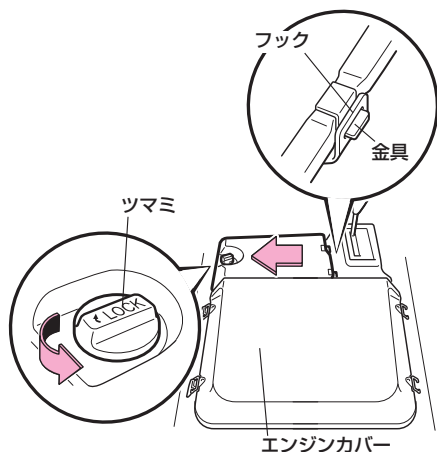
エンジン点検口

前部

■開けるときは

1 フロアマット付き車は、フロアマットをめくります。

2 ツマミを左にまわしてロックをはずし、エンジンカバーを左に動かして、金具をフックからはずします。

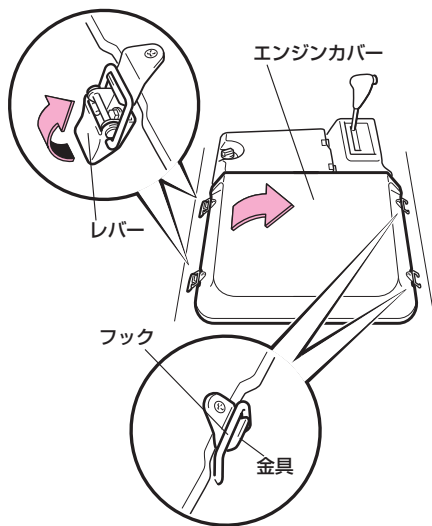
■閉めるときは

金具をフックにかけ、ツマミを右にまわして確実に固定します。

●確実に固定されたことを確認してください。

後部

■開けるときは

1 フロアマット付き車は、フロアマットをめくります。

2 レバー（2カ所）を引いて、エンジンカバーを持ち上げ、金具をフックからはずします。

■閉めるときは

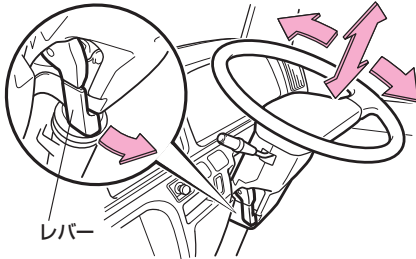
金具をフックにかけ、エンジンカバーをおろし、レバー（2カ所）を押します。

●確実に固定されたことを確認してください。

各部の調整

ハンドル

チルト&テレスコピックステアリング

レバーを引き上げ、ハンドルを上下前後に動かし適切な位置にして、レバーを押し下げれば固定されます。

⚠警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然かわり思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

インナーミラー★

⚠警告

走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。

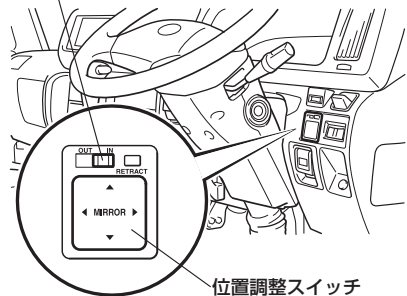
鏡面角度調整のしかた

■電動リモコンインナーミラーを除く

手で調整します。調整したあとは、後方確認が十分できるか確認してください。

■電動リモコンインナーミラー

エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”の位置のとき使用できます。

1. メインスイッチを右側（ＩＮ）に動かします。
2. 位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

アウターミラー

⚠警告

走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。

鏡面角度調整のしかた

■運転席側および助手席側ミラー（電動格納式を除く）

アウターミラー全体を手で調整します。調整したあとは、運転席にすわり、アウターミラーで後方確認が十分できるか確認してください。

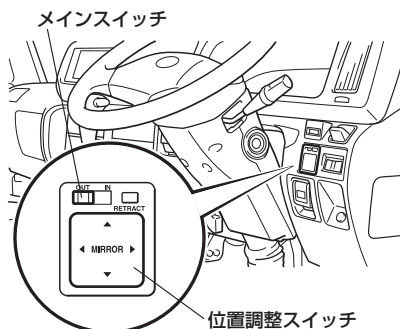
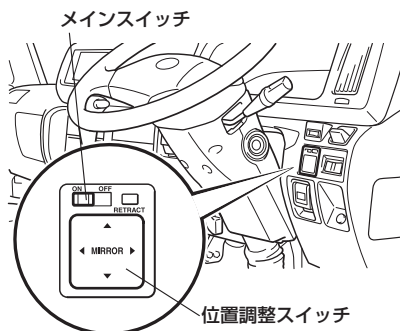
■助手席側ミラー（電動格納式）

エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”の位置のとき使用できます。

1 メインスイッチを左側（電動リモコンインナーミラー付き車はＯＵＴ、電動リモコンインナーミラー付き車以外はＯＮ）に動かします。

2 位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

●電動リモコンインナーミラー付き車以外は、調整したあと、メインスイッチを右側（ＯＦＦ）にもどします。

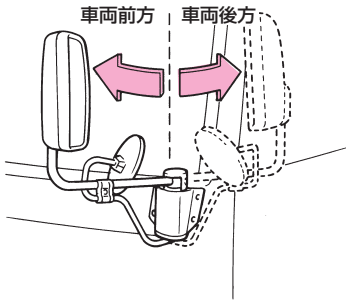
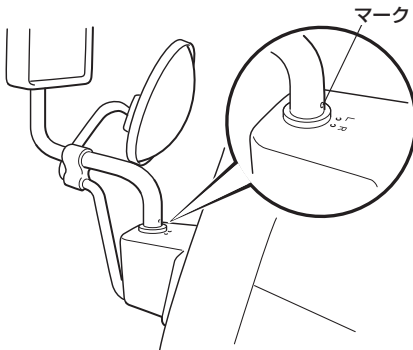
電動リモコンインナーミラー付き車

電動リモコンインナーミラー付き車を除く

ミラーヒーター

寒冷地仕様車

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置のときにリヤウインドゥデフォッガースイッチ（106ページ参照）を押すと、リヤウインドゥガラスの曇りを取るのと同時に、アウターミラーの鏡面も暖めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。
スイッチを押すと、約15分間作動します。もう一度押すと、作動を停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。

アウターミラーの格納・復帰

■助手席側ミラー（手動格納式）

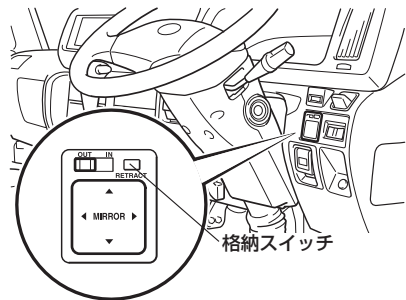
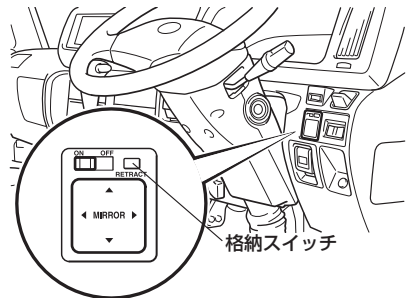
ミラーを手で車両前方、または後方に倒して格納します。

●ミラーをもどすときは、運転席側はR・助手席側はLの位置にマークを合わせてください。

⚠警告

ミラーを倒したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあります。

■助手席側ミラー（電動格納式）

エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”の位置のとき使用できます。
ミラーを車両前方に倒して格納することができます。
格納スイッチを押すごとに格納と復帰を繰り返します。

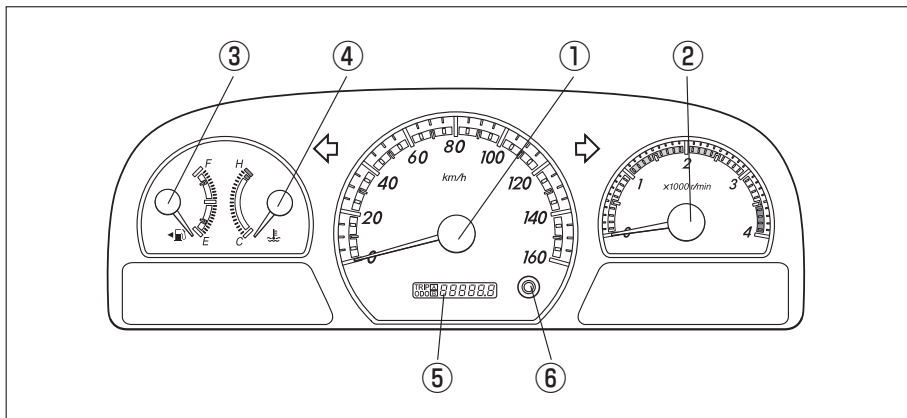
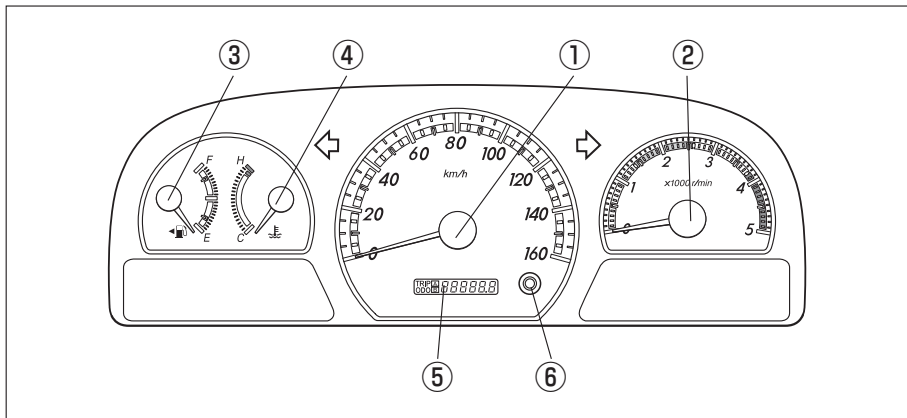
●手でミラーを車両後方に倒して格納したときも、スイッチを押すと、車両前方に倒して格納されます。
●手動で操作することもできます。

電動リモコンインナーミラー付き車

電動リモコンインナーミラー付き車を除く

⚠注意

ミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

メーター、表示灯、警告灯の見方

メーター

ディーゼル車

ＬＰＧ車

①スピードメーター

車両の走行速度を示します。

②タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

アドバイス

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を越えている範囲）にはいらないように運転してください。指針がレッドゾーンにはいる運転を続けるとエンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

③燃料計

燃料残量を示します。
燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。

	燃料タンク容量（L）
ディーゼル車	95
ＬＰＧ車	122

知 識

●坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。燃料補給時には、安全のためにもエンジンは必ず止めてください。

④水温計

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、エンジン冷却水の温度を示します。

アドバイス

指針がHのレッドゾーンにはいったときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、244ページの**「オーバーヒートしたときは」**にしたがって処置をしてください。

⑤オドメーター／トリップメーター

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、表示されます。

■オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

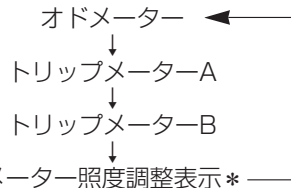
2種類の区間距離（トリップA、トリップB）をkmの単位で示します。

アドバイス

バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

⑥表示切り替え＆トリップメーターリセットボタン／メーター照度調整ボタン

■表示切り替え機能

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、ボタンを押すごとに次のように表示が切り替わります。

＊ライトスイッチがONのときに表示

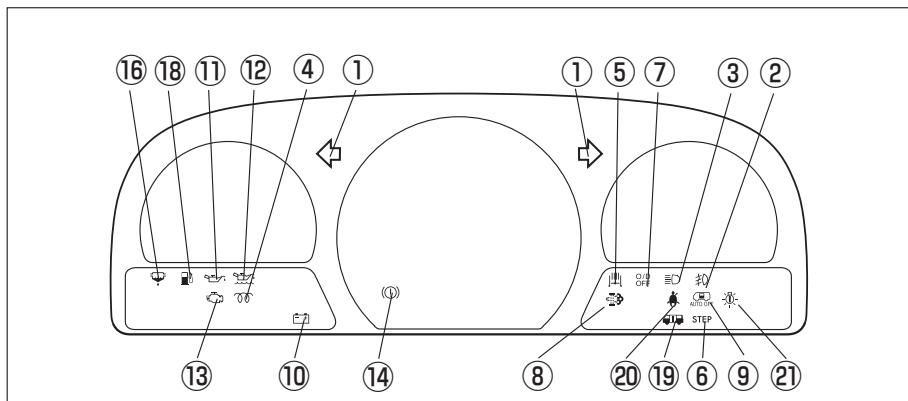
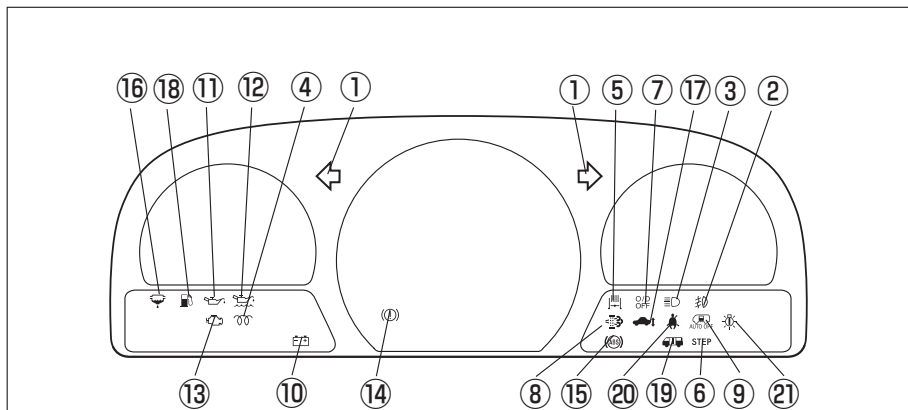
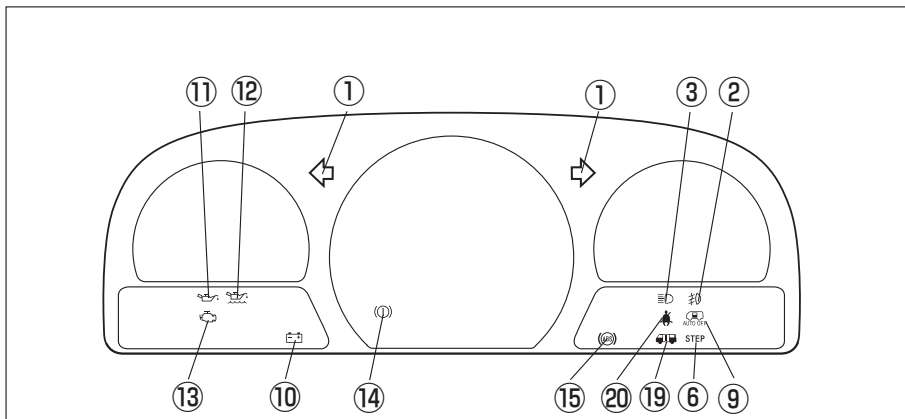
■トリップメーターリセット機能

トリップA、またはトリップBのリセットしたい方を表示させたまま、ボタンを押し続けると0にもどります。

■メーター照度調整機能

メーター照度調整の表示中にボタンを押し続けると照度を4段階に調整できます。

表示灯、警告灯

ディーゼル（4輪エアサスペンション装着車を除く）

ディーゼル（4輪エアサスペンション装着車）

LPG車

■表示灯

①方向指示表示灯
②フォグランプ表示灯
③ヘッドランプ上向き表示灯
④予熱表示灯
⑤排気ブレーキ作動表示灯
⑥電動格納式補助ステップ表示灯
⑦オーバードライブＯＦＦ表示灯
⑧排出ガス浄化装置表示灯
⑨オートドア自動/手動切替表示灯
㉑フォグランプ断線確認灯

■警告灯

⑩充電警告灯
⑪油圧警告灯
⑫油量警告灯
⑬エンジン警告灯
⑭ブレーキ警告灯／バキューム警告灯
⑮ＡＢＳ警告灯
⑯燃料・水分離器水位警告灯
⑰エアサス作動警告灯
⑱燃料残量警告灯
⑲センタードア開放警告灯
⑳運転席シートベルト警告灯

図はすべてのグレード・エンジン等における表示灯・警告灯を掲載しています。
実際のお車に設定される表示灯・警告灯はグレード・エンジン等により異なります。

①方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。

アドバイス

点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

②フォグランプ表示灯

フォグランプ装着車

フォグランプスイッチをＯＮの位置にすると点灯します。（103ページ参照）

③ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。

④予熱表示灯

ディーゼル車の寒冷地仕様車

エンジン スイッチを “ ＯＮ ” の位置にすると点灯し、予熱プラグの加熱が完了すると消灯します。

⑤排気ブレーキ作動表示灯

ディーゼル車

排気ブレーキを作動させると点灯します。（114ページ参照）

⑥電動格納式補助ステップ表示灯

STEP

電動格納式補助ステップ付き車

電動格納式補助ステップが出ているときに点灯します。（71ページ参照）

⑦オーバードライブＯＦＦ表示灯

O/D OFF

オートマチック車

オーバードライブをＯＦＦにすると点灯します。（120ページ参照）

アドバイス

オートマチック車で走行中（オーバードライブスイッチがＯＮのとき）オーバードライブＯＦＦ表示灯が点滅したときは、オートマチックトランスミッションの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

⑧排出ガス浄化装置表示灯

ディーゼル車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき、排出ガス浄化装置スイッチを押すと点灯します。もう一度、排出ガス浄化装置スイッチを押す、またはエンジンを始動したときにススが一定量堆積していなければ消灯します。

エンジンを始動したとき、ススが一定量堆積していると点滅します。

●点滅が約10秒で消灯すればクリーニングモードであることを示し、自動的にススの燃焼（再生）処理を行います。ただし、排出ガス浄化装置スイッチを押して燃焼（再生）処理を行うこともできます。

●点滅が約10秒以上継続しているときは、排出ガス浄化装置スイッチを押してススの燃焼（再生）処理が必要であることを示しています。詳しくは112ページを参照してください。

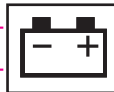
⑨オートドア自動/手動切替表示灯

オートドア装着車

センタードアの横にある切り替えレバー（69ページ参照）、キャンセルスイッチ（76ページ参照）を「手動」にすると点灯します。切り替えレバー、キャンセルスイッチを「自動」にすると消灯します。

アドバイス

表示灯が点灯したときは、他の乗員が誤って切り替えレバー、キャンセルスイッチを「手動」に操作していないか確認してください。

⑩充電警告灯

エンジン スイッチを“ ON ”の位置にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

アドバイス

エンジン回転中に点灯したときは、Ｖベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

⑪油圧警告灯

エンジン スイッチを“ ON ”の位置にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。

●ディーゼル車の点検方法は**188ページ**、ＬＰＧ車の点検方法については**「メンテナンスノート」**を参照してください。

アドバイス

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めて、エンジンオイル量を点検してください。
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

⑫油量警告灯

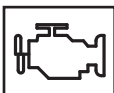
エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン回転中、エンジンのオイル量が少なくなると点灯します。

アドバイス

警告灯が点灯したときは、すみやかにエンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。点灯したまま走行をつづけると、エンジンを損傷するおそれがあります。（ディーゼル車の点検・補給方法は**188ページ**、ＬＰＧ車の点検・補給方法については**「メンテナンスノート」**を参照してください。）

知 識

坂道など車両が大きく傾いた場合やカーブなどではエンジン内のオイルが移動するため警告灯が点灯することがあります。

⑬エンジン警告灯

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システム、またはオートマチックトランスミッション電子制御システム（オートマチック車）に異常があると点灯します。

アドバイス

エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⑭ブレーキ警告灯／バキューム警告灯・ブザー

■ブレーキ警告灯

ＡＢＳ装着車を除く

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置で次のような場合に点灯します。
- ●パーキングブレーキをかけたままのとき
- ●ブレーキ液が不足しているとき
- ●ブレーキシステムに異常があるとき

ＡＢＳ装着車

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置で次のような場合に点灯します。
- ●パーキングブレーキをかけたままのとき
- ●ブレーキ液が不足しているとき
- ●ブレーキシステムに異常があるとき

また、以下の状態のときは、エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ●パーキングブレーキが解除されているとき
- ●ブレーキ液が不足していないとき

その後、ブレーキ油圧増圧機能に異常があると点灯します。

⚠警告

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
- ●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても、ブレーキ液を補給しても点灯したままのとき

この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏み続けてください。

■バキューム警告灯・ブザー

エンジン回転中、バキュームタンク内の負圧が低下すると点灯し、警告ブザーが鳴ります。
ブザーは車両を停車して、パーキングブレーキレバーを引くと止まります。

⚠警告

警告灯が点灯し、ブザーが鳴ったときは、絶対に走行しないでください。ブレーキが十分効かないため危険です。

⚠注意

●エンジン回転中に点灯し、ブザーが鳴ったときはただちに安全な場所に停車させ、エンジンをアイドル回転させて警告灯が消灯するまで、負圧を上昇させてください。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏み続けてください。
●アイドル回転させても消灯しないときは、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

知識

●エンジン始動時、約20秒間警告灯が点灯することがありますが、その後消灯すれば異常ではありません。
●繰り返しブレーキペダルを踏むと警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがありますが、数秒後に消えれば異常ではありません。

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車速が約5km/h以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーは、パーキングブレーキレバーを解除すると止まります。

⚠注意

ブザーが鳴ったときはすみやかに停車してパーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く磨耗したりブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

⑮ＡＢＳ警告灯

ＡＢＳ装着車

●エンジン スイッチを“ＯＮ”の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。その後、ＡＢＳシステムに異常があると点灯します。
●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
●警告灯が点灯しているときは、ＡＢＳが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。(60ページ参照)

アドバイス

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
●エンジン スイッチを“ＯＮ”の位置にしても点灯しないとき。
●エンジン スイッチが“ＯＮ”の位置で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。
なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⑯燃料・水分離器水位警告灯

ディーゼル車

エンジン スイッチを“ ON ”の位置にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
エンジン回転中、燃料・水分離器内に規定レベル以上の水がたまると点灯します。

点灯したまま走行を続けないでください。噴射ポンプが焼きつきエンジンを損傷するおそれがあります。点灯したときは、すみやかに排水してください。（190ページ参照）

⑰エアサス作動警告灯

4輪エアサスペンション装着車

エンジン スイッチを“ ON ”の位置にすると点滅し、数秒後に消灯します。
エンジン回転中、4輪エアサスペンションシステムに異常があると点滅します。

注 意

駐停車するときは、ルーフと建物などとのすき間には十分注意してください。人の乗りおりや荷物の積みおろしなどで車高が変化し、ルーフを建物などにぶつけるおそれがあります。

アドバイス

エンジン回転中に点滅したときは、装置の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⑱燃料残量警告灯

ディーゼル車

エンジン スイッチが“ ON ”の位置のとき残量が約14L以下になると点灯します。
点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

知 識

坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため警告灯が早めに点灯することがあります。

⑲センタードア開放警告灯

センタードアが確実に閉まっていないと点灯します。

⚠警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。センタードアが確実に閉まっていないため、走行中にセンタードアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

⑳運転席シートベルト非着用警告灯

エンジン スイッチが“ ON ”の位置のとき運転席シートベルトを着用していないと点滅します。
ただちにシートベルトを着用してください。エンジン スイッチが“ ON ”のとき運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20 km/h以上になると、断続音が約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音が変わります。

●シートベルトを装着すると消音します。

㉑フォグランプ断線確認灯★

フォグランプ断線検知スイッチのL（左側）またはR（右側）を押したときに、フォグランプの電球が断線していない場合に薄く点灯します。（103ページ参照）

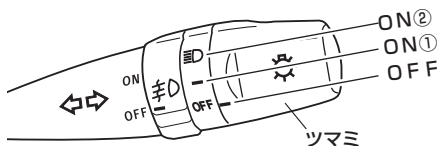
⚠注意

断線検知スイッチを操作しても確認灯が点灯しない場合は、フォグランプの電球が断線しているおそれがあります。
すみやかにフォグランプの電球を新品と交換してください。（208ページ参照）

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

視界の確保

ライトスイッチ

エンジン スイッチの位置に関係なく点灯・消灯できます。

ツマミをまわすとＯＮ①、ＯＮ②の位置で、下表○印のランプが点灯します。

ツマミの位置	①	②
ヘッドランプ	—	○
車幅灯、尾灯	○	○
番号灯	○	○
メーター照明	○	○
リヤホイール灯※	○	○

※リヤホイール灯付き車

■ヘッドランプを上向きに切り替えるには

●ライトスイッチがＯＮ②の位置のときレバーを前方に押します。

●ライトスイッチがＯＦＦの位置でもレバーを手前に引いている間、ヘッドランプの上向きが点灯します。

●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

知 識

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ライト類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

■ランプオートカットシステム★

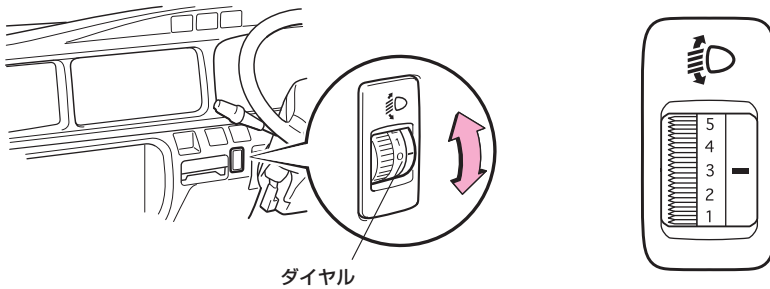
●ライトスイッチがＯＮの位置のままエンジンを止め、運転席側ドアを開けると自動的に消灯します。

●次のいずれかの操作をすると再び点灯します。

- エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置にする。
- ライトスイッチをＯＦＦの位置にし、もう一度ＯＮの位置にする。（この場合ドアを開けてもライトは消灯しません。）

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ヘッドランプレベリング調整ダイヤル

4輪エアサスペンション装着車を除く

ヘッドランプ（ロービーム）が点灯しているときに使用できます。
ダイヤルをまわすと、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。

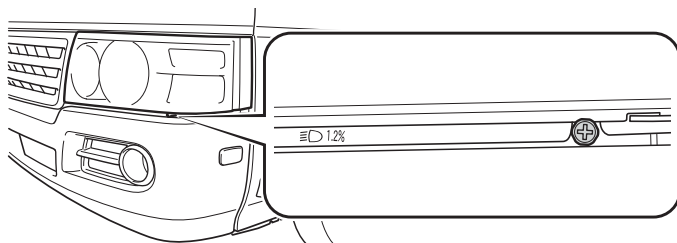
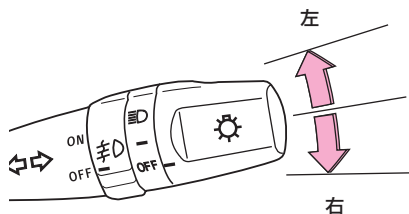
- 通常は0（ゼロ）の位置（光軸が一番上向き）で使用します。
- 荷物や人をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもとちがう（いつもより上向きになっている）ときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光を下向きにします。

荷物や人をおろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしておいてください。

<ダイヤル位置の目安>

<table>
<tr><th colspan="4">乗員や荷台の積載状況</th><th>ダイヤル位置</th></tr>
<tr><td colspan="4">運転席のみ乗車時</td><td>0</td></tr>
<tr><td rowspan="5">運転席のみ乗車時でかつ最大積載時</td><td rowspan="4">バス</td><td rowspan="3">ロングボディ車</td><td>下記以外</td><td>1</td></tr>
<tr><td>幼児車かつハイルーフかつＭＴ車</td><td rowspan="3">2</td></tr>
<tr><td>幼児車かつ標準ルーフかつＡＴ車</td></tr>
<tr><td colspan="2">標準ボディ車</td></tr>
<tr><td colspan="3">バン</td><td>3</td></tr>
</table>

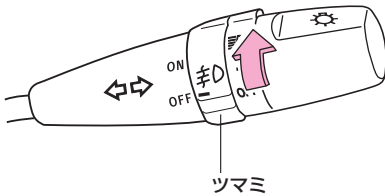
知 識

●車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを0（ゼロ）の位置（一番上向きの位置）にしてから行ってください。
●光軸調整時にダイヤル位置が0（ゼロ）のときの光軸基準を示す数値が、ヘッドランプ下に刻印してあります。

方向指示レバー

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置のとき使用できます。
レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅します。
●メーター内の方向指示表示灯も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

アドバイス

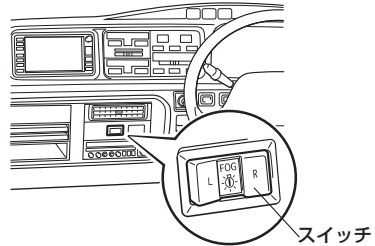
点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

フォグランプスイッチ★

ライトスイッチがＯＮ①、ＯＮ②の位置のとき使用できます。
ツマミをＯＮの位置にまわすと点灯し、ＯＦＦの位置にまわすと消灯します。

フォグランプ断線検知スイッチ★

フォグランプスイッチをＯＮにしてもフォグランプが点灯しない場合、検知スイッチ（Ｌ［左側］またはＲ［右側］）を押します。

●フォグランプの電球が断線している場合は、検知スイッチを押してもフォグランプ断線確認灯は不灯のままです。(99ページ参照)

●フォグランプの電球が断線していない場合は、検知スイッチを押している間フォグランプ断線確認灯が薄く点灯します。

知識

●片側の電球が断線した場合でも、左右ともにフォグランプが消灯してしまいます。電球を新品と交換する前に、フォグランプ断線検知スイッチを押して、左右どちらのフォグランプの電球が断線しているかを確認してください。

●フォグランプの電球が断線していても、フォグランプスイッチをＯＮの位置にまわすとメーター内のフォグランプ表示灯は点灯します。(94ページ参照)

注意

断線検知スイッチを操作しても確認灯が点灯しない場合は、フォグランプの電球が断線しているおそれがあります。(99ページ参照)すみやかにフォグランプの電球を新品と交換してください。(208ページ参照)

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ワイパー&ウォッシャースイッチ

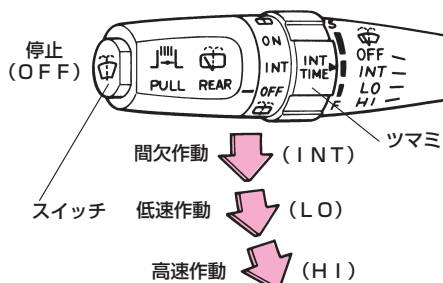
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置のとき使用できます。

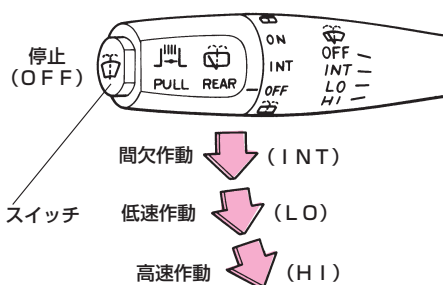
フロント

■ワイパーの使い方

間欠時間調整式ワイパー

レバーを操作すると、下のように作動します。

●間欠作動のときツマミをまわすと、間欠時間を約2～11秒の間で調整できます。

間欠ワイパー

レバーを操作すると、下のように作動します。

■ウォッシャー液の噴射方法

レバー先端のスイッチを押します。

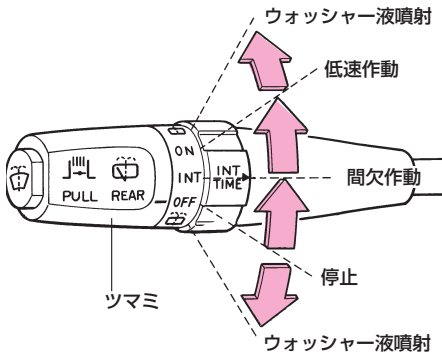
●間欠時間調整式ワイパーは、ワイパーが2～3回作動します。

⚠ 警告

寒冷時はガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がフロントガラスに凍りつき視界不良をおこすおそれがあります。

リヤ★

■ワイパーの使い方

ツマミを図のようにまわすと作動します。

■ウォッシャー液の噴射方法

●低速作動中にウォッシャー液を噴射させるときはＯＮの位置から上の[ウォッシャー記号]側にまわします。

●ツマミをＯＦＦの位置から下の[ウォッシャー記号]側にまわすとウォッシャー液が噴射されます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

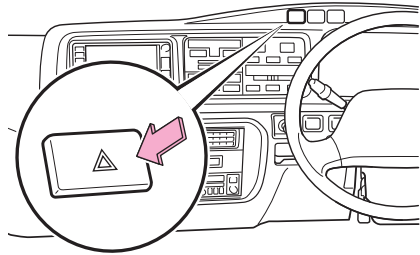
アドバイス

●ガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させるとワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させるとガラスを傷つけるおそれがあります。
●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをＯＦＦ、エンジンスイッチを“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”の位置にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

知識

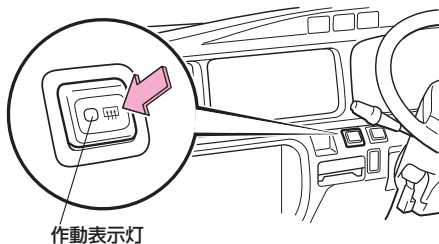
ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

非常点滅灯スイッチ

故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。
●スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。
●メーター内の方向指示表示灯も点滅します。
もう一度押すと消灯します。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチ★

リヤガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置のとき使用できます。

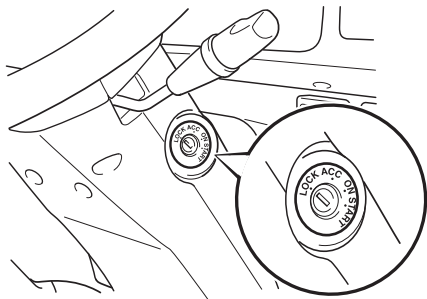
●スイッチを押すと約15分間作動します。もう一度押すと、停止します。
- 作動中は作動表示灯が点灯します。

知 識

●連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

●寒冷地仕様車の場合、スイッチを押すと、ミラーヒーター（88ページ参照）も同時に作動します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

運転装置

エンジン（イグニッション）スイッチ

各位置の働き

LOCK（ロック）	**キーを抜き差しできる位置。** キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC（アクセサリー）	**エンジン停止時、次のものが使用できる位置。** シガレットライター、電動リモコンミラー
ON（オン）	**エンジン回転中の位置。** ディーゼル車の寒冷地仕様車では始動時に予熱表示灯が点灯します。（次ページ参照）
START（スタート）	**エンジンを始動する位置。**

知 識

●エンジン停止時はエンジン スイッチを“ON”または“ACC”の位置のまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

●エンジン スイッチを“ON”の位置にしたとき、バキューム警告ブザーが鳴ることがありますがエンジンをかけて鳴り止めば異常ではありません。（96ページ参照）

■“LOCK”から“ACC”の位置にまわすとき

キーがまわりにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

■“ACC”から“LOCK”の位置にまわすとき

キーを押しながらまわします。
オートマチック車は、シフトレバーをⓅの位置にしてからキーを押しながらまわします。

エンジンのかけ方

ディーゼル車

エンジンをかけるまえに

1 パーキングブレーキをかけていることを確認します。

2 シフトレバーがマニュアル車はⓃの位置、オートマチック車はⓅの位置にあることを確認します。
（オートマチック車はⓃでも始動できますが、安全のためⓅで行ってください。）

⚠ 注意

窓越しなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。
思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず運転席にすわって行ってください。

エンジンのかけ方

1 運転席にすわり、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

2 アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチを“ＳＴＡＲＴ”の位置にまわし、エンジンを始動します。

●マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで行います。
●寒冷地仕様車は、エンジン スイッチを“ＡＣＣ”にすると予熱表示灯（94ページ参照）が点灯します。予熱表示灯が消灯したらエンジン スイッチを“ＳＴＡＲＴ”の位置にまわします。

アドバイス

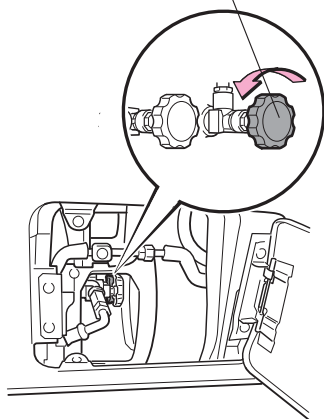
●約30秒を限度にエンジンがかかるまでエンジン スイッチをまわし続けてください。約30秒間始動してもかからないときは、エンジン スイッチを“ＡＣＣ”の位置にもどし、約20秒以上待ってから再始動してください。
●予熱表示灯が点灯しているときにエンジンをかけると、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。消灯してからエンジンをかけてください。

知識

予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

LＰＧ車

エンジンをかけるまえに

1 パーキングブレーキをかけていることを確認します。
2 シフトレバーが🅝の位置にあることを確認します。
3 燃料取り出しバルブ（赤色）が左にいっぱいまでまわっているか確認します。まわっていない場合はいっぱいまでまわし、開けます。

エンジンのかけ方

⚠ 注意

窓越しなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。
思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず運転席にすわって行ってください。

1 運転席にすわり、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2 クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
3 アクセルペダルは踏まずに、エンジン スイッチを“ ＳＴＡＲＴ ”の位置にまわし、エンジンを始動します。

知 識

2〜3回行ってもエンジンがかからないとき、および寒冷時の始動は次ページをご覧ください。

4 エンジンがかかったらしばらく暖機運転をします。

アドバイス

寒冷時での暖機運転中はアクセルペダルをあおらないでください。レギュレーターが凍結するおそれがあります。

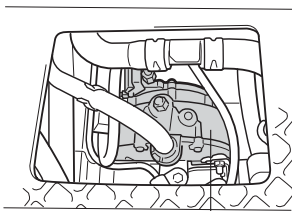
エンジンがかからないとき、または寒冷時の始動のときは

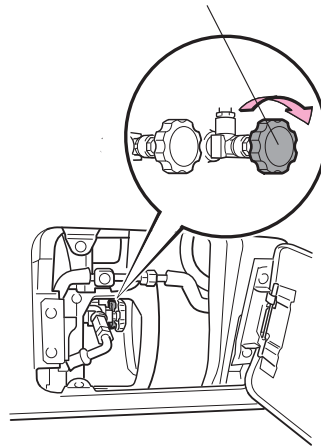
アクセルペダルを適度に踏んだまま、エンジン スイッチを“ ＳＴＡＲＴ ”の位置にまわし、エンジンを始動します。

●ブレーキペダルをしっかりと踏み、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで行います。

アドバイス

●以上の操作をしてもエンジンがかからないときは、燃料過流防止弁が作動していることがあります。燃料取り出しバルブ（赤色）を右にいっぱいまでまわして完全に閉めてから、再度バルブをゆっくりと開けてください。

●寒冷時、始動に失敗したとき、または始動後にエンストしたときは、レギュレーターが凍結することがあります。この場合は、レギュレーターにぬるま湯をかけて暖めます。（レギュレーター以外にはぬるま湯をかけないようにしてください。）

ＬＰＧ車の駐停車について

長時間駐車するときは、ボンベの燃料取り出しバルブ（赤色）を右にいっぱいまでまわして閉めます。

排出ガス浄化装置スイッチ

ディーゼル車

走行中、排出ガス浄化装置スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯（95ページ参照）が点滅したときは、排出ガス浄化装置スイッチを押して排出ガス浄化装置に捕集したススを燃焼（再生）処理（クリーニング）させてください。

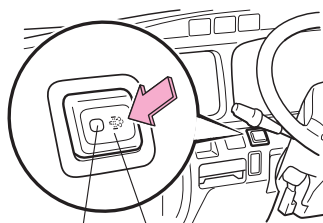
●燃焼（再生）処理は表示灯が常時点滅してから、約150km走行以内に行ってください。
燃焼（再生）処理を行わないまま走行を続けると、ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、すみやかに燃焼（再生）処理してください。

●ブザーを無視して、燃焼（再生）処理をしないまま走行を続けると、メーター内のエンジン警告灯（96ページ参照）が点灯します。エンジン警告灯が点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●ススの燃焼（再生）処理中は、アクセルペダルを操作しないでください。ススの燃焼（再生）処理が終了する前に、アクセルペダルを踏み込んだり、空ぶかししたりすると、ススの燃焼（再生）処理が中断されます。処理中に作動が停止してしまった場合は、もう一度操作をやり直してください。

知 識

TOYOTA－D－CAT※車は、ススを排出ガス浄化装置に捕集し、自動的にススの燃焼（再生）処理するクリーニングモードとなります。ただし、運転条件によっては、ススの燃焼（再生）処理が完了しない場合があります。そのときは、排出ガス浄化装置スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯（95ページ参照）が点滅します。これは、排出ガス浄化装置の機能を回復するもので故障ではありません。

※D－CATは、Diesel－Clean Advanced Technologyの略。

排出ガス浄化装置スイッチ

排出ガス浄化装置表示灯

エンジン スイッチが“ ON ”のとき、排出ガス浄化装置スイッチを押すと点灯します。もう一度、排出ガス浄化装置スイッチを押す、またはエンジンを始動したときにススが一定量堆積していなければ消灯します。

エンジンを始動したとき、ススが一定量堆積していると点滅します。
●点滅が約10秒で消灯すればクリーニングモードであることを示し、自動的にススの燃焼（再生）処理を行います。ただし、排出ガス浄化装置スイッチを押して燃焼（再生）処理を行うこともできます。
●点滅が約10秒以上継続しているときは、排出ガス浄化装置スイッチを押してススの燃焼（再生）処理が必要であることを示しています。

燃焼（再生）処理のしかた

1 車を安全な場所に停車させます。
2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをマニュアル車はⓃ、オートマチック車はⓅの位置にします。
●エンジンはかけたままにしておきます。
3 排出ガス浄化装置スイッチを押します。
●スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯（95ページ参照）が点滅から点灯にかわり、アイドリング回転数が上がり排気ブレーキが作動します。
 ●スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯が消灯し、アイドリング回転数がもとにもどればススの燃焼（再生）処理は終了です。
 ●ススの燃焼（再生）処理は約15～20分程※で終了します。
 ●ススの燃焼（再生）処理が終了するまで、アクセルペダルを操作しないでください。
 ※外気温により異なります。

⚠ 警告

ススの燃焼（再生）処理を行うときは、排気管の周辺に可燃物がないことを確認してください。排気管周辺に燃えやすいものがあると、火災になるおそれがあり危険です。また、ススの燃焼（再生）処理中は排気ガスが高温になりますので、排気管の周辺で作業などをすると、やけどをするおそれがあります。

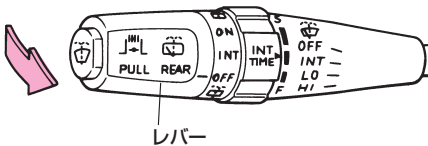
知識

●ススの燃焼（再生）処理が自動で処理しやすくするために、停車時はシフトレバーをマニュアル車はⓃ、オートマチック車はⓅの位置にすることを推奨します。
●ススの燃焼（再生）処理はマフラーの中の温度を一定の温度に上げますので、マフラーの中の温度が高いほど早く終了します。
●ススの燃焼（再生）処理はエンジンが冷えているときよりも、運転直後に行うほうが早く終了します。

排気ブレーキスイッチ

ディーゼル車

降坂時などにやや強めのエンジンブレーキを効かすことができます。

●レバーを手前に引きます。
- 作動表示灯（94ページ参照）が点灯し作動待機状態であることを知らせます。

●走行中にアクセルペダルを離すと、排気ブレーキが作動します。

●次のときは排気ブレーキは作動しません。
- クラッチペダルまたはアクセルペダルを踏んだとき
- シフトレバーをⓃの位置にしたとき
- ＡＢＳが作動したとき（ＡＢＳ装着車）

●スリップしやすい氷雪路などでは排気ブレーキが自動的に解除される場合があります。（ＡＢＳ装着車）

●レバーをもどすと解除されます。（作動表示灯が消灯します。）

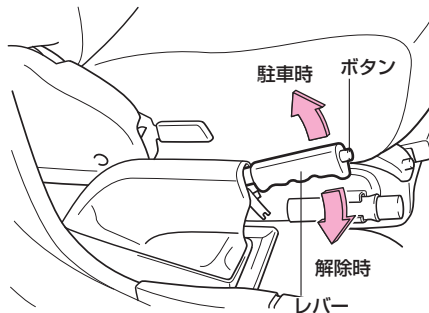
知 識

●排出ガス浄化のため、車両が信号待ちなどで停車したときにアイドリング回転数があがり、排気ブレーキが作動します。

●アイドリング状態で長時間放置すると、白煙排出防止のためアイドリング回転数があがり、排気ブレーキが作動することがあります。

●オートマチック車では、排気ブレーキを作動させると車速などに応じてシフトダウンすることがあります。

パーキングブレーキ

駐車するときはボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引きます。
解除するときはレバーを少し引き上げながら先端のボタンを押さえて、完全に下までもどします。

⚠ 注 意

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキ部品が早く摩耗したりブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

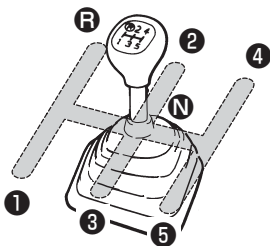
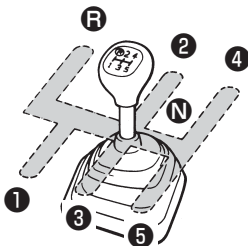
アドバイス

冬季のパーキングブレーキの使用については、176ページの「駐車するときは」をお読みください。

ホーン

ハンドルの マーク周辺部を押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。

マニュアルトランスミッション

ディーゼル車

ＬＰＧ車

■駐車するときは

パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを平地や下り坂ではⓇ、上り坂では❶の位置にします。
また、寒冷時に駐車するときは、176ページ **「駐車するときは」** をあわせてご覧ください。

⚠注意

駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、車両が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

車両が動いているときは、シフトレバーをⓇの位置にいれないでください。車が完全に止まってから操作しないとトランスミッションを損傷するおそれがあります。

オートマチックトランスミッション

34ページの**「オートマチック車の取り扱いチェックポイント」**、121ページの**「オートマチック車の運転のしかた」**もあわせてお読みください。

各位置の働き

駐車およびエンジン始動

駐車のときは必ずシフトレバーをⓅの位置にしてください。（Ⓟでのみエンジン スイッチからキーが抜けます。）

後退

ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴り、シフトレバーがⓇの位置にあることを運転者と車外の人に知らせます。

動力が伝わらない状態

シフトレバーがⓃの位置でもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

通常走行（前進）

スピードに応じてギヤが自動的にかわります。
- O/DスイッチがＯＮのときは1速から6速まで
- O/DスイッチがＯＦＦのときは1速から5速まで

下り坂走行（前進）

スピードや走行条件に応じて、ギヤが1速と4速の間で自動的にかわります。
エンジンブレーキが必要な場合に使います。

急な下り坂（前進）

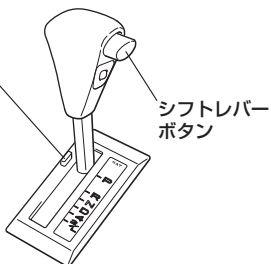
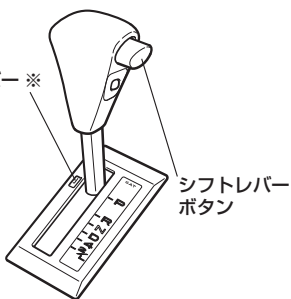
スピードや走行条件に応じて、ギヤが1速と2速の間で自動的にかわります。
強力なエンジンブレーキが必要な場合に使います。
- さらに強力なエンジンブレーキが必要な場合は、1速固定スイッチ（120ページ参照）を使用してください。

 知 識

排気ブレーキを作動させると車速などに応じてシフトダウンすることがあります。

シフトレバーの動かし方

シフトレバーをⓅとⒹの間で動かすときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、車を完全に止めてから行ってください。

Aタイプ

Bタイプ

※ シフトロック解除ボタンはカバーの下にあります。

➡ シフトレバーボタンを**押さずに**操作します。

⇨ シフトレバーボタンを**押して**操作します。

⇨ **ブレーキペダルを踏んだまま、**シフトレバーボタンを押して操作します。

⚠ 警告

➡の操作はシフトレバーボタンを押さずに操作してください。いつもレバーボタンを押して操作していると意に反してシフトレバーをⓅ、Ⓡ、❹または 2/L の位置にいれてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■シフトロックシステム

オートマチック車でのシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければⓅからレバー操作できません。
- エンジン スイッチが、“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- シフトレバーを運転席側に引いたままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●Ⓟ以外ではエンジン スイッチからキーは抜けません。
- エンジン スイッチからキーを抜くときは、シフトレバーをⓅにいれてください。
  （Ⓟ以外ではキーを“ ＡＣＣ ”から“ ＬＯＣＫ ”の位置にまわせません。）

●Ⓡにいれるとバックブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

アドバイス

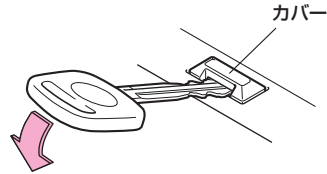
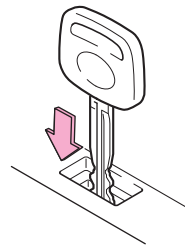
Aタイプ

万一、シフトレバーがⓅの位置からレバー操作できないときは、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”の位置にしてシフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作してください。
この場合、シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

Bタイプ

万一、シフトレバーがⓅの位置からレバー操作できないとき（センタードアが閉まっていてもレバー操作できないとき等）は、エンジン スイッチからキーを抜き、以下の操作を行ってください。

1 シフトロック解除ボタンカバーの切り欠きに、キーを挿し込みカバーをはずす。

2 キーを、シフトロック解除ボタンの穴に差し込み、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを操作する。

シフトレバーがⓅの位置からレバー操作できないときは、シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オーバードライブ（O/D）スイッチ

オーバードライブをＯＮにしておくと、シフトレバーをⒹの位置にして走行しているときに、6速ギヤ（オーバードライブギヤ）にはいり、燃費性能と静粛性を高めます。
スイッチを押すごとにＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●ＯＦＦのときオーバードライブＯＦＦ表示灯（94ページ参照）が点灯します。

■スイッチがＯＮのとき

通常走行に適します。

●シフトレバーをⒹの位置にして走行中、6速ギヤにはいり、燃費性能と静粛性を高めます。

■スイッチがＯＦＦのとき

坂道走行に適します。

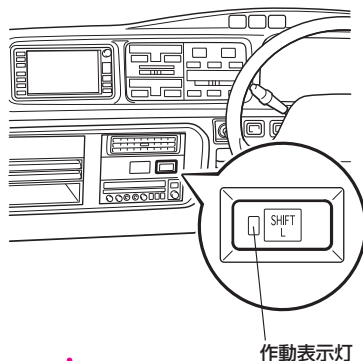
●下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。

●上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

1速固定スイッチ

シフトレバーを 2/L の位置にして走行しているときに、1速固定スイッチを押すと1速ギヤにはいり、強めのエンジンブレーキがかかります。
スイッチを押すごとに「1速固定」と「1・2速の自動変速」に切り替わります。

●1速固定中にはスイッチ内の作動表示灯が点灯します。

●１速固定中にスイッチを押すと、作動表示灯が消灯し、1速固定が解除されます。

次の操作でも1速固定が解除されます。

●シフトレバーを 2/L 以外の位置にする。

●エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”の位置にする。

オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車の特性

■クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーがⓅⓃ以外の位置にあると、動力がつながった状態になりアクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

知 識

停車中は、平坦路であっても車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●エンジン始動直後やエアコン作動時および排出ガス浄化装置作動時など、自動的にエンジンの回転があがり（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。

●渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節するとスムーズに行えます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。
これをキックダウンといいます。

知 識

追い越し時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。

●すべりやすい路面やカーブ走行中では、急激なアクセルペダルの操作は避けてください。

エンジンをかけるまえに

1 正しい運転姿勢をとります。
ペダルが確実に踏め、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。（46ページ参照）

2 アクセルペダルの位置を確認します。

3 ブレーキペダルの位置を右足で確認します。
踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認し、足におぼえさせておくことが重要です。

エンジン始動

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーがⓅの位置にあることを確認します。
Ⓝでも始動できますが、安全のため車輪が固定されるⓅで行ってください。

3 ブレーキペダルを右足で踏みます。

4 エンジンを始動します。

発　進

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏みシフトレバーを操作します。
ブレーキペダルをしっかり踏んでいないとクリープ現象により、車が動くことがあります。
とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などはクリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

⚠警告

シフトレバー操作は、絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

2 パーキングブレーキを解除します。

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。
マニュアル車では、発進時のスピード調節を半クラッチ操作と併用して行いますが、オートマチック車では、アクセル操作のみで行いますのでアクセル操作は慎重に行ってください。

■上り坂の発進

1 シフトレバーの位置を目で確認します。

2 アクセルペダルをゆっくり踏みます。

3 車が動き出す感触を確認してから、パーキングブレーキを解除し、発進します。

走　行

■通常走行

シフトレバーをⒹの位置にしたまま走行します。アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

■急加速

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

■上り坂走行

上り坂でスピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。このようなときは、あらかじめシフトレバーを❹にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

■下り坂走行

シフトレバーがⒹのままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて❹または 2/L にいれエンジンブレーキを併用します。
オーバードライブスイッチをＯＦＦにすることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

アドバイス

急な坂道では、1速固定スイッチを使用すると低速で登板、降坂をスムーズに行えます。

⚠警告

坂道などでは、シフトレバーを**D**、**4**または**2/L**の位置にいれたまま惰性で後退したり、**R**にいれたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

⚠注意

●走行中にはシフトレバーを**N**の位置にしないでください。**N**にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
●前進で走行中はシフトレバーを**R**にいれないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションに無理な力が加わり、故障の原因となるおそれがあります。
●ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

シフトレバーを**N**の位置にしたままで走行するとトランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停　車

1. シフトレバーを**D**の位置にしたままブレーキペダルをしっかり踏みます。
   エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。
2. 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
   上り坂の停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。
   ブレーキペダルを踏み、しっかりとパーキングブレーキをかけてください。
3. 停車時間が長くなりそうなときは、シフトレバーを**P**または**N**の位置にいれます。

⚠警告

停車中の空ふかしはしないでください。
シフトレバーが**P****N**以外の位置にはいっていると車が急発進し、思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

停車後再発進するときはシフトレバーが**D**の位置にあることをしっかり確認してから、発進してください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーを**D**の位置のままアクセルをふかしながら止まらないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。

駐　車

1 車を完全に止めます。
2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実にかけます。
3 シフトレバーを🅟の位置にいれます。
駐車時には必ず🅟にあることを確認してください。
4 エンジンを止めます。
車を離れるときは必ずエンジンを停止してください。

⚠注意

エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーが🅟以外の位置にはいっていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車輪が完全に止まらないうちに、シフトレバーを🅟の位置にいれないでください。トランスミッションに無理な力がかかり、故障の原因となるおそれがあります。

4輪エアサスペンション★

走行状態に応じてサスペンションの硬さと車高を自動的に制御する装置です。

⚠警告

縁石乗り上げ時、脱輪時、ジャッキアップ時、レッカー車等で車両を持ち上げてけん引してもらうときなどは、必ずエンジンを止めてください。エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置のままにしておくと、車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあります。

エアサス作動警告灯

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置にすると点滅し、数秒後に消灯します。
エンジン回転中、4輪エアサスペンションシステムに異常があると点滅します。

⚠注意

駐停車するときは、ルーフと建物などとのすき間には十分注意してください。人の乗りおりや荷物の積みおろしなどで車高が変化し、ルーフを建物などにぶつけるおそれがあります。

アドバイス

エンジン回転中に点滅したときは、装置の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

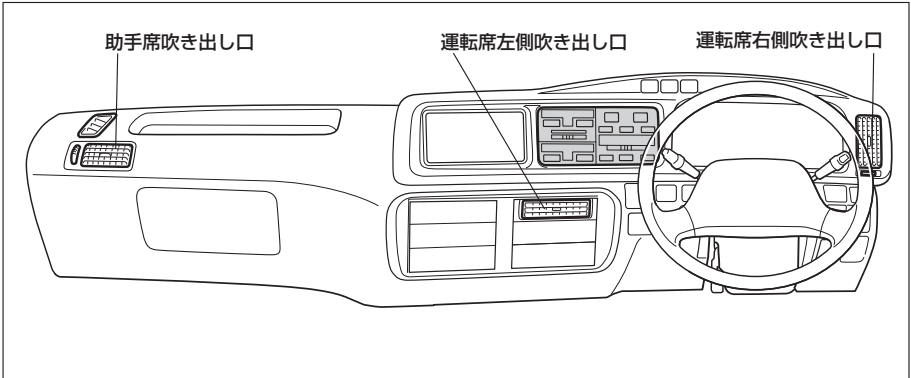
4 快適装備

空調

エアコンインデックス

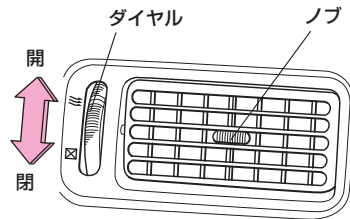
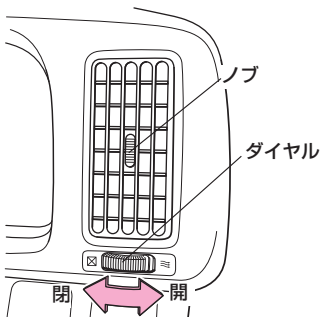
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

吹き出し口（フロント）

吹き出し口の調整

■運転席吹き出し口

ノブを上下または左右に動かして風向きを調整します。
右側吹き出し口は、ダイヤルを左右に動かすことにより吹き出し口を開閉することができます。

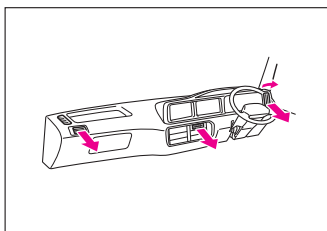
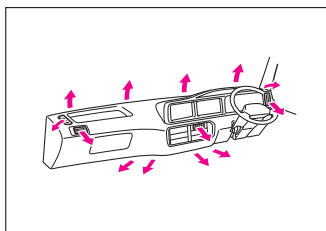
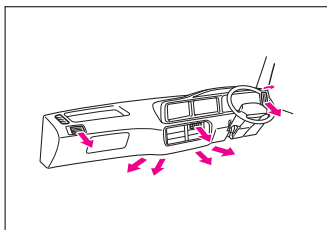
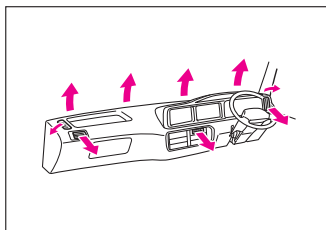
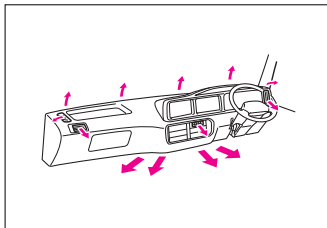
■助手席吹き出し口

ノブを上下または左右に動かして風向きを調整します。
ダイヤルを上下に動かすことにより吹き出し口を開閉することができます。

知 識

クーラー付き車の場合、冷房時まれに吹き出し口から霧が吹き出したようにみえることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

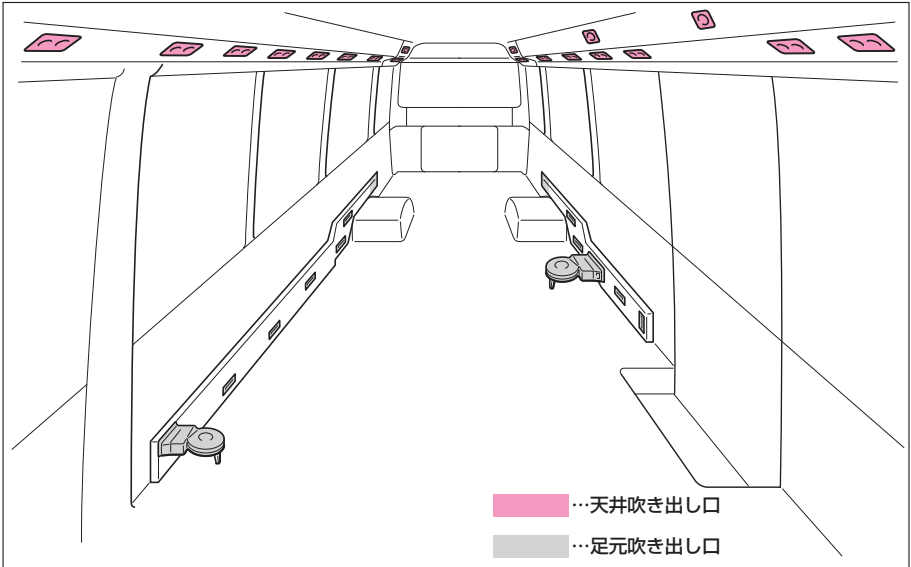
吹き出し口表示と使用目的

使用目的に合った吹き出し口を選択することができます。

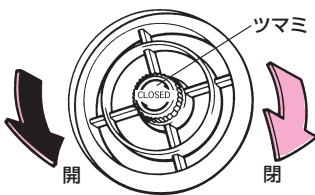
上半身に送風したいとき

足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

上半身と足元に送風したいとき

窓ガラスの曇りを取りたいとき

足元に送風したいとき

知 識

オートエアコン装着車は、ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときは、吹き出し口が自動的に切り替わります。

吹き出し口（リヤ）

吹き出し口の調整

※上記のイラストは1つの例であり、吹き出し口の数・位置は車両により異なります。

■天井吹き出し口

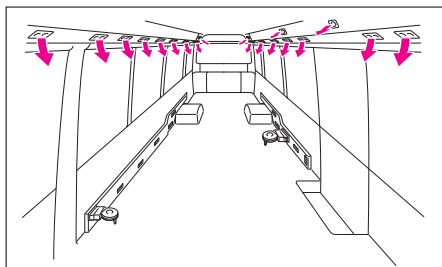
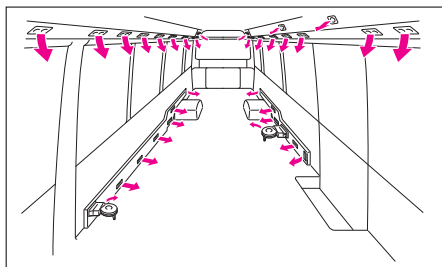
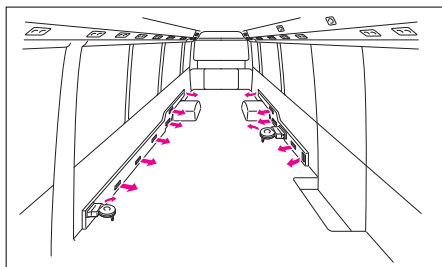
ツマミを上下または左右に動かして風向きを調整します。
ツマミをまわすことにより吹き出し口を開閉することができます。

知 識

クーラー付き車の場合、冷房時まれに吹き出し口から霧が吹き出したようにみえることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

吹き出し口表示と使用目的

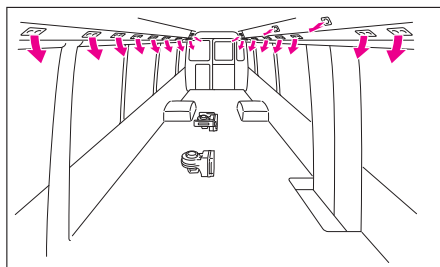
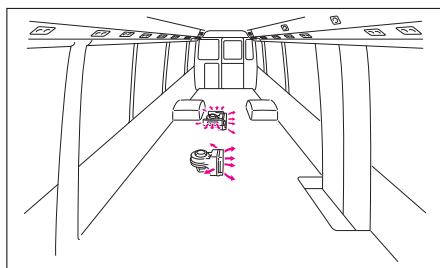
使用目的に合った吹き出し口を選択することができます。

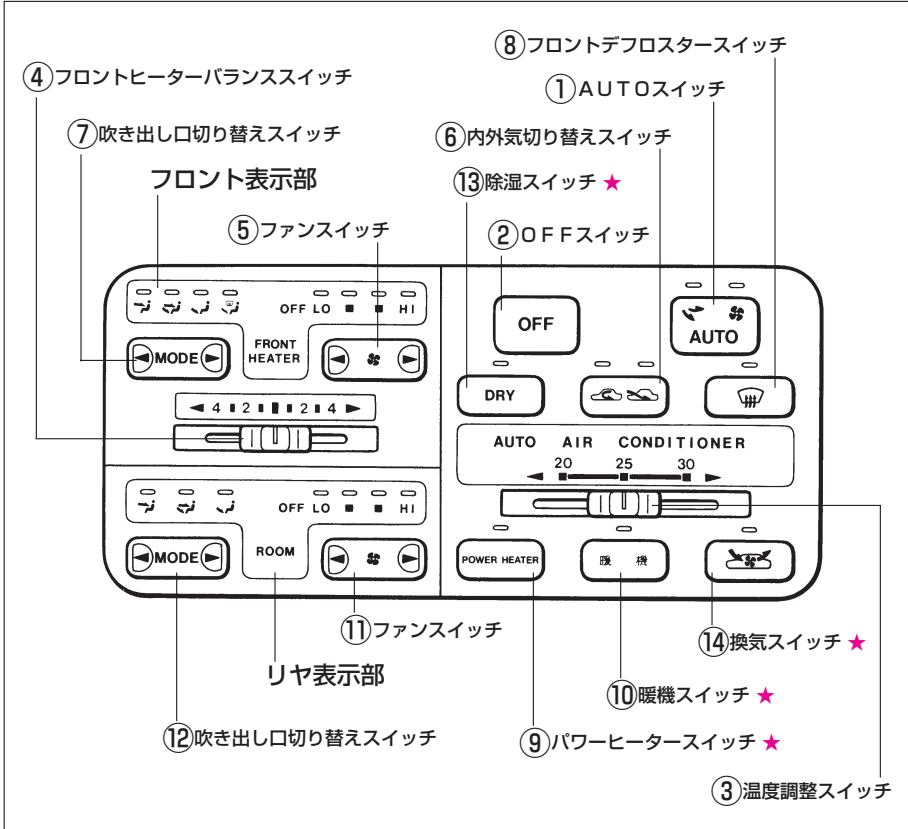
オートエアコン

上半身に送風したいとき

上半身と足元に送風したいとき

足元に送風したいとき

知 識

- 天井からは冷風、足元からは温風が送風されます。
- ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときは、吹き出し口が自動的に切り替わります。

マニュアルエアコン

クーラー（リヤ）作動時

リヤヒーター作動時

※上記のイラストは1つの例であり、吹き出し口の数・位置は車両により異なります。

オートエアコン★

①～⑨はフロント用のスイッチ
⑩～⑬はリヤ用のスイッチ

知識

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

通常の使い方

1 ＡＵＴＯスイッチを押します。

●フロント（・を除く）・リヤの吹き出し口と風量が自動的に調整されます。

2 温度調整スイッチを押して希望温度に合わせます。

3 作動を止めたいときは、ＯＦＦスイッチを押します。

トンネル内や渋滞などでよごれた外気を車内にいれたくないときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときは内外気切り替えスイッチを押して、（内気循環側）にすると効果的です。

フロントガラスの曇りを取るには

1 フロントデフロスタースイッチを押します。

●吹き出し口をにすれば曇りを取るのと同時に足元にも送風できます。

2 内外気切り替えスイッチを（外気導入側）にします。

●外気温が低いときは自動的に（外気導入側）に切り替わります。

内気循環モードにもどしたいときは、内外気切り替えスイッチを押すと内気循環モードにもどりますが、ガラスが曇りやすくなるため、できるだけ外気導入モードにしてください。

●温度、風量はお好みに合わせて調整してください。

1 2の操作に加えて、次の操作を行うと、より早くガラスの曇りが取れます。

●風量を増す。（ファンスイッチを操作する）

●設定温度を上げる。（温度調整スイッチを操作する）

■リヒート機構★

降雨時など湿度の高いときに、湿った外気を除湿・暖房しながら導入し、窓の曇りを抑えます。

各スイッチの使い方

スイッチの機能が作動しているときは、そのスイッチ上部の作動表示灯が点灯します。

■フロント

①ＡＵＴＯスイッチ

スイッチを押すと、ファンが作動し、フロント（ ・ を除く）・リヤの吹き出し口と風量が自動で調整されます。

知 識

ＡＵＴＯスイッチがＯＮのときに吹き出し口切り替えスイッチおよびファンスイッチを操作するとＡＵＴＯスイッチはＯＦＦになります。

②ＯＦＦスイッチ

スイッチを押すと、ファンが停止します。

③温度調整スイッチ

フロント・リヤの設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
スイッチを右に動かすと温度が上がり、左に動かすと下がります。

④フロントヒーターバランススイッチ

吹き出し口を にしているとき、およびヒーターが作動しているとき、フロントの設定温度をリヤの設定温度に対し、－5℃～＋5℃の間で調整することができます。

⑤ファンスイッチ

ファンが停止中のときスイッチを押すと、ファンが作動します。
ファンが作動中のとき、風量を4段階に切り替えることができます。

●風量を
　強くするときはスイッチの▶側
　弱くするときはスイッチの◀側
　を押します。

●選択した風量の表示灯が点灯します。

⑥内外気切り替えスイッチ

外気導入（外気を車内にいれる）、内気循環（外気をしゃ断する）の切り替えができます。
スイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。

表示	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気がよごれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

知 識

長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

⑦吹き出し口切り替えスイッチ

使用目的に合った吹き出し口を選択することができます。（128ページ参照）

●選択した吹き出し口の表示灯が点灯します。

知 識

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、次のような機能があります。

●吹き出し口が または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。

●吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンを停止します。

⑧フロントデフロスタースイッチ

窓ガラスの曇りを取りたいときにスイッチを押します。（133ページ参照）

●ファンが停止中のときスイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。

知 識

外気温が低いときにスイッチを押すと、（外気導入側）に切り替わります。

⑨パワーヒータースイッチ★

より強い暖房にすることができます。
エンジン回転中のみ使用できます。
スイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

知 識

作動表示灯が点滅したときは、スイッチを一度ＯＦＦにしてから、再度ＯＮにしてください。

⑩暖機スイッチ★

停車中にアイドル回転を上げ、暖房効果を高めます。
スイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

■リヤ

⑪ファンスイッチ

ファンが停止中のときスイッチを押すと、ファンが作動します。
ファンが作動中のとき、風量を4段階に切り替えることができます。
風量を
●強くするときはスイッチの▶側
●弱くするときはスイッチの◀側
を押します。
●選択した風量の表示灯が点灯します。

⑫吹き出し口切り替えスイッチ

使用目的に合った吹き出し口を選択することができます。（130ページ参照）

●選択した吹き出し口の表示灯が点灯します。

⑬除湿スイッチ★

リヤ天井吹き出し口から送風され、リヤエアコンの除湿機能をＯＮにすることができます。
スイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

知 識

外気温が0℃近くまで下がると除湿機能はＯＮになりません。

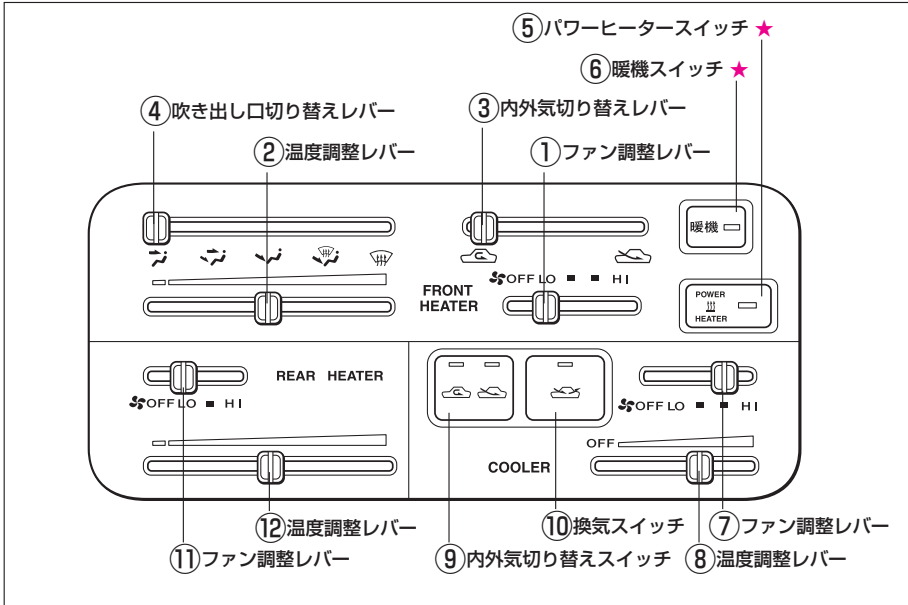
⑭換気スイッチ★

リヤ天井吹き出し口から送風され、リヤエアコンを外気導入にし、換気をすることができます。
●風量が自動で調整されます。
スイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

知 識

換気スイッチを押すと、吹き出し温度が低くなることがあります。このとき、除湿スイッチ付き車は、除湿スイッチを押すと、快適な吹き出し温度になります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

マニュアルエアコン★

①～⑥はフロントヒーター用のスイッチ
⑦～⑩はクーラー（リヤ）用のスイッチ
⑪～⑫はリヤヒーター用のスイッチ

クーラー（リヤ）・リヤヒーターはグレード等により装着の有無が異なります。

知識

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

フロントガラスの曇りを取るには

1 吹き出し口切り替えレバーを の位置にします。
 の位置にすれば曇りを取るのと同時に足元にも送風できます。

2 内外気切り替えレバーを （外気導入側）の位置にします。
温度、風量はお好みに合わせて調整してください。

知 識

12の操作に加えて、次の操作を行うと、より早くガラスの曇りが取れます。
●風量を増す。
（ファン調整レバーを操作する。）
●設定温度を上げる。
（温度調整レバーを操作する。）

各スイッチ・レバーの使い方

スイッチの機能が作動しているときは、作動表示灯が点灯します。

■フロントヒーター

①ファン調整レバー

ファンが停止中のときスイッチを押すと、ファンが作動します。
ファンが作動中のとき、風量を4段階に切り替えることができます。

レバー位置	OFF	LO ■ ■ HI
風 量	停止	弱←→強

②温度調整レバー

レバーを左右に動かして室内の温度を調整します。
●右に動かすと設定温度が上がり、左に動かすと設定温度が下がります。

③内外気切り替えレバー

外気導入（外気を車内にいれる）、内気循環（外気をしゃ断する）の切り替えができます。

レバー位置	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気がよごれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

知 識

長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

④吹き出し口切り替えレバー

使用目的に合った吹き出し口を選択することができます。（128ページ参照）
●選択した吹き出し口の表示灯が点灯します。

知 識

吹き出し口切り替えレバーを の位置にし、温度調整レバーを左端（白色の範囲）の位置で使用すれば、暖められた風が足元から、比較的温度の低い風が運転席・助手席吹き出し口から吹き出します。

⑤パワーヒータースイッチ★
より強い暖房にすることができます。
エンジン回転中のみ使用できます。
スイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

知 識
作動表示灯が点滅したときは、スイッチを一度ＯＦＦにしてから、再度ＯＮにしてください。

⑥暖機スイッチ★
停車中にアイドル回転を上げ、暖房効果を高めます。
スイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

■クーラー（リヤ）

⑦ファン調整レバー
ファンが停止中のときレバーをＯＦＦ以外の位置にすると、ファンが作動します。
ファンが作動中のとき、風量を4段階に切り替えることができます。

レバー位置	ＯＦＦ	ＬＯ　■　■　ＨＩ
風　量	停止	弱←→強

⑧温度調整レバー
レバーを左右に動かして室内の温度を調整します。
●右に動かすと設定温度が下がり、左に動かすと設定温度が上がります。

⑨内外気切り替えスイッチ
外気導入（外気を車内にいれる）、内気循環（外気をしゃ断する）の切り替えができます。

表示	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気がよごれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

知 識
長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

⑩換気スイッチ
クーラーを外気導入にし、換気をすることができます。
スイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切り替わります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■リヤヒーター

⑪ファン調整レバー

ファンが停止中のときレバーをＯＦＦ以外の位置にすると、ファンが作動します。ファンが作動中のとき、風量を3段階に切り替えることができます。

レバー位置	ＯＦＦ	ＬＯ ■ ＨＩ
風　量	停止	弱⟷強

⑫温度調整レバー

レバーを左右に動かして室内の温度を調整します。

●右に動かすと設定温度が上がり、左に動かすと設定温度が下がります。

エアフィルター

クリーンエアフィルターがはいっています。
快適にお使いいただくため、エアフィルターの定期的な清掃、交換をおすすめします。

■オートエアコン（ヒーター用）、フロントヒーター

寒冷地仕様車

清掃・交換の目安

●清掃…10,000km【5,000km】ごと
●交換 ……………………30,000kmごと

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

エアコンの風量が著しく低下したときはフィルターの目詰まりが考えられます。清掃または交換してください。

■オートエアコン（クーラー用）、クーラー（リヤ）

夏季などクーラーをひんぱんに使用するときは、月に一度程度はフィルターの清掃を行うようにしてください。

清掃・交換の目安

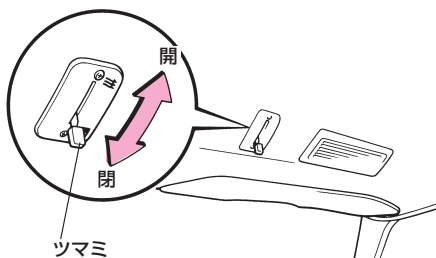
●清掃…10,000km【5,000km】ごと
●交換 ……………………30,000kmごと

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。
清掃・交換については186ページの**「エアコンの手入れ」**をご覧ください。

エアコンの風量が著しく低下したときはフィルターの目詰まりが考えられます。清掃または交換してください。

ルーフベンチレーター★

室内の換気をするために、外気を車内にいれることができます。

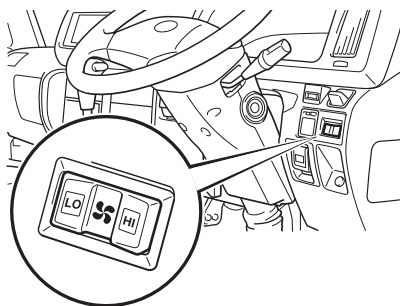
●ツマミを動かします。

換気扇★

●エンジン スイッチが“ＯＮ”の位置のとき使用できます。

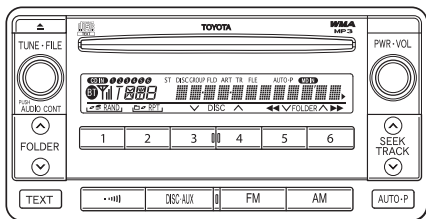
●スイッチの右側（ＨＩ）を押すと強く換気し、左側（ＬＯ）を押すと弱く換気します。

・作動中は作動表示灯が点灯します。

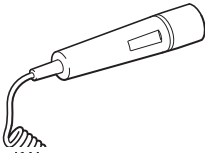
●中立の位置にすると停止します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

オーディオ

※　ＤＶＤ／ＣＤプレーヤー装着車にお乗りのかたは別冊の取扱書もあわせてご覧ください。

オーディオインデックス

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

マイクアンプ★ ……………………………………………………158ページ

標準マイク（室内放送用）★ ……………………………………159ページ

エンジン スイッチが “ＡＣＣ” または “ＯＮ” の位置のとき使用できます。

オーディオの上手な使い方

安全運転に支障がないように適度な音量でお聞きください。

注意

走行中のオーディオ操作は安全運転に支障がないように十分注意して行ってください。

知識

オーディオを聞いているときに車内または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが、故障ではありません。

■ラジオ

ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

■CD

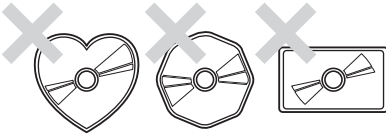
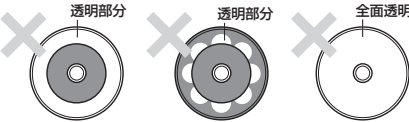
●このプレーヤーは、下のマークの付いた音楽用ＣＤやＣＤ－Ｒ（CD-Recordable）、ＣＤ－ＲＷ（CD-ReWritable）が使用できます。（コピープロテクト機能付ＣＤなどは使用できません。）

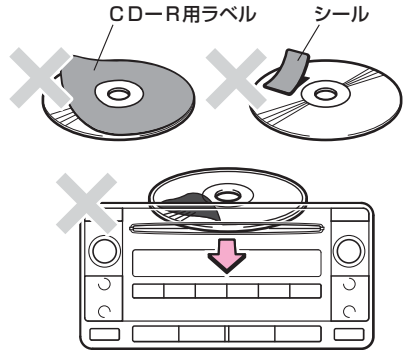
●ＣＤ－Ｒ（CD-Recordable）、ＣＤ－ＲＷ（CD-ReWritable）は、記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、長時間の車室内環境における劣化により再生できない場合があります。また、ファイナライズ処理されていないＣＤ－Ｒ、ＣＤ－ＲＷは再生できません。

●寒いときや雨降りのときは、車内のガラスが曇るように、プレーヤー内部にも露（水滴）が生ずることがあります。この場合、音がとんだり、再生が停止したりしますので、しばらくの間、換気または除湿してから使用してください。

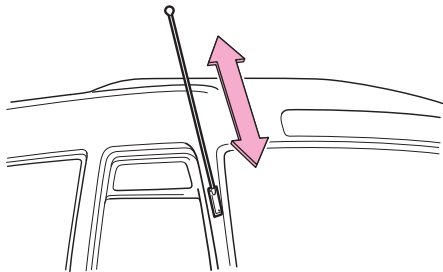
●悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びすることがあります。

アドバイス

●ＣＤ取り出しボタンを押して、ＣＤが飛び出た状態のまま長時間放置しないでください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。
●ＣＤは直射日光を避けて保管してください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。
●ＣＤを扱うときは、中心の穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてください。
●直径12cm、または8cmの円形以外のＣＤは再生できません。
特殊形状のＣＤは、機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。

●Dual Discには対応していません。機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。
●記録部分に透明、または半透明部分があるＣＤは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので、使用しないでください。

アドバイス

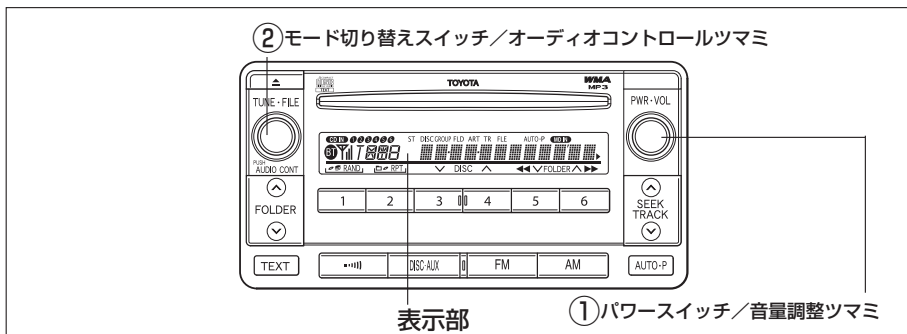
●レンズクリーナーを使用すると、プレーヤーのピックアップ部の故障の原因となるおそれがありますので、使用しないでください。
●セロハンテープ、シール、ＣＤ－Ｒ用ラベルなどが貼ってあるＣＤや、はがしたあとのあるＣＤは使用しないでください。プレーヤーの温度上昇によりラベルなどが内部ではがれたりして、プレーヤーが正常に作動しなくなったり、ＣＤが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

●ＣＤのよごれは、プラスチック用メガネふきなどの柔らかく乾いた布で軽くふき取ってください。手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷がつくことがあります。また、レコードスプレー・帯電防止剤・アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤や化学ぞうきんなどを使用すると、ＣＤが損傷し、使用できなくなるおそれがあります。
●変形したディスクは機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

アンテナ

ラジオを使用するときはいっぱいに引き出します。

次のようなときには、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。

- ●自動洗車機にかけるとき
- ●車庫の天井などにアンテナが当たるとき

ＣＤプレーヤー一体ＡＭ／ＦＭラジオ★

エンジン スイッチが “ ＡＣＣ ” または “ ＯＮ ” のとき使用できます。

音量・音質調整

①パワースイッチ／音量調整ツマミ

電源のＯＮ・ＯＦＦと音量を調整することができます。

●スイッチを押すごとに、電源がＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●ツマミを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

②モード切り替えスイッチ／オーディオコントロールツマミ

左右音量バランスと音質の調整モードの切り替えやレベルを調整することができます。

●スイッチを押すごとに、ＦＡＤ・ＢＡＳ・ＴＲＥ・ＢＡＬ・ＡＳＬの順にモードが切り替わります。

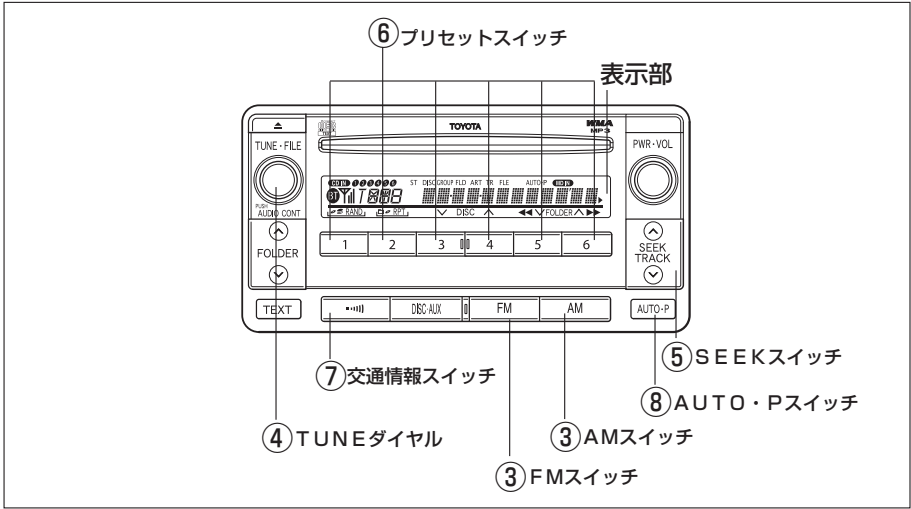
- 選択したモードが表示部に表示されます。

●スイッチで選択したモードのレベル調整をすることができます。

- ツマミをまわして、調整します。
- 調整レベルが表示部に表示されます。

<table>
<tr><th colspan="2">モード切り替えスイッチの操作</th><th colspan="3">オーディオコントロールツマミの操作</th></tr>
<tr><th>調整モード</th><th>モード表示</th><th>調整レベル範囲</th><th>左へまわす</th><th>右へまわす</th></tr>
<tr><td>前後音量バランス</td><td>ＦＡＤ</td><td>Ｆ７～Ｒ７</td><td>後側大</td><td>前側大</td></tr>
<tr><td>低音</td><td>ＢＡＳ</td><td>−５～５</td><td rowspan="2">弱</td><td rowspan="2">強</td></tr>
<tr><td>高音</td><td>ＴＲＥ</td><td>−５～５</td></tr>
<tr><td>左右音量バランス</td><td>ＢＡＬ</td><td>Ｌ７～Ｒ７</td><td>左側大</td><td>右側大</td></tr>
<tr><td rowspan="4">音量補正</td><td rowspan="4">ＡＳＬ</td><td>ＯＦＦ</td><td rowspan="4">↑</td><td rowspan="4">↓</td></tr>
<tr><td>ＬＯＷ</td></tr>
<tr><td>ＭＩＤ</td></tr>
<tr><td>ＨＩＧＨ</td></tr>
</table>

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ラジオの使い方

③ＡＭスイッチ・ＦＭスイッチ

ラジオを聞いているときに、スイッチを押すと、ＡＭ・ＦＭの切り替えをすることができます。

●選択したバンドが表示部に表示されます。

④ＴＵＮＥ（チューニング）ダイヤル

放送局の周波数を微調整することができます。

周波数を

●高い方へ選択するときは右側
●低い方へ選択するときは左側

にまわします。

⑤ＳＥＥＫスイッチ

スイッチを押すと、自動で受信可能な周波数を選択します。

周波数を

●高い方へ選択するときは∧側
●低い方へ選択するときは∨側

を押します。

- 受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数に一番近い周波数を自動で選択します。
- 途中で止めたいときは、もう一度スイッチを押します。

知 識

地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

⑥プリセットスイッチ

放送局の周波数をあらかじめ記憶させておくことにより、ワンタッチでその周波数を選択することができます。

●自宅付近などで日頃よくお聞きになる放送局の周波数を記憶させておくと便利です。

●スイッチを押すと、そのスイッチに記憶されている周波数が選択されます。

●1つのプリセットスイッチにはＡＭ・ＦＭ各１局まで周波数を記憶させることができます。

■周波数を記憶させるには

1 ＡＭまたはＦＭスイッチを押して、ＡＭ、またはＦＭを選択します。

2 ＴＵＮＥダイヤルまたはＳＥＥＫスイッチで、記憶させたい周波数を選択します。

3 記憶させたいプリセットスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

知 識

バッテリー交換やヒューズ交換などで、オーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

⑦交通情報スイッチ

交通情報放送を行っている地域で、交通情報放送局を受信することができます。スイッチを押すと、交通情報放送局が受信されます。

●もう一度スイッチを押すと、解除されます。

知 識

●新車時には1620kHzにセットしてあります。

●交通情報スイッチを押して、ラジオを受信しているときは、ＴＵＮＥダイヤル、ＳＥＥＫスイッチ、プリセットスイッチ、ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押しても、周波数は切り替わりません。

■周波数を記憶させるには

1 ＡＭスイッチを押して、ＡＭを選択します。

2 ＴＵＮＥダイヤルまたはＳＥＥＫスイッチで、記憶させたい周波数を選択します。

3 交通情報スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

知 識

バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、1620kHzになります。

⑧ＡＵＴＯ・Ｐ（オートプリセット）スイッチ
自動で受信可能な周波数を、一時的にプリセットスイッチに記憶させることができます。
●旅先などで放送局の周波数がわからないときなどに便利です。

■周波数を記憶させるには

1 ＡＭまたはＦＭスイッチを押して、ＡＭ、またはＦＭを選択します。

2 ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●表示部に「**AUTO-P**」の表示が出ます。
●ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押すたびに、新たに周波数を記憶しなおします。
 • 自動で周波数を記憶させても、スイッチを押す前（「**AUTO-P**」の表示が出ていないとき）に記憶させた周波数は消去されません。
●受信感度の良い周波数を低い順に6局まで自動的に記憶します。受信周波数が6局未満のときは、残りのプリセットスイッチには何も記憶されません。
●周波数の記憶操作が終了すると、“ピピッ”と音がして記憶した中で一番低い周波数を受信します。

■ＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数を変更するには

1 ＴＵＮＥダイヤルまたはＳＥＥＫスイッチで、記憶させたい周波数を選択します。

2 変更したい周波数が記憶されているプリセットスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

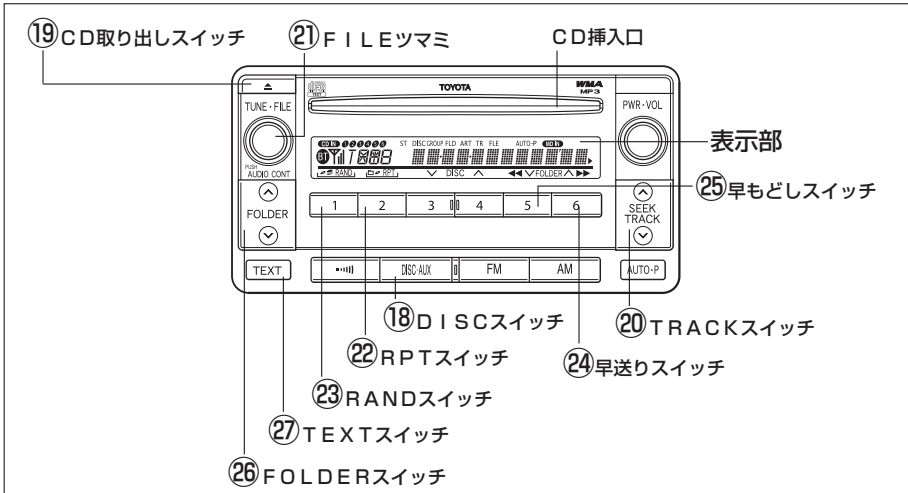
■解除するには

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押して、すぐ手を離します。
●表示部の「**AUTO-P**」の表示が消えます。
●ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押す前の状態にもどります。

知 識

●地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶できないことがあります。
●同じ放送局からの受信でも、ＴＵＮＥダイヤル、またはＳＥＥＫスイッチで選択し、記憶させた周波数とＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数は一致しないことがあります。
●ＡＵＴＯ・Ｐスイッチによる周波数の記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信感度の状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。

ＣＤプレーヤーの使い方

ＣＤ挿入口にＣＤのラベル面を上に向け挿入すると、ＣＤが自動的に再生されます。

⑱ＤＩＳＣスイッチ

ＣＤが挿入されているときにスイッチを押すと、ＣＤが再生されます。

⑲ＣＤ取り出しスイッチ

スイッチを押すと、挿入されているＣＤが取り出されます。

⑳ＴＲＡＣＫスイッチ

スイッチの∧側または∨側を押して、再生したい曲を選択します。

●表示部に曲番が表示されます。

MP3/WMAディスクを再生する場合

スイッチの∧側または∨側を押して、ファイルを選択します。

㉑ＦＩＬＥツマミ

MP3/WMAディスクを再生する場合

ツマミをまわしてファイルを選択します。

●ツマミを右へまわすとうしろのファイル、左へまわすと前のファイルを選択できます。

㉒ＲＰＴ（リピート）スイッチ

スイッチを押すと（表示部に「ＲＰＴ」が表示されます）、解除するまで何度でも同じ曲が繰り返し再生されます。

●もう一度スイッチを押すと、解除されます。

MP3/WMAディスクを再生する場合

■同一ファイル繰り返しモード

スイッチを押すと（表示部に「ＲＰＴ」が表示されます）、解除するまで同じファイルが繰り返し再生されます。

●もう一度スイッチを押すと、解除されます。

■同一フォルダ繰り返しモード

スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると（表示部に「🗀 ＲＰＴ」が表示されます）、解除するまで同じフォルダがが繰り返し再生されます。

●もう一度スイッチを押すと、解除されます。

㉓ＲＡＮＤ（ランダム）スイッチ

スイッチを押すと（表示部に「ＲＡＮＤ」が表示されます）、解除するまでランダムに選曲され、再生されます。

●もう一度スイッチを押すと、解除されます。

MP3/WMAディスクを再生する場合

■同一ファイルランダムモード

スイッチを押すと（表示部に「ＲＡＮＤ」が表示されます）、再生中のフォルダの中からファイルがランダムに再生されます。

●もう一度スイッチを押すと、解除されます。

■ディスク内ランダムモード

スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると（表示部に「 ＲＡＮＤ」が表示されます）、ディスクの中からファイルがランダムに再生されます。

●もう一度スイッチを押すと、解除されます。

㉔早送りスイッチ

スイッチを押している間、早送りされます。

●解除する（再生する）ときは、スイッチから手を離します。

㉕早もどしスイッチ

スイッチを押している間、早もどしされます。

●解除する（再生する）ときは、スイッチから手を離します。

㉖ＦＯＬＤＥＲスイッチ

MP3/WMAディスクを再生する場合

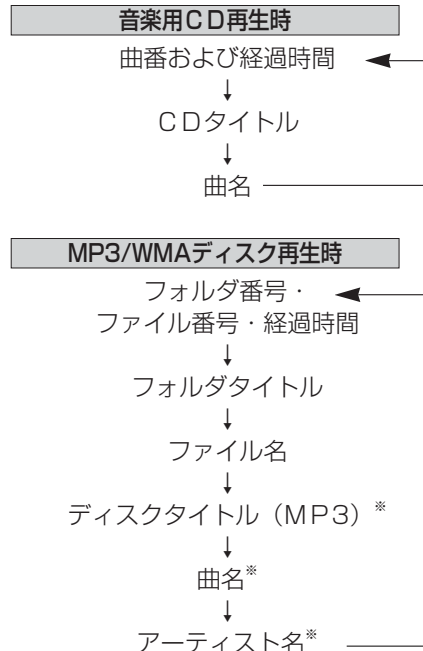
スイッチの∧側または∨側を押して、フォルダを選択します。

●∨側を“ピッ”と音がするまで押し続けると、最初のフォルダを選択することができます。

㉗ＴＥＸＴスイッチ

ＣＤテキスト対応のＣＤ再生中は、スイッチを押すごとに次のように表示部の表示が切り替わります。

音楽用ＣＤ再生時

曲番および経過時間
↓
ＣＤタイトル
↓
曲名

※タグについては、155ページ参照

知 識

●表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。情報が13文字以上の場合は、ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
- 13文字目以降表示時に、もう一度ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続ける、または約6秒以上操作しないと1文字目～12文字目までの表示にもどります。
- 記録してある文字数が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。

●表示できる情報が記録されていない場合は「ＮＯ　ＴＩＴＬＥ」と表示されます。
●ディスク内にＭＰ3／WMＡファイルが収録されていないと、「ＮＯ　ＭＵＳＩＣ」と表示されます。

■ＭＰ3／WMＡファイルについて
ＭＰ3（MPEG Audio LAYER3）は音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
ＭＰ3を使用すれば、元のファイルを約1／10のサイズに圧縮することができます。
WMＡ（Windows Media Audio）はマイクロソフト社の音声圧縮フォーマットです。
ＭＰ3よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できるＭＰ3／WMＡファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

■再生可能なＭＰ3ファイルの規格について
●対応規格
ＭＰ3（MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3）
●対応サンプリング周波数
ＭＰＥＧ1 ＬＡＹＥＲ3：32、44.1、48（kHz）
ＭＰＥＧ2 ＬＳＦ ＬＡＹＥＲ3：16、22.05、24（kHz）
●対応ビットレート
ＭＰＥＧ1 ＬＡＹＥＲ3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320（kbps）
ＭＰＥＧ2 ＬＳＦ ＬＡＹＥＲ3：64、80、96、112、128、144、160（kbps）
＊ＶＢＲに対応しています。
●対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

■再生可能なWMＡファイルの規格について
●対応規格
WMA Ｖｅｒ.7、8、9
●対応サンプリング周波数
32、44.1、48（kHz）
●対応ビットレート
Ｖｅｒ.7、8：ＣＢＲ 48、64、80、96、128、160、192（kbps）
Ｖｅｒ.9：ＣＢＲ 48、64、80、96、128、160、192、256、320（kbps）
＊2ｃｈ再生のみ対応しています。

知 識

■使用できるメディアについて
ＭＰ3／WMＡの再生に使用できるメディアはＣＤ－Ｒおよび、ＣＤ－RWです。
ＣＤ－Ｒ、ＣＤ－RWの状態によっては再生できない場合があります。また、ディスクに指紋や傷をつけた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

■使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記のとおりです。
●ディスクフォーマット：ＣＤ－ＲＯＭ　Ｍｏｄｅ1、Ｍｏｄｅ2
　　　　　　　　　　　ＣＤ－ＲＯＭ　ＸＡ　Ｍｏｄｅ2　Ｆｏｒｍ1、Ｆｏｒｍ2
●ファイルフォーマット：ＩＳＯ9660レベル1、レベル2、（Romeo joliet）
上記フォーマット以外で書き込まれたＭＰ3／WMＡファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。
●最大ディレクトリ階層：8階層
●最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角32文字。（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
●最大フォルダ数：192（ルート含む）
●ディスク内最大ファイル数：255

■ファイル名について
ＭＰ3／WMＡと認識し再生するファイルはＭＰ3／WMＡの拡張子“.ｍｐ3”／“.wｍａ”がついたものだけです。

■マルチセッションについて
マルチセッションに対応しており、ＭＰ3／WMＡファイルを追記したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

■ＩＤ3タグ／WMＡタグについて
ＭＰ3ファイルには、ＩＤ3タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ＩＤ3 Ｖｅｒ.1.0、1.1、ＩＤ3 Ｖｅｒ.2.2、2.3のＩＤ3タグに対応しています。（文字数はＩＤ3 Ｖｅｒ.1.0、1.1に準拠します。）
WMＡファイルには、WMＡタグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ＩＤ3タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

■ＭＰ3／WMＡの再生について
ＭＰ3／WMＡファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初のＭＰ3／WMＡファイルを再生します。ディスク内のチェックを早く終わらせるために、ＭＰ3／WMＡファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データとＭＰ3またはWMＡ形式のデータが混在しているディスクは、再生できません。

■拡張子について

ＭＰ３／ＷＭＡ以外のファイルに“.ｍｐ３”／“.ｗｍａ”の拡張子がついていると、ＭＰ３／ＷＭＡファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカを破損する場合があります。

■再生について

●安定した音質で再生するために、ＭＰ３の場合、１２８ｋｂｐｓの固定ビットレート、44.1kHzのサンプリング周波数を推奨します。
●ＣＤ－Ｒ、ＣＤ－RWはディスクの特性により再生できない場合があります。
●ＭＰ３／ＷＭＡは市場にフリーウェア等、多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質の劣化や再生開始時のノイズの発生、また再生できない場合もあります。
●ディスクにＭＰ３／ＷＭＡ以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できない場合があります。
●Microsoft、Windows、Windows Mediaは米国マイクロソフトコーポレーションの米国、およびその他の国における登録商標および商標です。

●表示部に次の表示で、プレーヤーの状態を知らせます。

- ディスクがよごれているなど読み取りができないとき

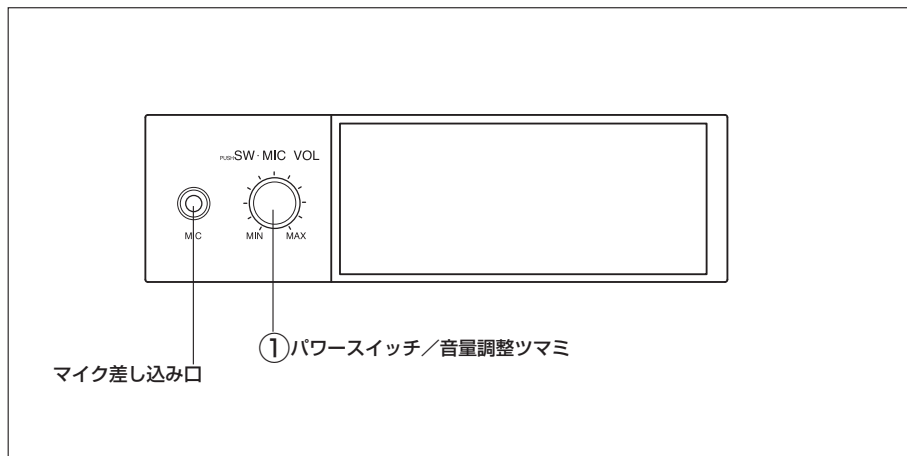
「ＥＲＲＯＲ1」

- プレーヤーに異常があるとき

「ＥＲＲＯＲ3」
「ＥＲＲＯＲ4」

●プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。

「ＷＡＩＴ」

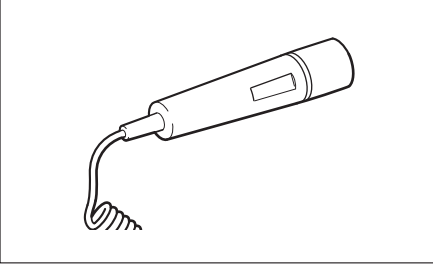
マイクアンプ★

①パワースイッチ／音量調整ツマミ

電源のＯＮ・ＯＦＦと音量を調整することができます。

●スイッチを押すごとに、電源がＯＮとＯＦＦに切り替わります。

●ツマミを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

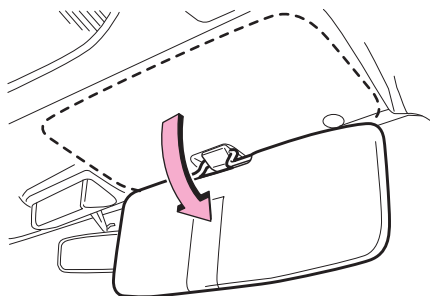
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

標準マイク★

マイクアンプのマイク差し込み口に差し込みます。（マイクアンプについては、158ページをご覧ください。）

室内装備

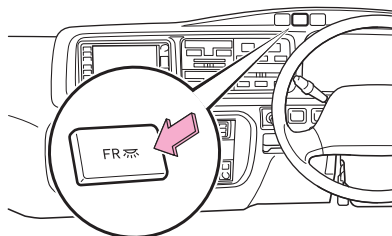
サンバイザー／お客様表示板

運転席 ・ 助手席 ★

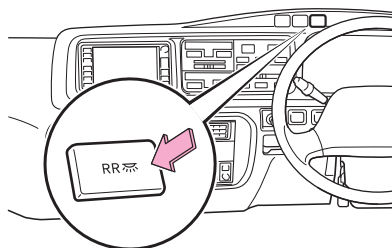
使用するときは前方に倒します。

室内灯

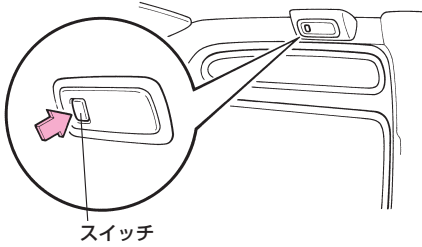
点灯・消灯

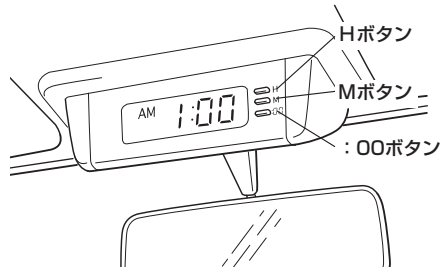
スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

■フロント

■リヤ

バンは、バックドアを開けると、スイッチがＯＦＦでも点灯します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

スポットランプ★

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

時計★

エンジン スイッチの位置に関係なく時刻が表示されます。

知 識

夜間、エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”の位置では時計が見にくくなります。その場合はエンジン スイッチを“ ＯＮ ”または“ ＡＣＣ ”にしてください。

■“時”“分”を調整するときは

Ｈボタンを押すと“時”、Ｍボタンを押すと“分”が早送りされます。

■時報に合わせるときは

時報と同時に：00ボタンを押すと時報に合わせることができます。

●0～29分は切り下げられます。

●30～59分は切り上げられます。

（例）１：00～１：29の場合は１：00に、12：30～12：59の場合は１：00になります。

知 識

秒表示はありませんが、：00ボタンを押したときは0秒から作動を開始します。

シガレットライター

エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”の位置のとき使用できます。
シガレットライターを押し込んで手を離します。
もとの位置にもどったら使用できます。

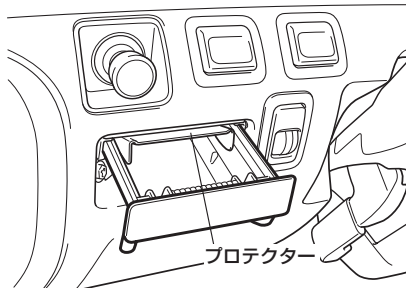
⚠注意

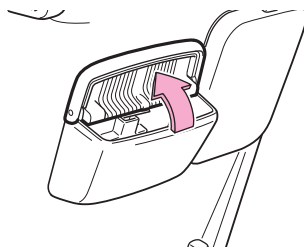
●シガレットライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
●シガレットライターの故障や周辺部の焼損を防ぐため、次のことをお守りください。
- ●シガレットライターを押さえたままにしないでください。
- ●他車のシガレットライターを差し込まないでください。
- ●ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

●ディーゼル車では24Vのシガレットライターを使用し、ＬＰＧ車では12Vのシガレットライターを必ず使用してください。電圧の異なるシガレットライターを使用するとシガレットライターが過熱するなど故障の原因になります。

灰皿

■運転席用

使用するときはフタを手前に引き出します。
●取りはずすときはプロテクターを下へ押したまま、ゆっくり取りはずします。

■後部座席用

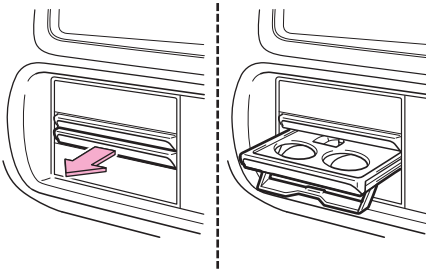
使用するときはフタを開けます。
●取りはずすときは灰皿本体を持って上に引き抜きます。

⚠注意

出火を防ぐため、次のことをお守りください。
●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中にいれ、確実に閉めてください。
●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすい物をいれないでください。

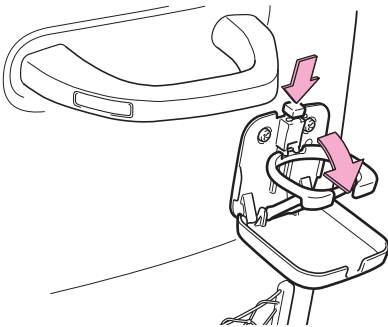
カップホルダー★

■運転席用

使用するときはツマミを引き出します。

●使用しないときは収納しておいてください。

■後部座席用

使用するときは手前に倒します。

●使用しないときは収納しておいてください。

⚠注意

●カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。

●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときは収納しておいてください。

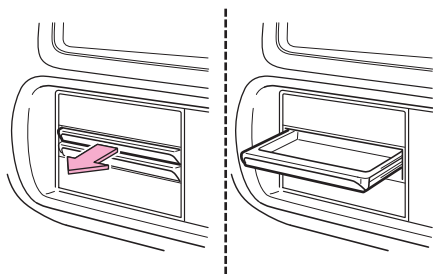
アドバイス

カップホルダーを破損から守るためカップホルダーに手をついたりしないでください。カップホルダーが破損するおそれがあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

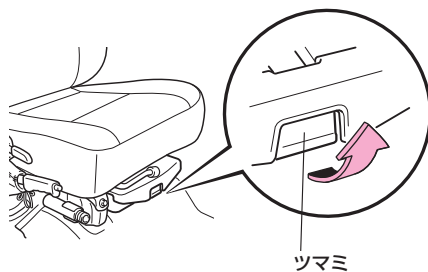
カードケース★

使用するときはツマミを引き出します。

●使用しないときは収納しておいてください。

シートアンダートレイ

運転席

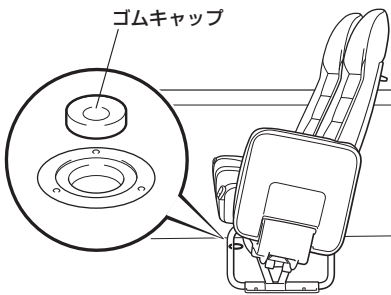
ツマミを引いてトレイを引き出します。

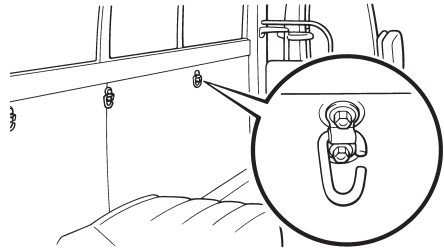
●走行中は閉めてください。

⚠警告

フロントシートの下（シートアンダートレイ内を除く）に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

床洗い用水抜き穴★

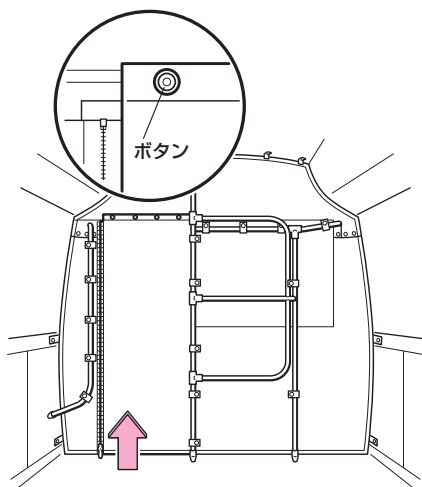
二人掛けシートの前から3列目のシート下側にあります。
排水するときは、ゴムキャップを取りはずします。

ロープフック★

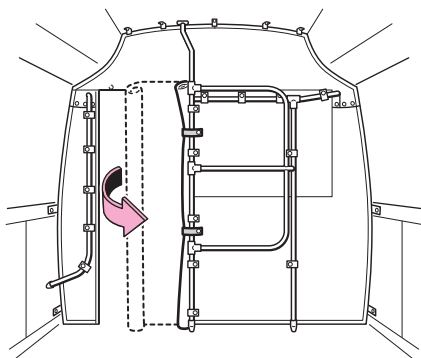
積荷を固定するときに使用します。

セパレーターカーテン★

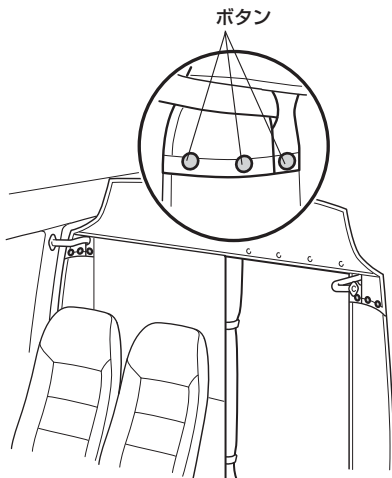
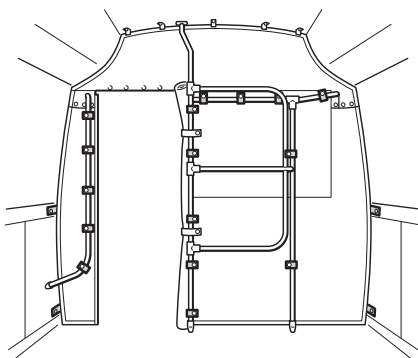
荷室を仕切り、エアコン・ヒーターの効果を高めます。

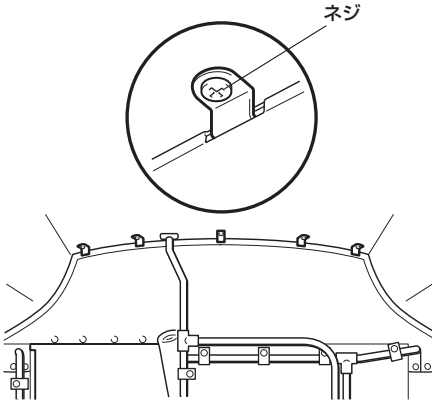
■開け方

1 チャックをはずします。

2 上部のボタン（4カ所）をはずします。

3 カーテンを丸めながら開けます。

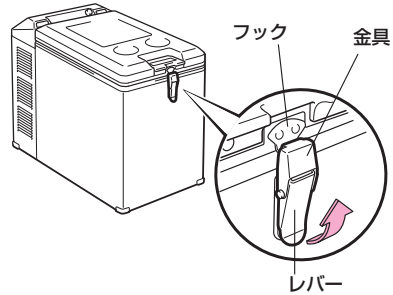
4 バンド（2カ所）で固定します。

■取りはずし方

1 フロント側からボタン（左右3カ所ずつ）をはずします。

2 リヤ側からセパレーターバーに取りつけられているボタン（左5カ所・中央5カ所・右2カ所・上部4カ所）と、フロアのボタン（左右4カ所）をはずします。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

3 リヤ側からドライバーで天井に取りつけられているネジ（5カ所）をまわしてはずします。

冷蔵庫★

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の位置のとき使用できます。

開けるときは

レバーを引いて、金具をフックからはずします。

閉めるときは

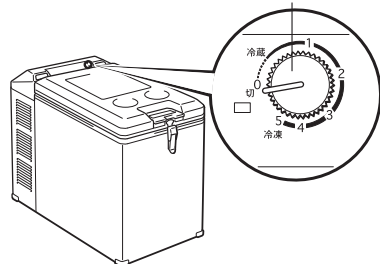
金具をフックにかけ、レバーを押します。

●確実に固定されたことを確認してください。

使用するときは

■電源のＯＮ・ＯＦＦ

●温度調整ダイヤルをまわして「切」以外の位置にすると、電源がＯＮになります。

●「切」の位置に合わせると電源がＯＦＦになります。

■温度調整

温度調整ダイヤルをまわします。

●使用条件とダイヤルの位置は、冷蔵庫周囲の温度状態およびバッテリーの充電状態などにより異なりますが、一応の目安として下表を参考にして使用してください。

ダイヤル位置	冷蔵室温度（負荷がないとき）	使い方
1	約＋3℃～＋7℃	通常使用時
2	約0℃～＋4℃	使用条件に合わせてダイヤルをお選びください。
3	約－2℃～＋2℃	
4	約－8℃～－4℃	
5	約－12℃以下	冷凍食品を貯蔵するとき

知 識

●長時間エンジンを停止していると、庫内の温度は上昇します。

●冷蔵庫を効果的に使用していただくために次のような事項に注意して使用してください。

- 庫内に食料品を詰め込みすぎない。
- 温かい食料品は、冷ましてから貯蔵する。
- 水気の多い物、香りの強い物は包んでから貯蔵する。

●ダイヤル4の位置での使用はできるだけ短時間にしてください。4の位置で長時間使用すると、庫内が冷えすぎて食料品が凍結したり、ビン類などが割れるおそれがあります。

●アイスクリームを貯蔵するときは庫内が常に約－15℃以下でないとやわらかくなることがあります。

霜取りをするときは

庫内に6㎜程度の厚さに霜がついたら、霜取りを行ってください。

1 庫内の貯蔵品をすべて取り出します。

2 電源をＯＦＦにして、霜が溶けるまで待ちます。

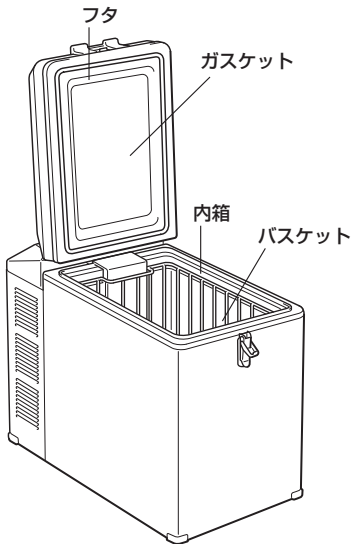
3 庫内にたまった水は、スポンジまたはフキンなどで取り除きます。

ナイフなどを使用して無理に霜を取らないでください。冷却器に傷がつき、冷蔵庫が損傷するおそれがあります。

■急いで霜を取るときは

約50℃以下の温水（手がいれられる程度の温度）をいれて霜を溶かします。

約50℃以上の温水をいれると内箱が変形するおそれがありますので、必ず約50℃以下の温水をいれてください。

冷蔵庫の手入れ

アドバイス

ブラシ、粉石けん、クレンザー、ベンジンなどは使用しないでください。冷蔵庫を傷つけたり、変色やしみの原因になります。

■フタ、内箱の手入れ

1. よく乾いたやわらかい布でカラぶきします。
2. よごれがひどいときは、中性洗剤を溶かしたぬるま湯（約50℃以下）を使用してふき取り、よく乾いたやわらかい布で水分をふき取ります。

■ガスケットの手入れ

よく乾いたやわらかい布に中性洗剤を含ませてよごれをふき取ります。

アドバイス

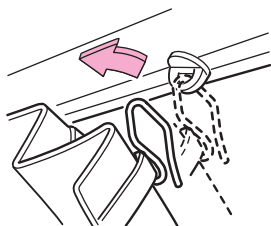
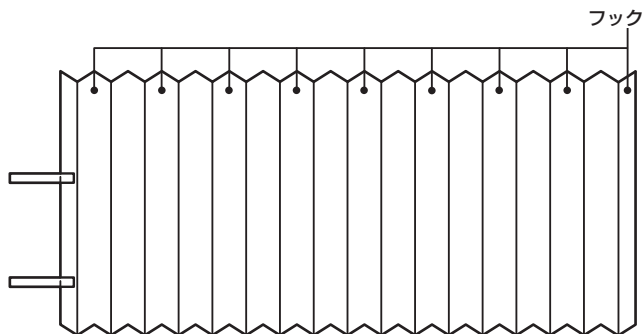
布に多量の水を含ませてふき取ると水が扉の内部に侵入して断熱効果が悪くなるおそれがあります。

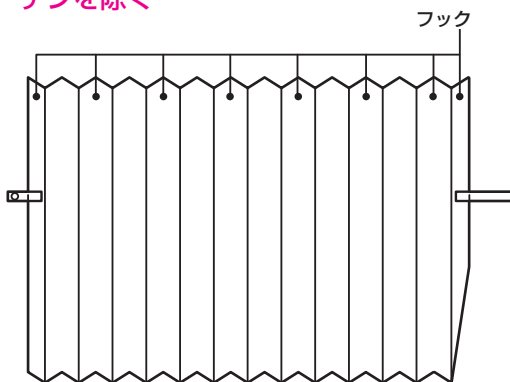
■バスケットの手入れ

石けん水で洗ったあと、水でよくすすぎ、乾いた布で水分をふき取ります。

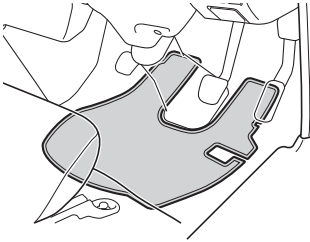
カーテン★

取りはずし方

カーテンレールからフックをはずします。

フックの取りつけ位置

■バックドアカーテン

■バックドアカーテンを除く

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

フロアマット

お車（年式）専用のものを使用してください。

●フロアマットと各ペダルが干渉しないように敷いてください。詳しくはフロアマット付属の取扱書をお読みください。

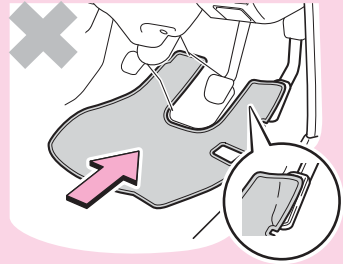
⚠警告

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

⚠警告

●運転する前に、以下のことを確認してください。

- フロアマットが正しい位置に敷かれていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがⓅ（オートマチック車）またはⓃ（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットを干渉しないことを確認してください。

5 車との上手な付き合いかた

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備、点検

■エンジンオイル

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。（216ページ参照）

■冷却水

ディーゼル車

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

寒冷地仕様車・ＬＰＧ車

冷却水の凍結を防ぐために冷却水の濃度を50%にしてください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	50%	−35℃
寒冷地		

■ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量、比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

■冬用タイヤ、タイヤチェーン

●冬用タイヤに取り替えるときは、全輪とも指定サイズで、同一メーカー、同一銘柄のタイヤに交換してください。

●冬用タイヤ装着時も指定空気圧に調整してください。

●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
（177ページ参照）

●トヨタ純正タイヤチェーン（トリプルチェーン）のご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

■屋根に積もった雪
走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。走行する前に取り除いてください。

■ガラスについた雪や霜
ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。

フロントガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

■足まわりの着氷
足まわりなどに付着した氷塊を車体などに傷をつけないように取り除いてください。

■ドアの凍結
ドアが凍結したときは無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。そんなときはお湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分ふき取ってください。

■ワイパーなどの凍結
ワイパー、ドアミラーなどが凍って動かない場合は無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりをおこすおそれがあります。

■車に乗るときは
靴についた雪をよく落としてから、乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

■外気取り入れ口に積もった雪
フロントガラス前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

走行するときは

■すべりやすい路面の走行

●ゆっくりスタートし、ひかえめな速度で走行してください。また、“急”のつく動作は避けてください。橋の上や日陰など凍結しやすい場所では減速してください。

●積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。

■走行中の着氷

走行中にはね上げた雪や水は、車に付着して氷になります。フェンダー裏側に付着するとハンドル操作に影響しますのでときどき確認し、大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置に付着するとブレーキの効きが悪くなる場合がありますので、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

駐車するときは

●寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。
駐車する場合は、平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをマニュアル車は🅡、オートマチック車は🅟の位置にして輪止めをします。
また、マニュアル車でやむを得ず、坂道に駐車する場合は、シフトレバーを下り坂では🅡、上り坂では❶の位置にしてください。
輪止めをするときは、下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側にしてください。

●風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリーあがりを防ぐためにもエンジンルーム側を風下に向けて駐車してください。

●降雪時は寒さでワイパーがガラスに凍りついたりします。
ワイパーアームは立てて駐車してください。

⚠警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車両が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

ワイパー

寒冷地用ワイパーブレードについて★

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

知識

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
●寒冷地用ワイパーブレードを必要としない降雪期以外は、通常のワイパーブレードを使用してください。

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは後輪（4つのタイヤ）に取りつけ、トリプルチェーンを使用してください。
●タイヤチェーンの取りつけ、取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取扱書にしたがってください。
●タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
●トヨタ純正タイヤチェーン（トリプルチェーン）のご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

注意

タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。

アドバイス

●アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。
●タイヤチェーン（金属チェーン）を装着しているときは、30km/h以上で走行しないでください。
タイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。

ディーゼル車の燃料

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。
寒冷地へ行くときは、現地へ着くまでに残量を半分（燃料計目盛りの1/2以下）にしておき、現地に着いたら下表にしたがってできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。

アドバイス

フェリーを利用する場合は、寒冷地に着いてすぐ寒冷地用燃料を補給できるよう、あらかじめ燃料を半分以下にしておいてください。

使用燃料	使用限界温度※
ＪＩＳ2号 軽油	－5.0℃
ＪＩＳ3号 軽油	－12℃
ＪＩＳ特3号 軽油	－19℃

※環境や使用状況によって異なります。

●下記の燃料を使用してください。

エンジン	指定燃料
Ｎ04Ｃ－ＵＰ	軽油 ［超低硫黄軽油（Ｓ10ppm以下）］
Ｎ04Ｃ－ＶＦ	

ＬＰＧ車の燃料

ＬＰＧ車は外気温が低温になると燃料が十分に気化できず、エンスト・再始動不良の原因になりますので、冷寒（5℃以下）時の始動後は、水温計が動き始める程度の暖機運転をしたあと走行するようにしてください。

アドバイス

とくに寒冷地への移動の際は燃料タンク内の燃料を極力少なくして寒冷地用燃料を補給するように心がけてください。

こんなときは

雨の日の運転

■ガラスの曇りを取りたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンを作動させ、吹き出し口切り替えを、または にし、内外気切り替えを（外気導入）にしてください。

■フロントガラスの油膜を取るとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

夏期の取り扱い・エアコンガスの処理

■シーズン前のエアコンチェック

冷媒（ガス）が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしてください。

■エアコンの上手な使い方

駐車のあと室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけてください。

■炎天下に駐車するときは

ボディに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えてください。

■エアコンガスの処理

エアコンガスは新冷媒ＨＦＣ１３４ａ（Ｒ１３４ａ）を使用しています。
地球環境を守るため、大気放出しないよう、修理・廃車時の処理はトヨタ販売店にご相談ください。

6 手入れ、メンテナンスデータ

手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

●洗車やワックスがけなどを行うときは、それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

●月に1度、または水のはじきが悪くなったらワックスがけを行ってください。

●塗装のとび石傷やかき傷は腐食の原因となります。
見つけたら早めにトヨタ純正タッチアップペイントなどで補修してください。

●保管・駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

●塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。塗装を損傷します。万一、付着した場合はただちにふき取る、洗車するなどしてください。

●次のような場合は塗装の劣化や車体・部品の腐食などを早める原因となります。
ただちに洗車してください。
- 海岸地帯の走行をしたとき
- 凍結防止剤を散布した道路の走行をしたとき
- コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき
- ほこり、泥などで著しくよごれたとき

外装の手入れ

洗車

1 十分水をかけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へとよごれを洗い落とします。

●車体は、スポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。

2 よごれのひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。

3 はん点が残らないように水をふき取ります。

⚠警告

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠注意

下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。

アドバイス

●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。

●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。

■高圧洗車機を使用するときは

●ノズルの先端を窓ガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水がはいるおそれがあります。

●駆動系部品（ディファレンシャルギアなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ランプについて

ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。

破損したり、劣化を早めることがあります。

ワックス

ワックスがけは洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）に行ってください。

アドバイス

目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地にはいってとれなくなり、白くなることがあります。

※素地部＝塗装されていないアウターミラー・ドアハンドルなどの樹脂部分

内装の手入れ

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ります。

⚠警告

●シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

●内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠注意

室内の清掃などで車内に水をかけないでください。オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。

アドバイス

●内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
●内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。
●芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコン・オーディオなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ、塗装はがれの原因となるおそれがあります。
●リヤガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
●リヤウインドゥデフォッガー付き車では、リヤガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

エアコンの手入れ

■オートエアコン（ヒーター用）、フロントヒーター

寒冷地仕様車

クリーンエアフィルターがはいっています。
快適にお使いいただくため定期的な清掃、交換をおすすめします。
エアフィルターの清掃、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

清掃、交換の目安

●清掃…10,000km【5,000km】ごと
●交換 ……………………30,000kmごと

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

■オートエアコン（クーラー用）、クーラー（リヤ）

クリーンエアフィルターがはいっています。
快適にお使いいただくため、定期的な清掃・交換をおすすめします。
夏季などクーラーをひんぱんに使用するときは、月に一度程度はフィルターの清掃を行うようにしてください。
エアフィルターの清掃、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

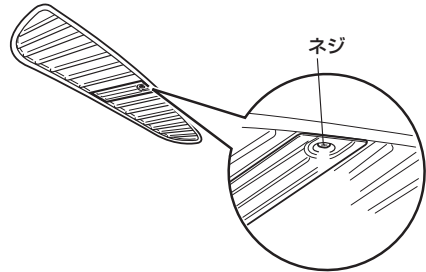
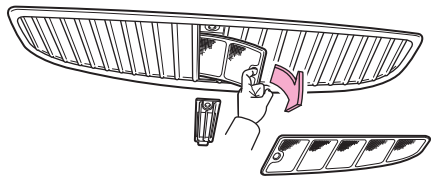
清掃、交換の目安

●清掃…10,000km【5,000km】ごと
●交換 ……………………30,000kmごと

【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

アドバイス

●エアコンの風量が著しく低下したときはフィルターの目詰まりが考えられます。清掃または交換してください。
●フィルターの清掃・交換は、エンジンスイッチを“ＬＯＣＫ”の位置にしてから行ってください。
●クーラーの効きが悪くなったら、フィルターの清掃をしてください。
●清掃してもクーラーの効きが悪いときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
●フィルターには方向性があります。取りつけ方向をまちがえないように取りつけてください。

1 エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”の位置にします。
2 ドライバーでカバーのネジをまわしてはずし、カバーを取りはずします。

3 フィルターの端を持って、取り出します。

4 水をかけてフィルターのよごれを洗い落とし、しっかり乾かします。
5 取りはずすまえと同じ向きにフィルターを取りつけます。
6 カバーを取りつけ、ドライバーでネジをまわして取りつけます。

アドバイス

エアフィルター装着車では、必ずフィルターを装着した状態でクーラーを使用してください。フィルターを装着せずにクーラーを使用すると、故障の原因となることがあります。

簡単な点検、部品交換

⚠警告

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため火災につながるおそれがあり危険です。

エンジンオイルについて

エンジンオイルの量をときどき点検してください。なお、高速走行（約80km/h以上での連続走行）を行う前には、必ず点検してください。

●ＬＰＧ車の点検方法については**「メンテナンスノート」**を参照してください。

⚠警告

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●エンジンを止めてください。
エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

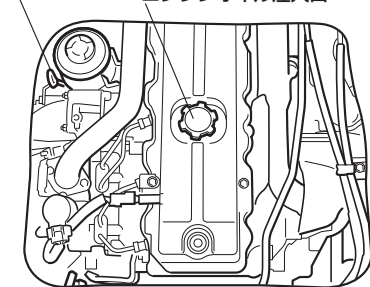
●エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。

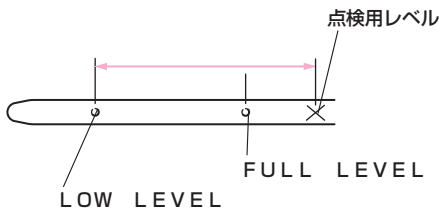
●エンジンが止まっていても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

ディーゼル車

■点検のしかた

エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してから点検します。

1 エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを布で拭き取ります。

2 再びいっぱいに挿し込んでから静かに抜き取ります。

●オイルがエンジンオイルレベルゲージの点検用レベルとＬＯＷ　ＬＥＶＥＬの間にあれば良好です。

3 オイルがＬＯＷ　ＬＥＶＥＬを下まわっているときは、ＦＵＬＬ　ＬＥＶＥＬまで補給します。

●オイルが点検用レベルをこえているときは、必ずオイルを交換してください。

4 点検後は、エンジンオイルレベルゲージを確実に挿し込みます。

⚠注意

排出ガス浄化装置の特性上、気候や運転状況によっては、エンジンオイル中に燃料が徐々に混ざる場合があります。このため、エンジンオイルが注入時より増えることがありますが故障ではありません。

■エンジンオイルの補給

1. オイルが不足しているときは、エンジンオイル注入口のキャップをはずし、エンジンオイルを補給します。
2. 補給後、10分ほどしてからエンジンオイルレベルゲージでオイル量を点検します。

アドバイス

エンジンオイルは、レベルゲージの「ＦＵＬＬ　ＬＥＶＥＬ」の位置以上いれないでください。エンジンの故障の原因になります。

■エンジンオイルの交換

交換時期については、エンジンの種類によって異なりますので、新車およびオーバーホール後、1,000km走行時に交換した後は、下記の表にしたがって定期的に交換してください。

オイル容量［L］（参考値）	
オイルのみ 交換時充てん量	オイルと オイルフィルター 交換時充てん量
6.3	7.7

交換時期
15,000kmごと

⚠注意

エンジンを高回転・高負荷で多用している場合は、走行km数にかかわらず早めに交換してください。また、オイルレベル点検時、オイルが著しくよごれているときも走行km数にかかわらず早めに交換してください。

知識

エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

エンジン冷却水について

寒冷地仕様車・ＬＰＧ車

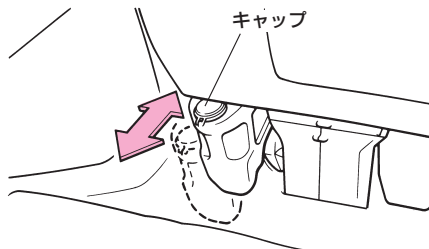
必ずトヨタ純正ロングライフクーラントを50%の濃度にしていれてください。

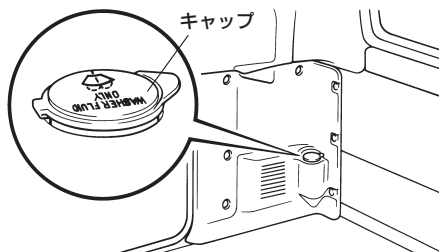
ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャータンクのキャップをはずし、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

■ウォッシャータンクの位置

フロント

助手席前部にあります。
補給するときはレールに合わせて手前に引き出します。

リヤ ★

トランク左側にあります。

アドバイス

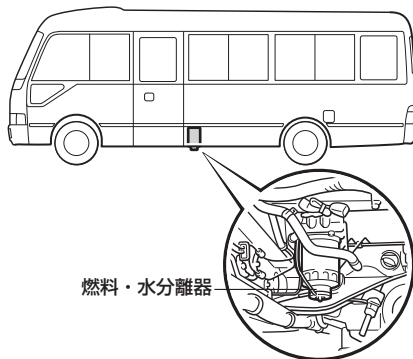
ウォッシャー液のかわりに石けん水などをいれないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

燃料・水分離器の排水

ディーゼル車

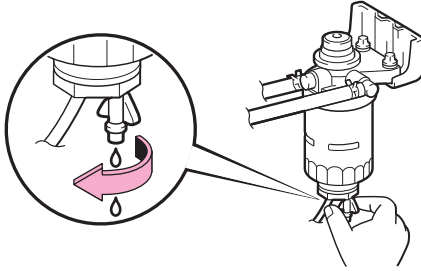
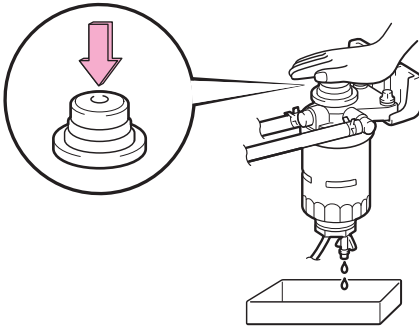
■燃料・水分離器の位置

燃料・水分離器は助手席側車両中央部にあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■排水方法

1 エンジンを停止します。

2 軽油が飛散しないように排出栓の下に受け皿などを置きます。

3 排出栓を左にまわします。

4 ポンプを押し、水を排出します。
コップ半分くらいの水を排出します。

5 排水処理が終わったら、排出栓を確実に締めつけます。

●排出栓の締めつけは手で行ってください。

6 ポンプが抵抗を感じるようになるまで数回押します。

レギュレーターのタール抜きについて

ＬＰＧ車

レギュレーター内にタール分が付着すると、触媒装置の浄化を損なうおそれがあります。定期的なタール抜きを行ってください。
詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

エンジン停止直後のレギュレーターは直接手などで触れないでください。
レギュレーターが高温になっているため、やけどするおそれがあります。

タイヤ

日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。
下記のタイヤの状態を点検します。

●空気圧
●き裂・損傷
●溝の深さ
●異常な摩耗

■空気圧

点検時期
日常点検 3カ月ごと（距離項目）

エアゲージでタイヤ（スペアタイヤを含む全輪）の空気圧を点検します。空気圧不良のときは、指定空気圧に調整してください。

⚠警告

指定空気圧にしてください。
空気圧が低すぎたり高すぎたりすると、乗り心地が悪くなったり、積荷が傷みやすくなります。また、タイヤの異常摩耗の原因にもなります。
空気圧が著しく低いと、フラットスポットが発生したり、過熱しやすくなりバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

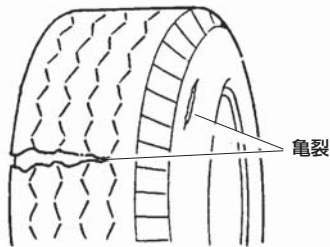
●点検・測定および充てん時は、必ずタイヤが冷えているときに行ってください。（走行直後は熱によって空気圧が高くなりますが、決して抜かないでください。）
●空気圧の測定後およびエア充てん後は、はずしたバルブキャップを必ず取りつけてください。
●空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

知 識

●指定空気圧でたわみ状態を確認しておくと便利です。
●正確な点検調整には、タイヤエアゲージとエアコンプレッサーが必要です。

■タイヤのき裂・損傷

点検時期
日常点検 3カ月ごと（距離項目）

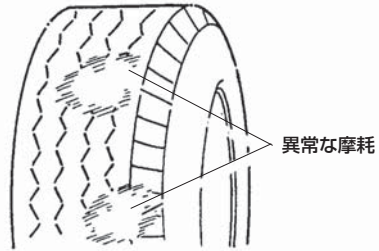
タイヤの接地面全周や側面にき裂や損傷がないかを点検します。また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかをタイヤ全周にわたって点検します。

●タイヤにき裂・損傷があるときは、新品のタイヤと交換してください。
（タイヤの交換については、238ページ**「タイヤを交換するときは」**をご覧ください。）

⚠注意

傷がコードに達しているときや、コードが露出しているときは使用しないでください。本来のタイヤ強度がもたれず破損するおそれがあります。

■タイヤの異常な摩耗

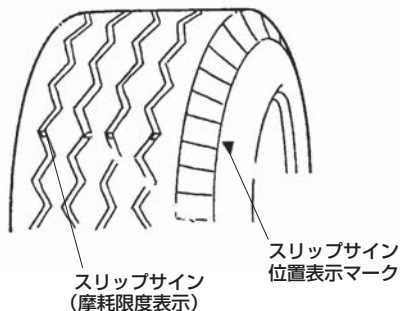
点検時期
日常点検 3カ月ごと（距離項目）

タイヤの接地面に異常な摩耗がないかを点検します。

●異常な摩耗があるときは、トヨタ販売店で点検・整備を受けてください。

■タイヤの溝の深さ

点検時期
日常点検 3カ月ごと（距離項目）

タイヤの溝が十分に残っているかを点検します。

●残り溝が少なくなってくると、タイヤのスリップサイン表示（▲位置）に摩耗限度表示があらわれますので、新品のタイヤと交換してください。
（タイヤの交換については、238ページ**「タイヤを交換するときは」**をご覧ください。）

⚠警告

●スリップサイン（摩耗限度表示）があらわれたときは走行しないでください。スリップしやすくなり非常に危険です。

走　行　路	溝の深さ限度
一　般　路	1,6㎜

●高速道路を走行するときは、溝の深さを確認してください。溝の深さが規定以下のときは、危険なため走行しないでください。

走　行　路	溝の深さ限度
高速道路	2,4㎜

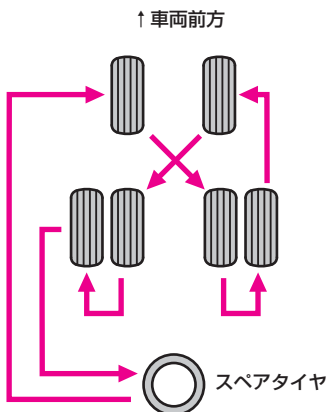
■タイヤローテーション（タイヤ位置交換）

タイヤは道路の状況・積荷・ブレーキ操作・取りつけ位置などによってそれぞれ異なった摩耗をします。また、スペアタイヤは長時間使用しないと変質します。タイヤの摩耗を均等にし、寿命を延ばすために定期的な位置交換をしてください。

タイヤローテーション時期
5,000kmごと

知 識

●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

●アルミホイール装着車では前後のタイヤにそれぞれ専用の塗装が施されているため、前後のタイヤを入れ替えてローテーションしないでください。

⚠警告

タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。前後のタイヤで指定空気圧が異なるため、指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏磨耗したりします。高速時にスタンディングウエーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

※高速で走行してるときに、タイヤが波うつ現象

⚠注意

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。(27ページ参照)

●タイヤローテーション後は、初期なじみにより締めつけトルクが低下することがあります。
約50～100km走行後、規定の締めつけトルクでホイール取りつけナットの増し締めを行ってください。

●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットおよびストップボルトを使用してください。

●ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深くかけてください。かけかたが浅いと力をかけたとき、ホイールナットレンチが外れけがをするおそれがあります。

●ホイールナットのゆるみおよび締めすぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールのき裂につながり、脱輪の原因になります。

●ダブルタイヤの点検のときは、ホイールナットだけでなくストップボルトも忘れずに締めつけてください。

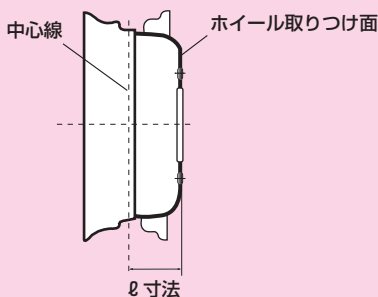
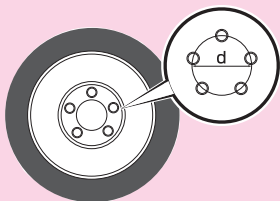
⚠警告

●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。(39ページ参照)
ディスクホイールは下記の表を参照し、必ず指定サイズで同一種類のものを取りつけてください。指定サイズ以外のタイヤ・ディスクホイールを取りつけると、車の性能が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

〈ディスクホイールの指定サイズ〉

タイヤサイズ	ディスクホイール		
	リムサイズ	P.C.D.※1 (mm)	オフセット※2 (mm)
6.50R16—10PRLT	16×5.50F	203.2 (5穴)	119
215/70R17.5—118/116LLT	17.5×6.00	203.2 (5穴)	120 (スチール) 127 (アルミ)
215/70R17.5—112/110LLT			

※1 ホイール取りつけナットを取りつけるボルト中心の円の直径(d)

※2 ディスクホイールの中心線から取りつけ面までの長さ(ℓ)

知識

●ディスクホイールは、リムサイズやオフセットが同じでもほかの車のものが使用できない場合があります。お手持ちのディスクホイールを使用するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●タイヤやディスクホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

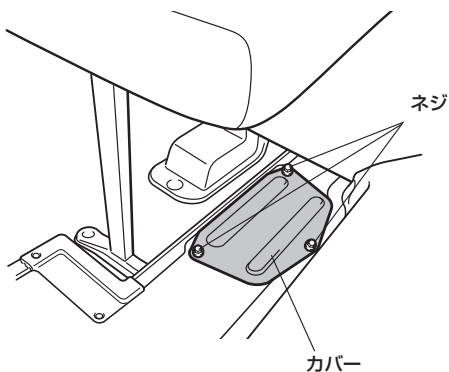
ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検、交換を行ってください。

1 エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”の位置にします。

2 ヒューズボックスを開けます。

《フロアヒューズボックスＡ》

助手席うしろの床面に取りつけられています。
ネジ（3カ所）をまわしてはずし、カバーをはずします。

《フロアヒューズボックスB》

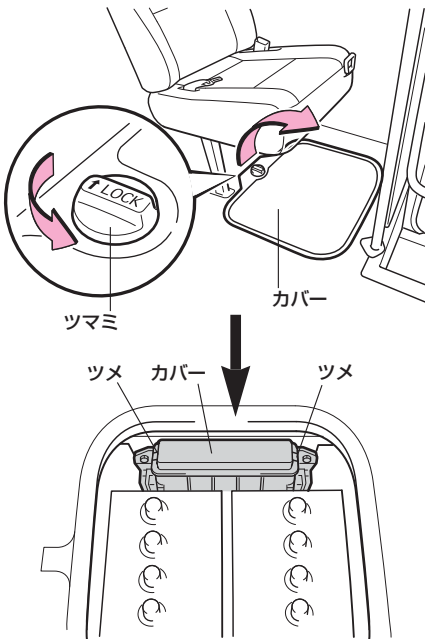
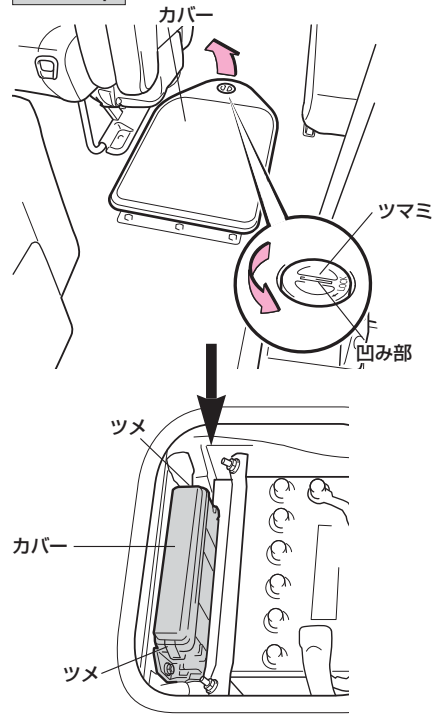
ディーゼル車ではセンタードア後部のカバー、ＬＰＧ車では通路中央のカバーのツマミをまわしてはずし、ヒューズボックスのカバー両端のツメを開きながらカバーを持ち上げてはずします。

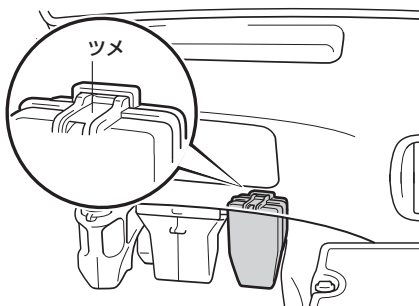
●ＬＰＧ車はツマミの凹み部にコインなどを差し込んでまわすと、楽にロックをはずせます。

ディーゼル車

LOCK
ツマミ
カバー
ツメ
カバー
ツメ

ＬＰＧ車

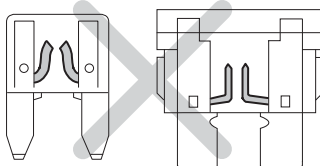
カバー
ツマミ
LOCK
凹み部
ツメ
カバー
ツメ

《インパネヒューズボックス》

カバーのツメを押しながらカバーを持ち上げ、カバーをはずします。

3 故障の状況から点検すべきヒューズを表（200～203ページ参照）で確認し、ヒューズはずしでヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

●ヒューズはずしは、インパネヒューズボックス（202ページ）についています。

●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

●各ヒューズの受け持つ装置は主なものについて記載しています。

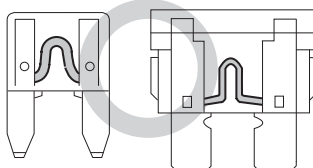
4 ヒューズが切れていたら、表（200～203ページ参照）、またはヒューズボックスの表示にしたがい規定容量のヒューズに交換します。

⚠ 注意

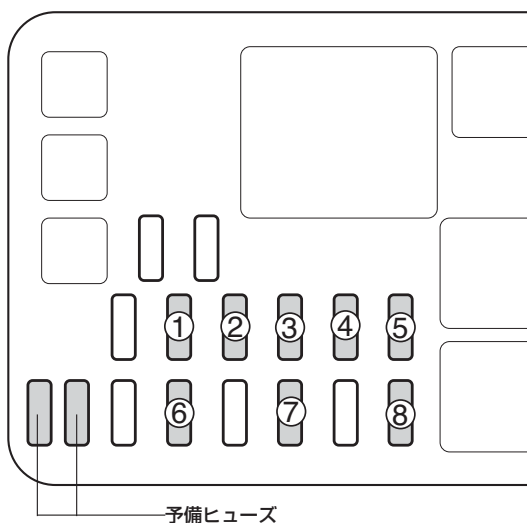
規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあります。

アドバイス

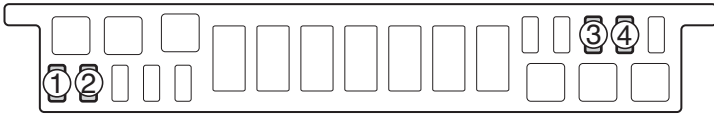
取り替えてもまたヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

5 ヒューズが切れていないとき、または交換してもライト類が点灯しないときは電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。

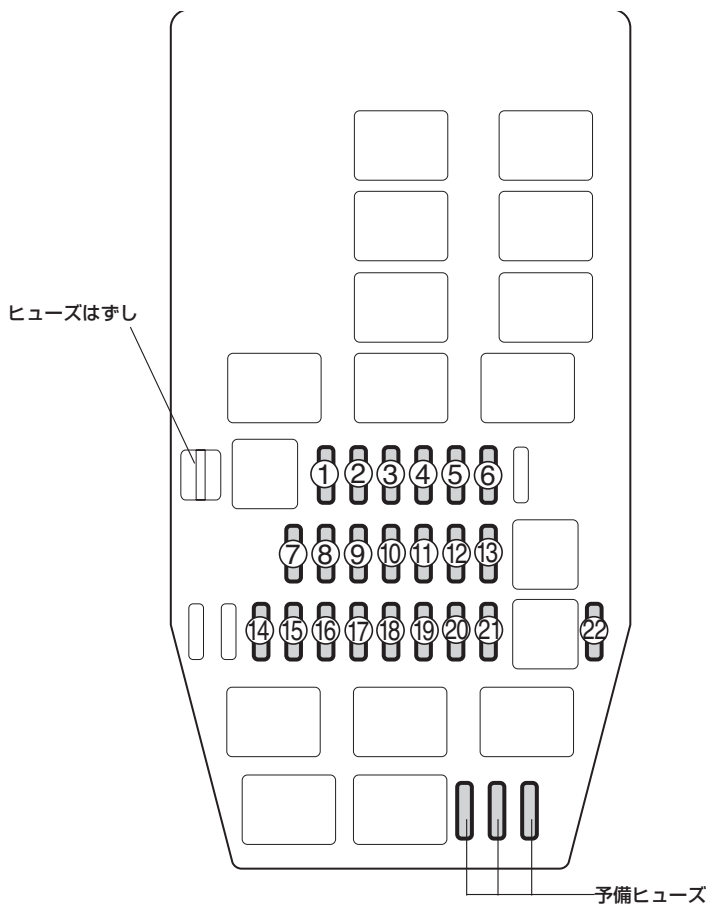
切れていない状態

6 それ以外の電気系統の装置が働かないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

《フロアヒューズボックスA》

ヒューズの受け持つ主な装置名称	アンペア数		ヒューズ名称
クーリングユニット（モーター）	15A 20A※	①	エアコンファンNO.1
クーリングユニット（モーター）	15A 20A※	②	エアコンファンNO.2
クーリングユニット（モーター）	15A 20A※	③	エアコンファンNO.3
コンデンサーユニット（モーター）	20A 30A※	④	コンデンサファンNO.1
コンデンサーユニット（モーター）	20A 30A※	⑤	コンデンサファンNO.2
ヒーター用ウォーターポンプモーター	10A	⑥	ウォーターポンプ
ABS	20A 30A※	⑦	ABS　SUB
リヤウインドゥデフォッガー	20A	⑧	デフォッガ

※ LPG車

《フロアヒューズボックスＢ》

ヒューズの受け持つ主な装置名称	アンペア数	ヒューズ名称	
ＥＤＵ（ディーゼル車）	15A	①	EDU
ＬＰＧインジェクター（ＬＰＧ車）			EFI
ＥＦＩ ＥＣＵ（ディーゼル車）	15A	②	ＥＣＤ
オルタネーター	7.5A	③	ALT-S
電動格納式補助ステップ ※1	15A	④	STEP
	30A※2		

※1 電動格納式補助ステップ付き車
※2 ＬＰＧ車

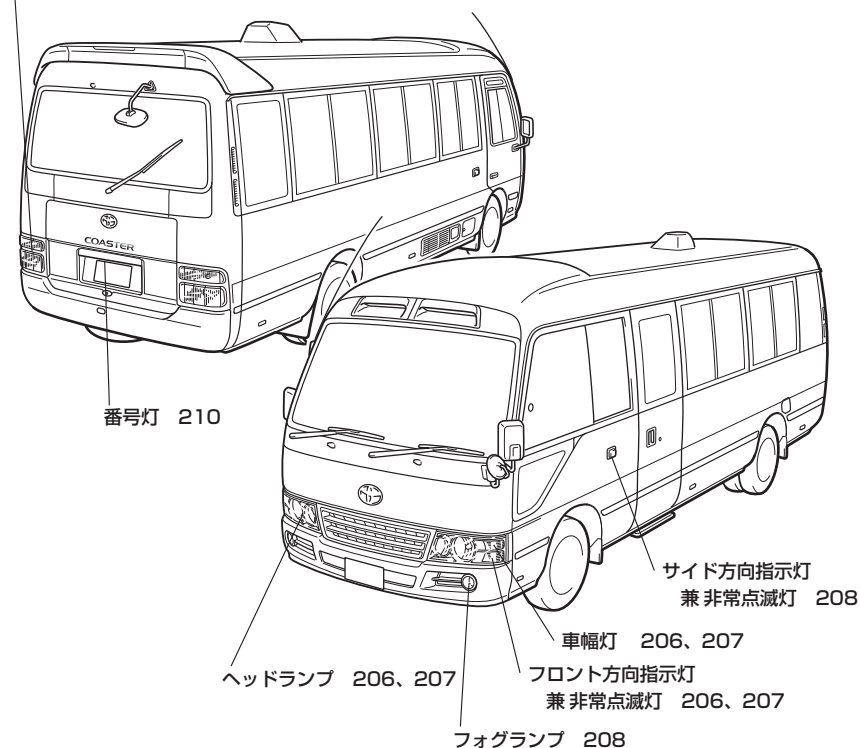
《インパネヒューズボックス》

ヒューズの受け持つ主な装置名称	アンペア数	ヒューズ名称	
ワイパー＆ウォッシャースイッチ	20A	①	WIPER ワイパ
オートドア、ＡＢＳ、ＥＦＩ オルタネータ	15A	②	ECU-IG
オートエアコン、マニュアルエアコン	15A	③	A.C エアコン
メーター、ヒーター、 後退灯、バックブザー	10A	④	GAUGE メータ

ヒューズの受け持つ主な装置名称	アンペア数	ヒューズ名称	
方向指示灯	10A	⑤	TURN ターン
ＤＶＤ／ＣＤプレーヤー	10A※1	⑥	TV テレビ
ミラーヒーター	15A※3	⑦	ＭＩＲ ＨＴＲ
ＯＢＤコネクター	7.5A	⑧	ＯＢＤⅡ
ECTコンピューター、エアサスコンピューター、ミラーコントロールリレー	7.5A※1 10A※2	⑨	ECU-B
室内灯、トランク灯、時計、オーディオ	10A※1 15A※2	⑩	DOME ルームランプ
ウーハーアンプ、パワーアンプ、オーディオ	15A※1	⑪	RADIO NO.2 ラジオ
ＡＢＳ ＥＣＵ、制動灯、ハイマウントストップランプ	15A	⑫	STOP ストップランプ
フォグランプ	15A	⑬	FOG フォグランプ
ヘッドランプ（左側）	15A	⑭	HEAD（ＬＨ） ヘッドランプ（左）
ヘッドランプ（右側）	15A	⑮	HEAD（ＲＨ） ヘッドランプ（右）
メーター	7.5A	⑯	MET-IGN メーター
非常点滅灯、ホーン	15A	⑰	HAZ-HORN ハザード・ホーン
シガレットライター、オーディオ、時計	15A	⑱	CIG-RADIO ライター・ラジオ
スイッチ照明、尾灯、車幅灯、センタードアステップランプ	15A	⑲	TAIL テールランプ
ＥＦＩコンピューター	10A	⑳	IGN イグニッション
ＥＦＩコンピューター、スターターリレー	7.5A	㉑	ST スタータ
ドアロック	20A	㉒	D/L ドアロック

※1 ディーゼル車
※2 ＬＰＧ車
※3 寒冷地仕様車

電球（バルブ）の交換

ここでは主な電球（バルブ）の交換方法を記載しています。記載されていない電球の交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。

⚠注意

●ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどするおそれがあります。

アドバイス

●必ず同じW数の電球を使用してください。(212ページ参照)
●電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。

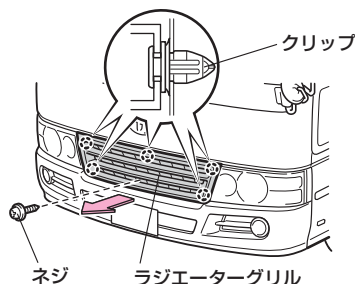
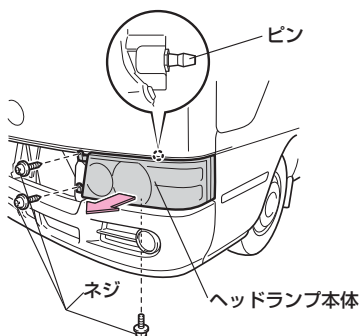
知識

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ヘッドランプ／フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯／車幅灯

<取りはずし方>

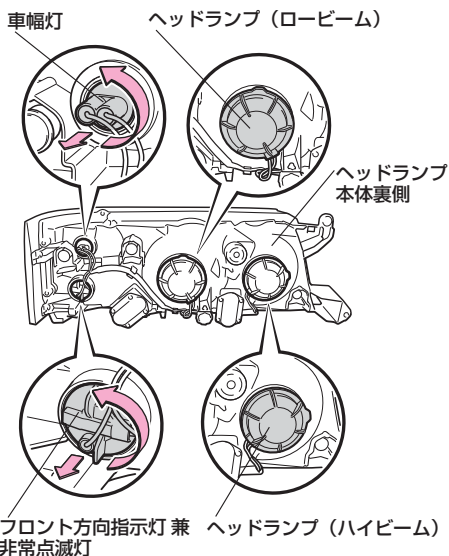
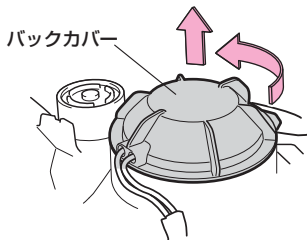
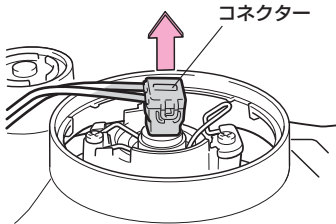
ヘッドランプ／フロント方向指示灯／車幅灯は、電球を交換するまえに1、2の作業を行ってください。

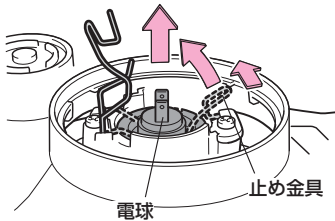
1 ネジ（1カ所）をまわしてはずしてから、クリップ（5カ所）のかん合をはずし、ラジエーターグリルを取りはずします。

2 ネジ（3カ所）をまわしてはずしてから、ピン（1カ所）のかん合をはずし、ヘッドランプ本体を取りはずします。

アドバイス

ネジをまわすときにヘッドランプの光軸調整用のネジをまわさないでください。ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあります。（102ページ参照）

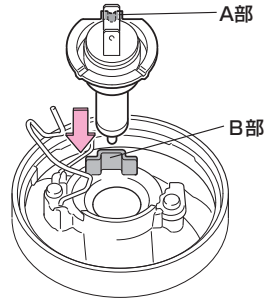
※図は助手席側で説明しています。

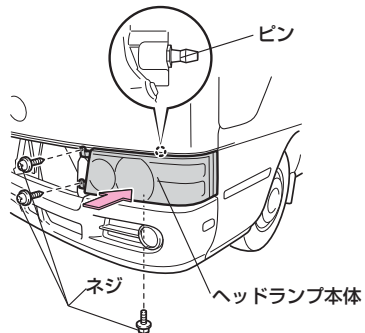
3 フロント方向指示灯または車幅灯は、ヘッドランプ本体裏側にあるソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

ヘッドランプは、手順4～6にしたがって、電球の交換作業を行います。

4 バックカバーを矢印の方向にまわして、取りはずします。

5 コネクターを取りはずします。

6 止め金具をはずし、電球を取り出します。

<取りつけ方>
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※図は助手席側で説明しています。

注意

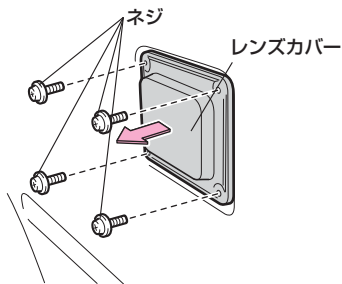
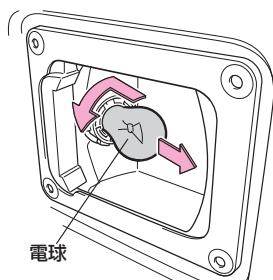
電球を取りつけるときは、図のように電球側のＡ部とヘッドランプ本体側のＢ部を合わせるようにして、差し込んでください。

<ヘッドランプ本体の取りつけ方>
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

●ヘッドランプ本体を取りつけるときは、図のようにピン（1カ所）をボデー側の取りつけ穴に確実に差し込んでください。

アドバイス

電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドランプの光軸の点検を受けてください。

■サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯

<取りはずし方>

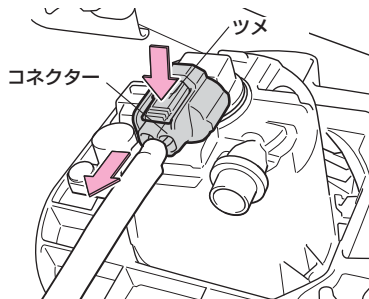
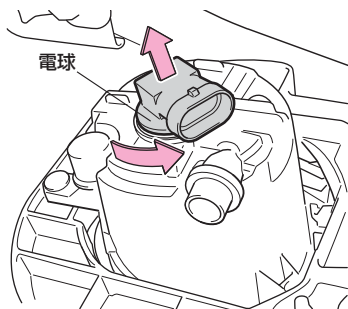
1 ネジ（4カ所）をまわしてはずし、レンズカバーを取りはずします。

2 電球をソケットから押しながらまわして、引き抜きます。

<取りつけ方>

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

■フォグランプ

フォグランプ装着車

<取りはずし方>

1 ツメを押して、コネクターを取りはずします。

2 電球を矢印の方向にまわして、取りはずします。

<取りつけ方>

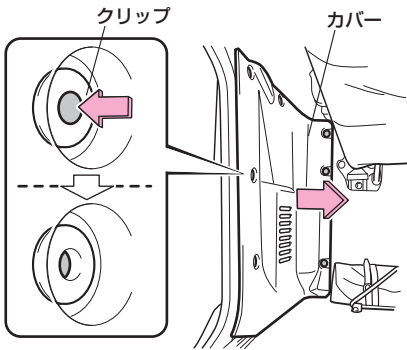
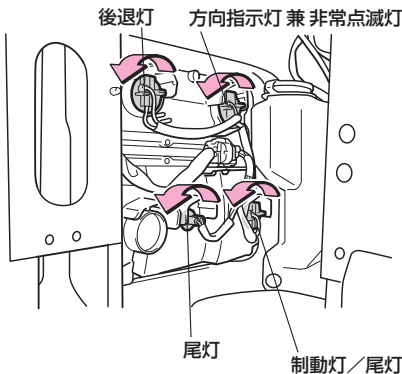
取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※図は助手席側で説明しています。

■リヤランプ

<取りはずし方>

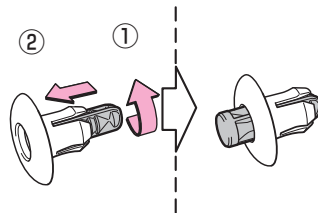
1 クリップ（7カ所）をはずし、カバーを取りはずします。

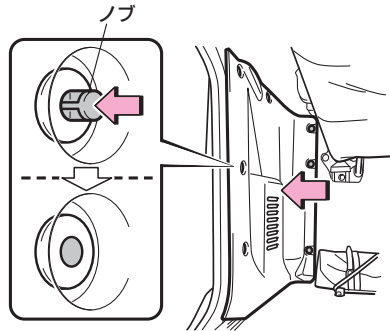
●クリップをはずすときは、中央（下図●部分）を押し込んでください。

2 本体からソケットをまわして取り出します。

3 尾灯以外は、電球をソケットから押しながらまわして、引き抜きます。
尾灯は、電球をソケットから引き抜きます。

<取りつけ方>

1 電球を取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

2 クリップを取りつける前に、クリップ中央部を引き出します。

●クリップ先端をねじりながら押し込むと、クリップ中央部が引き出せます。

3 カバーをもとの位置にもどして、クリップで固定します。

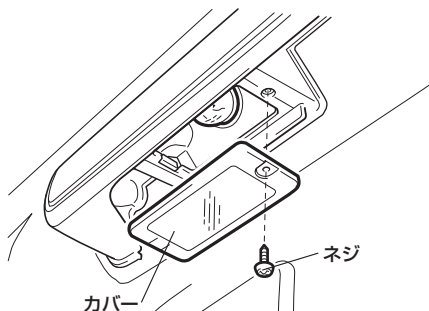
●クリップのノブを押し込み、カバーを確実に固定してください。

■番号灯

観音扉ドア

<取りはずし方>

1 ドライバーなどでネジをまわしてはずし、カバーを取りはずします。

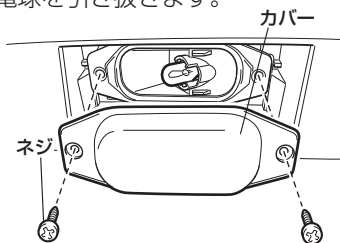
2 電球を押しながらまわして、引き抜きます。

<取りつけ方>

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

トランク

1 ドライバーなどでネジをまわしてはずし、カバーを取りはずします。

2 電球を引き抜きます。

<取りつけ方>

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

メンテナンスデータ

<table>
<tr><th colspan="3">項　　目</th><th colspan="3">メンテナンスデータ</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">ブレーキ
ペダル</td><td>遊び［mm］
（負圧なしの状態）</td><td colspan="3">1～6</td></tr>
<tr><td>踏み込んだときの
床板とのすき間［mm］
〔踏力490N｛50kg f｝〕
（エンジンＯＮの状態）</td><td colspan="3">45以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">クラッチ
ペダル</td><td>遊び［mm］</td><td colspan="3">10～25</td></tr>
<tr><td>クラッチが切れたときの床板と
のすき間［mm］※</td><td colspan="3">25以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">パーキング
ブレーキ</td><td>引きしろ［ノッチ］
〔操作力196N｛20kg f｝〕</td><td colspan="3">6～8</td></tr>
<tr><td rowspan="8">Vベルト</td><td rowspan="4">オルタ
ネーター</td><td rowspan="8">たわみ量［mm］
〔押力98N｛10kg f｝〕（冷間時）</td><td rowspan="2">ディー
ゼル車</td><td>新品時</td><td>9.5～11.5</td></tr>
<tr><td>点検時</td><td>14～17.5</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ＬＰＧ
車</td><td>新品時</td><td>12～16</td></tr>
<tr><td>点検時</td><td>14～19</td></tr>
<tr><td rowspan="4">エアコン
コンプレッ
サー</td><td rowspan="2">ディー
ゼル車</td><td>新品時</td><td>8.6～10.6</td></tr>
<tr><td>点検時</td><td>10.7～12.1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ＬＰＧ
車</td><td>新品時</td><td>9～11</td></tr>
<tr><td>点検時</td><td>11～15</td></tr>
</table>

※　クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ディーゼル車では、24V用のバルブを使用し、LPG車では12V用のバルブを使用してください。
(ただし、ディーゼル車のフォグランプは12V用のバルブを使用してください。)

項　　目	メンテナンスデータ W(ワット)数
電　　球	ヘッドランプ 　ディーゼル車(ロービーム／ハイビーム)……70W／70W 　LPG車(ロービーム／ハイビーム)……55W／55W フォグランプ★……55W フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯……21W 車幅灯……5W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯……21W 番号灯……5W 制動灯／尾灯……21／5W 尾灯……5W リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯……21W 後退灯……21W リヤホイール灯★ 　ディーゼル車……12W 　LPG車……10W 室内灯 　蛍光灯(ディーゼル車)……10W 　白熱灯 　　ディーゼル車……12W 　　LPG車……10W スポットランプ★……5W トランク灯★……5W ドアカーテシランプ……5W センタードアステップランプ 　ディーゼル車……3W 　LPG車……5W

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

冷却水・油脂類の容量と銘柄

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

<table>
<tr><th colspan="3">項　　目</th><th>容量［L］
（参考値）</th><th>指　定　銘　柄</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">ウォッシャータンク</td><td>フロント</td><td>2.7</td><td rowspan="2">——</td></tr>
<tr><td>リヤ</td><td>1.3</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">燃料（フューエルタンク）</td><td>ディーゼル車</td><td>95</td><td>超低硫黄軽油（S 10ppm以下）</td></tr>
<tr><td>ＬＰＧ車</td><td>122</td><td>ＬＰオートガス</td></tr>
<tr><td rowspan="3">冷却水</td><td rowspan="2">ディーゼル車</td><td>リヒート
機構なし</td><td>17.2
〈17.5〉
〔22.0〕</td><td rowspan="3">トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
●凍結保証温度
濃度30%　−12℃
濃度50%　−35℃
※寒冷地仕様車、ＬＰＧ車は174ページをご覧ください。</td></tr>
<tr><td>リヒート
機構付き</td><td>18.2
〈18.5〉
〔23.0〕</td></tr>
<tr><td colspan="2">ＬＰＧ車</td><td>18.0</td></tr>
</table>

※　〈　　〉は、寒冷地仕様車のパワーヒータースイッチなし車
　　〔　　〕は、寒冷地仕様車のパワーヒータースイッチ付き車

<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th>容量［L］
（参考値）</th><th>指　定　銘　柄</th></tr>
<tr><td colspan="2">オートマチックトランスミッションフルード</td><td>11.9</td><td>トヨタ純正
オートフルードタイプT−Ⅳ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">マニュアルトランスミッションオイル</td><td>ディーゼル車</td><td>3.0</td><td rowspan="2">トヨタ純正ＭＧギヤオイルスペシャルⅡ
（ＡＰＩ ＧＬ−3,
ＳＡＥ 75W−90）</td></tr>
<tr><td>ＬＰＧ車</td><td>3.2</td></tr>
<tr><td colspan="2">ディファレンシャルオイル</td><td>3.8</td><td>トヨタ純正ハイポイドギヤオイルＳＸ
（ＡＰＩ ＧＬ−5,
ＳＡＥ 85W−90）</td></tr>
<tr><td colspan="2">パワーステアリングフルード</td><td>1.5</td><td>トヨタ純正
パワーステアリングフルード</td></tr>
<tr><td colspan="2">クラッチフルード</td><td rowspan="2">——</td><td rowspan="2">トヨタ純正
ブレーキフルード2500H</td></tr>
<tr><td colspan="2">ブレーキフルード</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th colspan="2">容量［L］（参考値※1）</th><th>指　定　銘　柄</th></tr>
<tr><td rowspan="4">エンジンオイル</td><td rowspan="2">N04C－UP
N04C－VF
（ディーゼル車）</td><td>オイルのみ
交換時充てん量</td><td>6.3</td><td rowspan="2">トヨタ純正ディーゼルオイル
DH－2 10W－30
（JASO DH－2 ガイドライン）</td></tr>
<tr><td>オイルと
オイルフィルター
交換時充てん量</td><td>7.7</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1BZ－FPE
（LPG車）</td><td>オイルのみ
交換時充てん量</td><td>7.8</td><td rowspan="2">トヨタ純正モーターオイル
SM 5W-30 ※2
（API SM,EC/ILSAC
GF-4,SAE 5W-30）
トヨタ純正モーターオイル
SM 10W-30
（API SM,EC/ILSAC
GF-4,SAE 10W-30）
トヨタ純正モーターオイル
SL 10W-30
（API SL,EC SAE 10W-30）</td></tr>
<tr><td>オイルと
オイルフィルター
交換時充てん量</td><td>8.6</td></tr>
</table>

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル

ディーゼル車

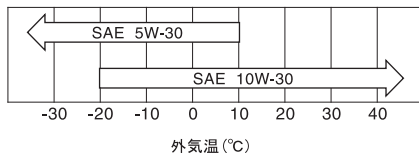
下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

ＬＰＧ車

ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣか、ＩＬＳＡＣ規格合格油をおすすめします。なお、ＩＬＳＡＣ規格合格油の缶にはＩＬＳＡＣ ＣＥＲＴＩＦＩＣＡＴＩＯＮ（イルサック サーティフィケーション）マークがついています。

ＡＰＩマーク

ＩＬＳＡＣ ＣＥＲＴＩＦＩＣＡＴＩＯＮマーク

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

■タイヤ空気圧

日常点検として必ずタイヤ空気圧を点検してください。（27ページ参照）
指定空気圧は、運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表をご覧ください。

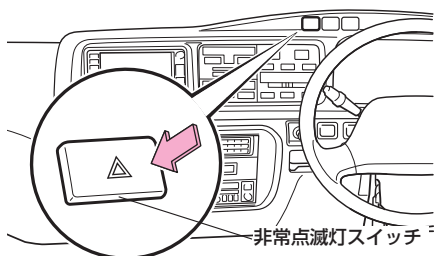
名称	車両形状	型式 （ボディタイプ）	エンジン	駆動方式	グレード
トヨタ コースター	バス （幼児車を除く）	ＸＺＢ40 （標準）	Ｎ04Ｃ－ＵＰ （4.0Ｌ ディーゼルターボ）	ＦＲ （後輪駆動）	デラックス
					ＬＸ
					ＧＸ
		ＸＺＢ50 （ロング）			ＬＸ
					ＧＸ
		ＸＺＢ51 （ロング）			ＥＸ
		ＸＺＢ50 （ロング）	Ｎ04Ｃ－ＶＦ （4.0Ｌ ディーゼルターボ）		ＧＸ
		ＸＺＢ51 （ロング）			ＥＸ
		ＢＺＢ40 （標準）	1ＢＺ－ＦＰＥ （4.1Ｌ ＬＰＧ）		ＬＸ
		ＢＺＢ50 （ロング）			

<table>
<tr><th>名称</th><th>車両形状</th><th>型式
(ボディタイプ)</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th><th>グレード</th></tr>
<tr><td rowspan="4">トヨタ
コースター</td><td rowspan="2">バス
(幼児車)</td><td>XZB40
(標準)</td><td rowspan="4">N04C−UP
(4.0L ディーゼルターボ)</td><td rowspan="4">FR
(後輪駆動)</td><td rowspan="2">クーラー付
幼児車</td></tr>
<tr><td>XZB50
(ロング)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">バン</td><td>XZB46V
(標準)</td><td rowspan="2">LX</td></tr>
<tr><td>XZB56V
(ロング)</td></tr>
</table>

7 万一のとき

路上で故障したときは

路上で故障したときは

●車を路肩に寄せ、非常点滅灯を点滅させます。
故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。メーター内の方向指示表示灯も点滅します。

●高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。
（法的にも義務づけられています。）

●緊急を要するときは発炎筒で合図します。
●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をご覧ください。

エンストで始動できなくなったときは

⚠注意

踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒を使用してください。

次の方法で安全な場所まで移動してください。
●付近に人がいるときは押してもらう。
（シフトレバーは🅝の位置で）
●マニュアル車はシフトレバーを❶（❷でもよい）または🅡の位置にして、クラッチペダルを踏まずにエンジン スイッチを“ ＳＴＡＲＴ ”の位置で保持すれば、緊急避難的に車を動かすことができます。
オートマチック車はできません。

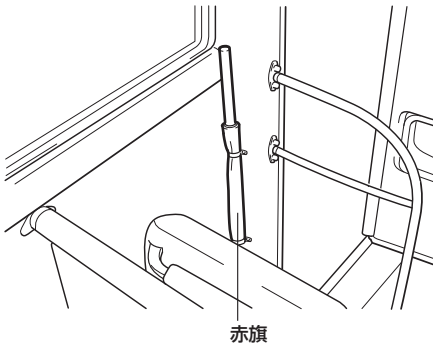
非常時に車内から脱出するときは

幼児車では

■非常ドア

万一の場合は非常ドアを使用して、車内および車外へ出はいりすることができます。
非常ドアの開閉のしかたは81ページの**「非常ドア」**を参照してください。

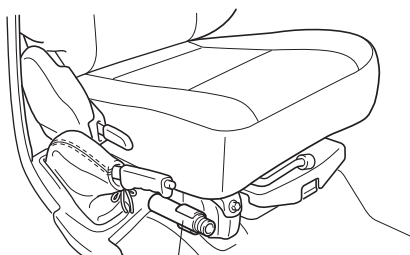
■赤旗（レッドフラッグ）

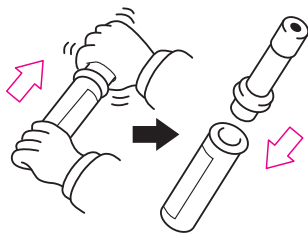
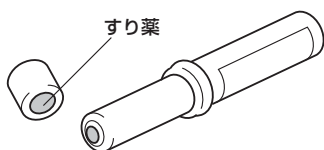
緊急時や交通量が多い場所での幼児の乗りおりに使用します。
●センタードアのうしろ側にあります。

発炎筒、消火器、工具、スペアタイヤの取り扱い

発炎筒

●発炎時間は約5分間ですので非常点滅灯を併用してください。
●発炎筒には有効期間があります。
本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

■格納場所

運転席足元にあります。

■発炎筒の使い方

1 本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。

2 キャップの頭部のすり薬でこすると着火します。

⚠警告

●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒をガソリンなどの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

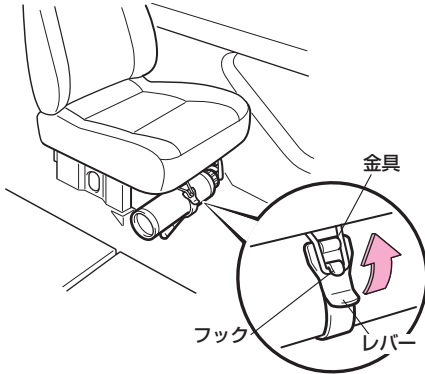
発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

消火器

■格納場所

バス（幼児車を除く）

助手席足元にあります。

バス（幼児車）

運転席ガード前部にあります。

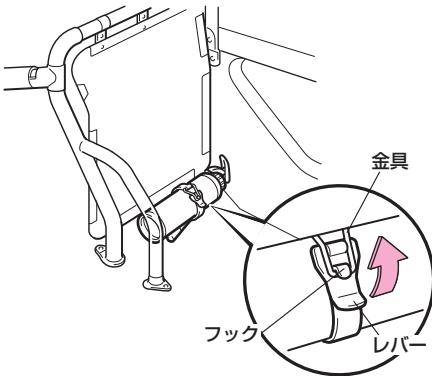
■消火器の取り出し方

レバーを引いて、金具をフックからはずします。

使用方法は消火器のラベルに表示してあります。

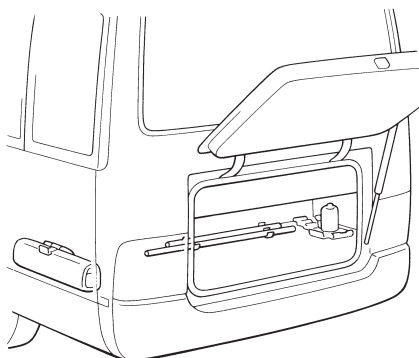
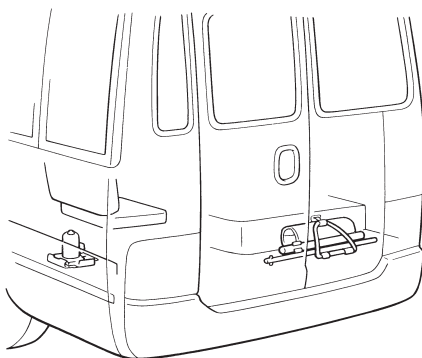
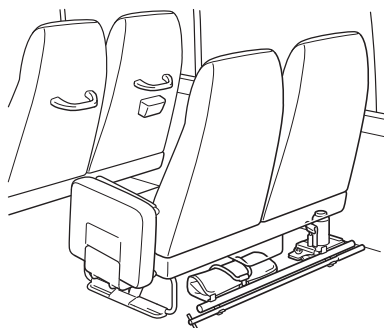
よく読んで万一に備えてください。

 知 識

有効期限が記載されていますので、期限が過ぎる前に交換してください。

工具、ジャッキの取り扱い

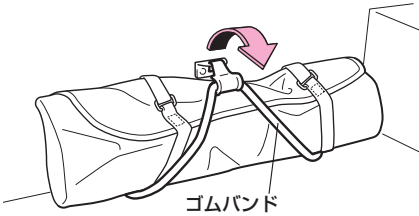
■格納場所

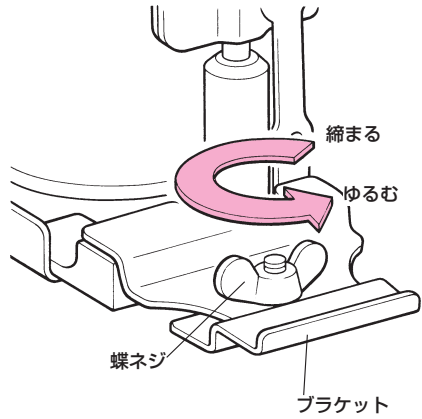
工具・工具袋とジャッキは下記の位置にあります。

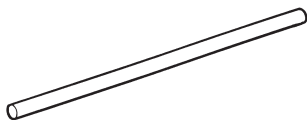
バス（幼児車を除く）

バス（幼児車）

バン

⚠注意

- ●搭載工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ●車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。
- ●車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

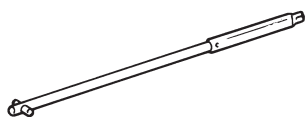
■工具袋の取り出し方

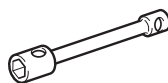
ゴムバンドをはずして、工具袋を取り出します。

■ジャッキの取り出し方

蝶ネジをゆるめてはずします。

格納するときは、ブラケットにかみ合わせて蝶ネジを締めます。

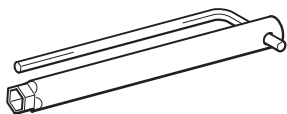
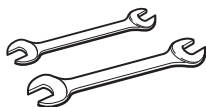
■工具

工具袋の中には以下のものがはいっています。

ホイールナットレンチバー

ジャッキハンドルバー

輪止め（2個）

ホイールナットレンチ

スペアタイヤ格納用ハンドル

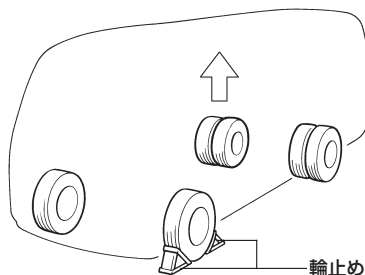
●以下のものはＬＰＧ車のみはいっています。

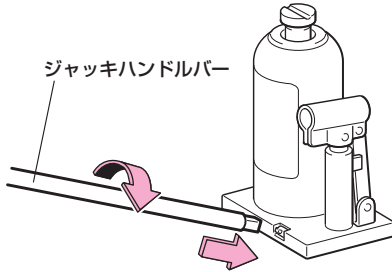
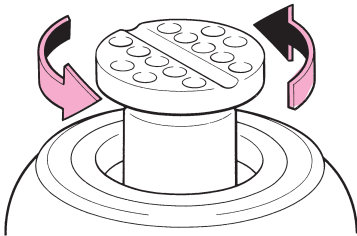
プラグレンチ

スパナ（2本）

■ジャッキアップするまえに

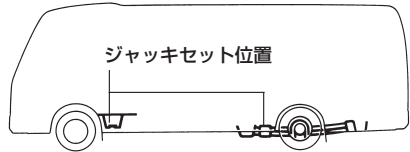
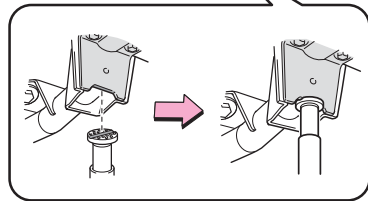
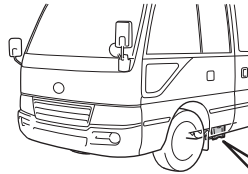
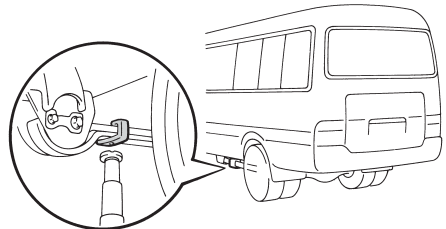
1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。
2. パーキングブレーキをしっかりかけます。
3. マニュアル車は、エンジンを止め、シフトレバーをⓇの位置にします。オートマチック車はシフトレバーをⓅの位置にし、エンジンを止めます。
4. 必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。
5. 輪止め、ジャッキ、ジャッキハンドルバーを用意します。（226、228ページ参照）

■車体を持ち上げるときは

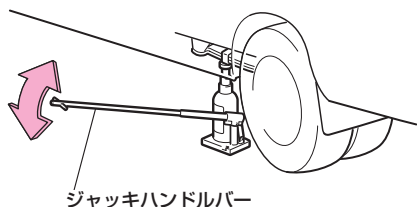
1. ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

●前輪を持ち上げるときは後輪の前後に、後輪を持ち上げるときは前輪の前後に輪止めをします。（図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。）

2. 地面の平らな固くて安定したところにジャッキを置きます。

3 ジャッキハンドルバーをジャッキの下図の位置に差し込み、右にいっぱいにまわします。

4 ジャッキ頭部を手で左にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。

5 ジャッキをジャッキセット位置にかけます。

●ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

■フロント

■リヤ

知識

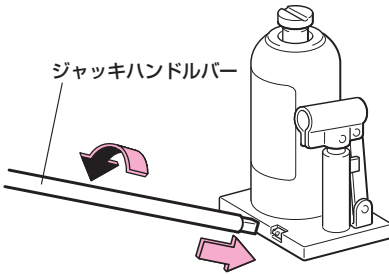
4輪エアサスペンション装着車はジャッキセット位置にジャッキを挿入できないとき、一度エンジンをかけ約2～3分後にエンジンを停止してから挿入してください。

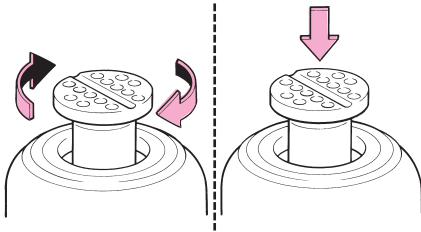
6 ジャッキハンドルバーをジャッキの下図の位置に差し込み、上下に動かしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしているときはエンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。
- ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
- 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身や周りの人が手や足などを挟み、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分に注意しながら作業をしてください。
- 4輪エアサスペンション装着車はジャッキアップ時、必ずエンジンを止めてください。エンジン スイッチを“ON”の位置のままにしておくと、車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車体をおろすときは

1 ジャッキハンドルバーをジャッキの下図の位置に差し込み、左にいっぱいにまわします。

2 ジャッキをななめにして、取り出します。

3 ジャッキ頭部を手で右にまわしてねじ込んでから、手で押しておろします。

スペアタイヤ

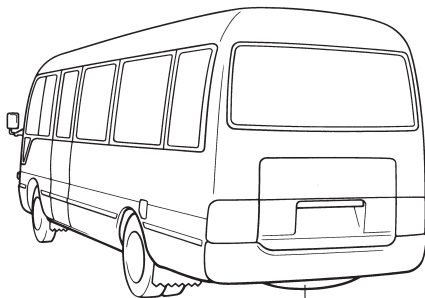
⚠注意

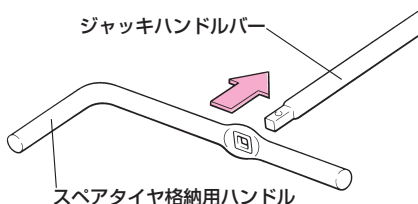
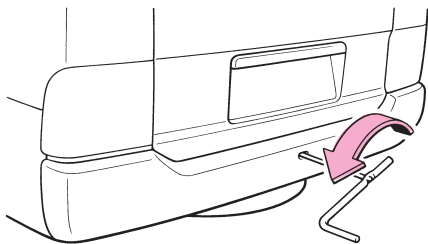
●必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたドア側に貼られている「タイヤ空気圧」の表で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
●スペアタイヤを格納したときは、タイヤが確実に固定されたことを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。
●スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしてください。
●格納具からスペアタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないようにゆっくりとおろしてください。足などを挟みけがをするおそれがあります。

知識

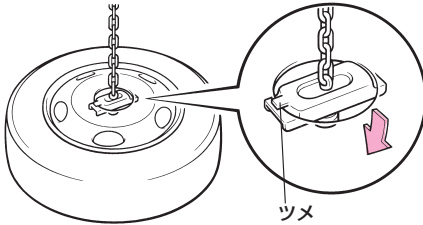
アルミホイール装着車では、前後のタイヤにそれぞれ専用の塗装が施されています。アルミホイール装着車には前輪用スペアタイヤが搭載されており、このタイヤを応急用として後輪に取りつけることはできますが、できるだけ早く正しいサイズのタイヤと交換してください。

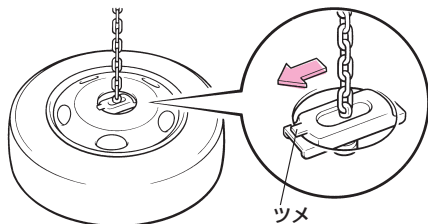
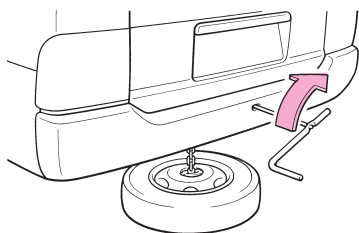
■格納場所

トランク下にあります。

■取り出し方

1 ジャッキハンドルバーをスペアタイヤ格納用ハンドルの穴部に確実に差し込みます。

2 ジャッキハンドルバーをスペアタイヤ格納具の穴部に差し込みます。

3 スペアタイヤ格納用ハンドルを左にまわしてスペアタイヤをおろします。

4 格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろします。

5 アンカープレートのツメをスペアタイヤの穴部からはずして、スペアタイヤを取り出します。

■格納するときは

1 アンカープレートのツメをスペアタイヤの穴部に取りつけます。

2 ジャッキハンドルバーをスペアタイヤ格納具の穴部に差し込みます。

3 スペアタイヤ格納用ハンドルを右にまわしてスペアタイヤを巻き上げます。

- ●タイヤが地面から離れたときに、アンカープレートのツメがスペアタイヤの穴部に確実に取りつけられていることを確認してください。
- ●タイヤをいっぱいまで巻き上げたあと十分に締めつけ、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。その後、ジャッキハンドルバーを逆方向へ動かさずに抜いてください。

タイヤを交換するときは

タイヤ交換をするまえに

⚠警告

●ディスクホイール取りつけボルト、ナットおよびストップボルトのネジ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。つぶれやき裂などの異常があると、ナットやストップボルトを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ナットを取りつけるときは、必ずテーパー部を内側にして取りつけてください。(39ページ参照)

⚠注意

●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。(39ページ参照)

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。(27ページ参照)

アドバイス

傷、変形があるディスクホイール・ホイール取りつけナットなどは使用しないでください。

1 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 マニュアル車はエンジンを止め、シフトレバーをⓇの位置にします。オートマチック車はシフトレバーをⓅの位置にし、エンジンを止めます。

4 必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板(または停止表示灯)を使用します。

5 輪止め、ホイールナットレンチ、ホイールナットレンチバー、ジャッキ、ジャッキハンドルバーを用意します。(226ページ参照)

6 必要により、スペアタイヤを用意します。

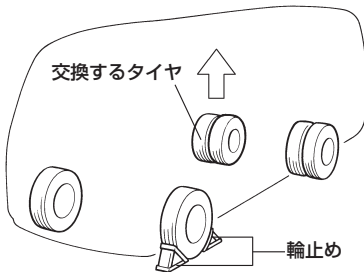
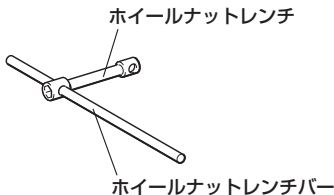
タイヤ交換

リヤホイール灯★

ライトスイッチをＯＮの位置にすると、点灯します。

タイヤを取りはずすときは

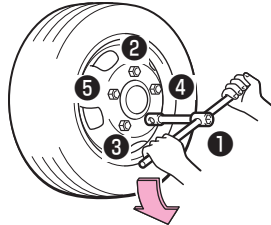
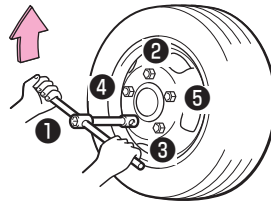
1 交換するタイヤと対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

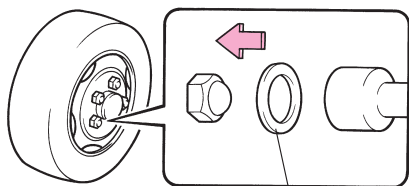
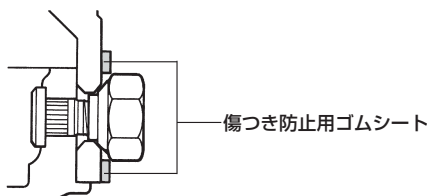
●前輪を持ち上げるときは後輪の前後に、後輪を持ち上げるときは前輪の前後に輪止めをします。

2 ホイールナットレンチバーをホイールナットレンチの穴部に確実に差し込みます。

●フロントタイヤ・リヤ外側タイヤを交換するときは六角側を、リヤ内側タイヤを交換するときは四角側を使用します。

3 ホイールナットレンチの六角部（ホイール取りつけナット用）を使用して、図の順序でホイール取りつけナットを右側タイヤは左に、左側タイヤは右にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

右側タイヤ

左側タイヤ

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

●アルミホイール装着車のフロントタイヤは、ホイール取りつけナットをゆるめる前に、必ず傷つき防止用ゴムシート（運転席ドアボックスに収納してあります。）をナットに取りつけてください。

断面図

4 リヤ内側タイヤを取りはずす場合は、ホイールナットレンチの四角部（ストップボルト用）を使用して、ホイール取りつけナットをはずす場合と同じ順序でストップボルトを右側タイヤは左に、左側タイヤは右にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

5 交換するタイヤに近いジャッキセット位置にジャッキをセットし、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。（230ページ参照）

6 手でホイール取りつけナットを右側タイヤは左に、左側タイヤは右にまわして、取りはずします。

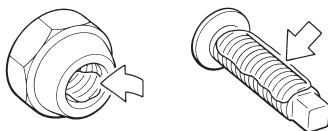
7 タイヤを取りはずします。

●アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。

8 リヤ内側タイヤを取りはずす場合は、リヤ外側タイヤを取りはずしたあと、手でストップボルトを右側タイヤは左に、左側タイヤは右にまわして、取りはずし、タイヤを取りはずします。

タイヤを取りつけるときは

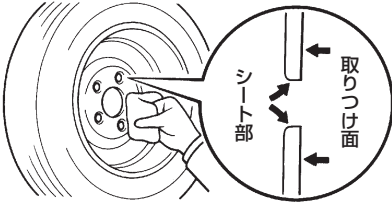
■タイヤを取りつけるまえに

1 ホイール取りつけナット、およびストップボルトのネジ部にエンジンオイルを塗布します。

⚠注意

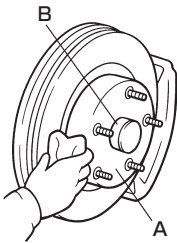
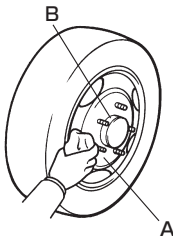
タイヤを取りつけるときは、ホイール取りつけナット、およびストップボルトのネジ部にエンジンオイルを塗布してください。塗布しないと、ナットを締めつけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

エンジンオイルはネジ部以外に付着すると締めつけるとき工具がすべるなど作業性が悪くなります。

2 ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取りつけ面のよごれをふき取ります。

⚠注意

ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取りつけ面がほこりなどでよごれていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

3 図のA・B面のよごれをふき取ります。

●ホイール取りつけナット、ストップボルトには右側用と左側用があります。間違えないように取りつけてください。

		右側用	左側用
フロント	ホイール取りつけナット		
リヤ	ホイール取りつけナット	（金色）	（銀色）
	ストップボルト		

■タイヤを取りつけるときは

1 リヤ内側タイヤを取りはずした場合は、リヤ内側タイヤを取りつけます。

●アルミホイールは、**■タイヤを取りつけるまえに**3のBの部分（241ページ）に確実にはめ込みます。

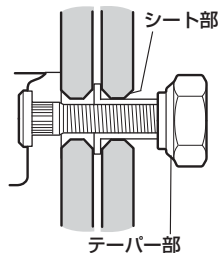
2 リヤ内側タイヤを取りつける場合は、手でストップボルトを右側タイヤは右に、左側タイヤは左にまわして、仮締めします。

3 タイヤを取りつけます。

●アルミホイールは、前ページの**■タイヤを取りつけるまえに**3のBの部分に確実にはめ込みます。

●リヤ外側タイヤは、リヤ内側タイヤのバルブ（空気口）が見える位置になるように取りつけます。

4 タイヤががたつかない程度まで、手でホイール取りつけナットを右側タイヤは右に、左側タイヤは左にまわしまわして、仮締めします。

●ホイール取りつけナットのテーパー部がディスクホイールのシート部に軽く当たるまでまわします。

アドバイス

アルミホイール装着車のフロントタイヤは、ホイール取りつけナットを取りつける前に、必ず傷つき防止用ゴムシートをナットに取りつけてください。（240ページ参照）

知 識

アルミホイール装着車にスチールホイールを装着することはできません。

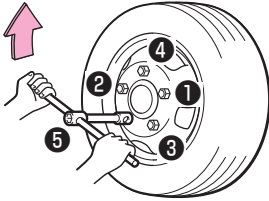
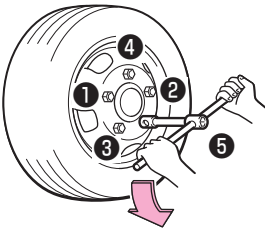
5 車体をおろします。

6 ホイールナットレンチの四角部（ストップボルト用）を使用して、ホイール取りつけナットを取りつける場合と同じ順序（次ページ参照）でストップボルトを右側タイヤは右に、左側タイヤは左にまわし、2〜3度にわたり十分締めつけます。

●リヤ外側タイヤのみを取りつけるときも、リヤ内側タイヤのストップボルトを締めつけてください。

7 ホイールナットレンチの六角部（ホイール取りつけナット用）を使用して、図の順序でホイール取りつけナットを右側タイヤは右に、左側タイヤは左にまわし、2～3度にわたり十分締めつけます。

締めつけトルク：
約515N・m ｛5250kgｆ・cm｝

右側タイヤ

左側タイヤ

⚠注意

- ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- ホイールナットレンチをパイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- ディスクホイールやストップボルトおよびホイール取りつけナット交換後、またはタイヤローテーション後は、初期なじみにより締めつけトルクが低下することがあります。
  約50～100km走行後、規定の締めつけトルクでホイール取りつけナットの増し締めを行ってください。
- タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットおよびストップボルトを使用してください。

8 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。

9 タイヤ空気圧を点検します。
（27ページ参照）

アドバイス

走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でディスクホイールのバランスの点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは

こんな状態が、オーバーヒートです。
●水温計の針がレッドゾーンにはいったり、エンジンの出力が低下する。
●車両下側から蒸気が立ちのぼる。

警告

●車両下側から蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。エンジン点検口を開けるときは十分注意してください。
●ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

■処置のしかた

1 車を安全な場所に止めます。エアコンを使用しているときは、ＯＦＦにします。

2 まず車両下側から蒸気が出ているかどうか確認します。

〈車両下側から蒸気が出ていない場合〉
エンジン点検口を開けてそのままエンジンをかけておきます。

〈車両下側から蒸気が出ている場合〉
エンジンを止めます。
蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにエンジン点検口を開けエンジンをかけます。

3 ラジエーター冷却用のファンが作動していることを確認してください。万一、ファンが作動していないときはただちにエンジンを止めてトヨタ販売店に連絡してください。

4 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部（放熱部）の著しいよごれ、ごみの付着の有無などを点検します。

5 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

冷却水は、エンジンが熱いときにいれないでください。急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりといれてください。

6 早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水漏れがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は**「メンテナンスノート」**をご覧ください。

バッテリーがあがったときは

こんな状態が、バッテリーあがりです。

●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。

●ヘッドランプがいつもより暗い。

●ホーンの音が小さい。または鳴らない。

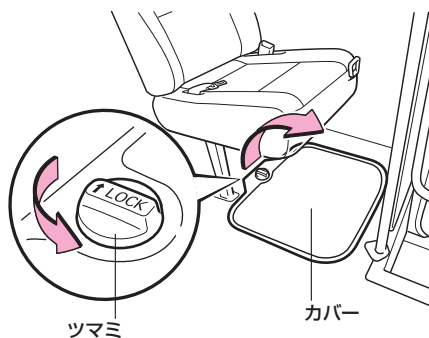
■処置のしかた

安全のため押しがけによる始動はしないでください。また、オートマチック車は押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーはディーゼル車では24Ｖを使用し、ＬＰＧ車では12Ｖを使用してください。

●ディーゼル車のバッテリーはセンタードア後部、ＬＰＧ車のバッテリーは通路中央にあります。

1 ツマミを左にまわしてロックをはずし、カバーをはずします。

●ＬＰＧ車はツマミの凹み部にコインなどを差し込んでまわすと、楽にロックをはずせます。

ディーゼル車

ＬＰＧ車

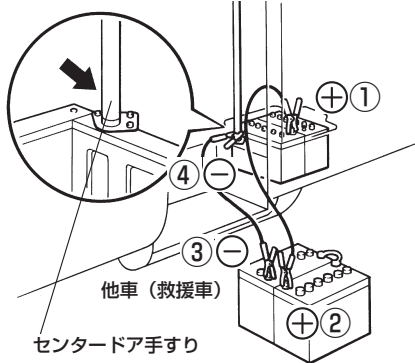
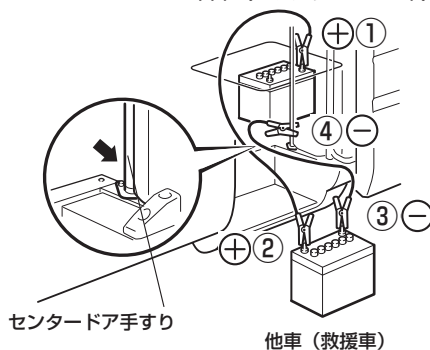
2 バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

①自車のバッテリーの⊕端子

②救援車のバッテリーの⊕端子

③救援車のバッテリーの⊖端子

④図で指示の箇所（アースをとる）

ディーゼル車

ＬＰＧ車

⚠ 警告

- ④の接続は自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生しバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
- ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
- 火気をバッテリーに近づけないでください。爆発するおそれがあり危険です。

3 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

4 この状態のまま、自車のエンジンをかけます。

⚠ 警告

- 充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮ふにつくと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受けてください。

5 ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

6 早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

バッテリーがあがりやすい場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止させたままライトをつけたり、ラジオ、ＣＤなどを聞かないようにしましょう。

●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切りましょう。

アドバイス

●ディーゼル車では、バッテリーの交換は必ず左右ペアで、同一メーカー、同一型式のバッテリーを使用してください。

●バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

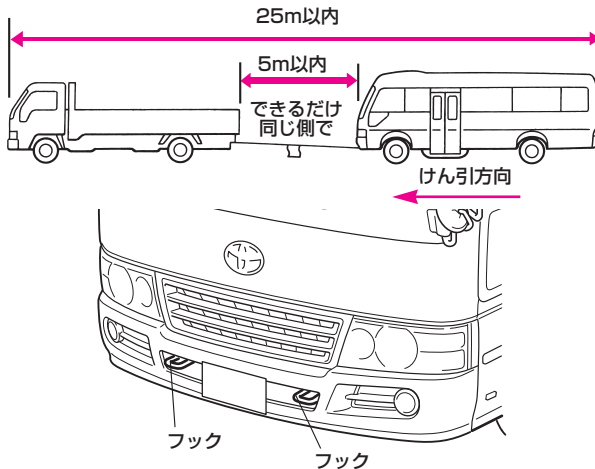
知識

長期間の駐車などでバッテリーの⊖端子をはずす場合は、必ず両方のバッテリーの⊖端子をはずしてください。

けん引について

このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。
けん引はできるだけトヨタ販売店またはＪＡＦなどに依頼してください。
とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。
●エンジンがまわっているのに車が動かない。
●異常な音がする。

他車にけん引してもらうときは

1 ボディに傷をつけないようにしてロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。

2 エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”の位置にします。

3 シフトレバーを🅝の位置にします。

4 パーキングブレーキを解除します。

5 けん引ロープをたるませないようにし前の車の制動灯に注意してください。

⚠警告

けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。
また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり重大な傷害を生じるおそれがあり危険です。

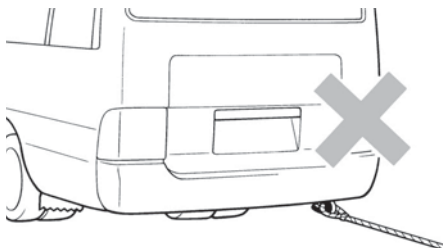
⚠注意

●エンジンキーを抜いたり、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”の位置にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。また、エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”の位置だとキーが抜けるおそれがあります。
●4輪エアサスペンション装着車は、レッカー車などで車両を持ち上げてけん引されるとき、必ずエンジンを止めてください。エンジン スイッチを“ ＯＮ ”の位置のままにしておくと、車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあります。
●長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると事故につながるおそれがあります。

アドバイス

●オートマチック車の場合、けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。
●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。

トランスポートフックについて

このフックはトランスポートフックです。
このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対に使用しないでください。
けん引用として使用すると車両を損傷するおそれがあります。
この車で他車をけん引することはできません。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください。

1 続発事故を防止します。
ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。

2 負傷者の救護をします。

3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名、住所、電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

車両を緊急停止するには

■緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

●ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーをⓃにいれます。

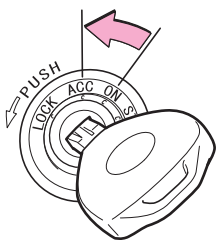
〈シフトレバーがⓃにはいった場合〉

3 減速後、車を安全な道路脇に停めます。

4 エンジンを停止します。

〈シフトレバーがⓃにはいらない場合〉

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

4 エンジンスイッチを“ＡＣＣ”にして、エンジンを停止します。

5 車を安全な道路脇に停めます。

⚠警告

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■さくいん

文字さくいん

■50音順

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

ク

ケ

コ

サ

シ

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ニ

ネ

ハ

ヒ

フ

ホ

マ

ミ

メ

ユ

ヨ

ラ

リ

ル

レ

ロ

ワ

警告灯、警告音さくいん

警告灯さくいん

警告音さくいん

症状別さくいん

症状別さくいん